

UFO・超能力・宇宙哲学

UFO contactee

SINCE 1961
GAP-JAPAN NEWSLETTER



UFO・ESP・Cosmic Philosophy

コンタクティー

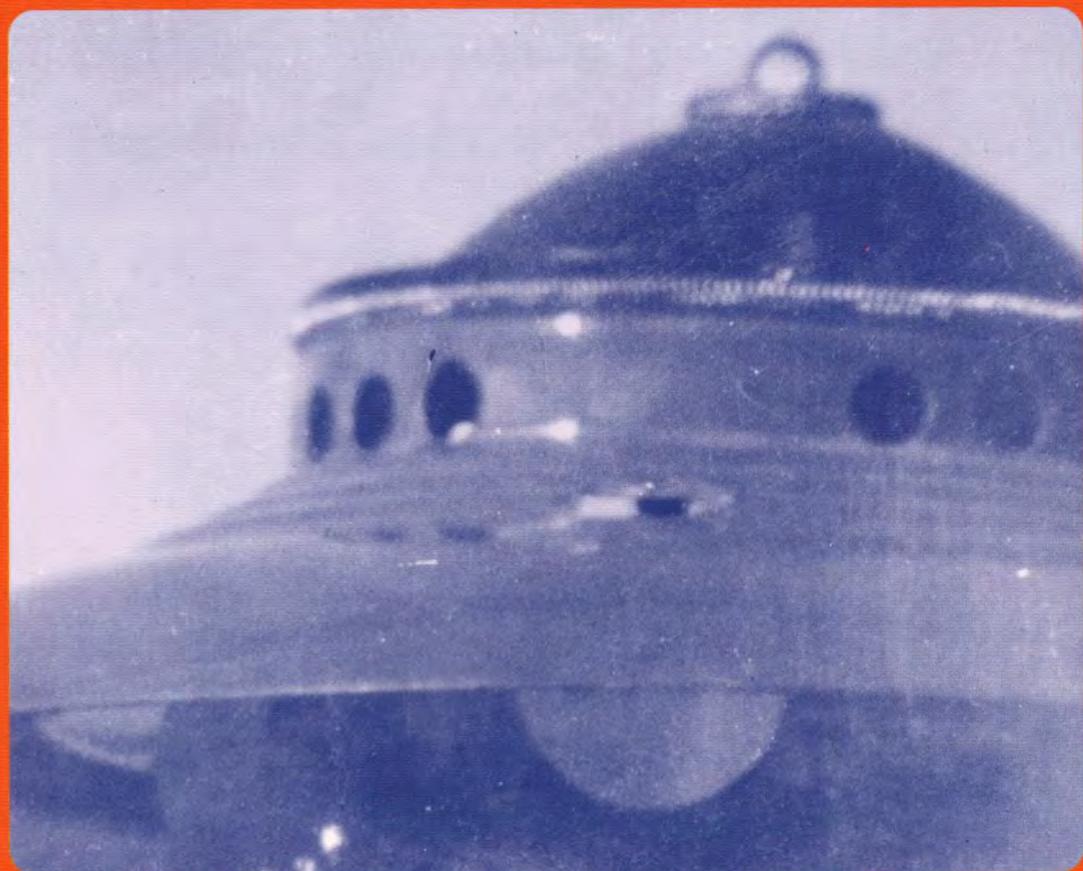
SPRING
1999

144

火星における異星人の活動

UFO、葛西臨海公園上空に出現！
異星人の壮大なスペース・プログラム(3)
宇宙論とアダムスキーの理解のために
ホワイトサンズUFO搭乗事件(5)

宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(7)



〈巻頭言〉視点の相違	1
火星における異星人の活動	ダニエル・ロス 2
UFO、葛西臨海公園上空に出現!	9
〈写真〉葛西臨海公園上空のUFO	久保田八郎 12
〈写真〉葛西臨海公園上空のUFO(2)	加藤 純一 12
〈写真〉UFO、またも臨海公園駅上空に出現	// 13
UFO目撃者の声(1)	14
UFO目撃日記(6)	加藤 純一 16
異星人の壮大なスペース・プログラム(3)	平田 泰介 18
宇宙論とアダムスキーの理解のために	小山 洋一 23
GAP短信	26
科学—SCIENCE	27
謎の男ウィリアムソン(完)	ミッシェル・ジルガー 30
私が目標とする宇宙への道(4)	渡辺 康英 31
ホワイトサンズUFO搭乗事件(5)	ダニエル・フライ 32
〈写真〉アリゾナ州のコマ型UFO	37
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(7)	G・アダムスキー 38
宇宙哲学で奇跡的に婦人病が治った私	E・N 43
第7回秋田支部大会、盛況	44
〈予告〉第1回埼玉支部大会	45
本誌バックナンバー主要記事目録	46
〈予告〉第2回福山支部大会	47
〈投稿欄〉ユーコン広場	48
編集後記	51
日本GAP全国月例セミナー案内	52

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基いて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コスミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界(惑星)から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題に関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米・他の大國政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト(接触)しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

日本GAPへ入りませんか

●日本GAPはわが国最大のUFOと宇宙哲学の会員制団体です。会員は約1600名。世界でもトップクラスの研究集団として、国際的なUFO団体や個人研究者と交流を保っています。

●東京本部と地方の16支部は毎月、月例セミナーを開催し、UFO問題や宇宙哲学について研鑽しており、UFO観測会その他の会合を開催して活動しています。

●東京では毎月第1日曜日に港区東京タワー前の機械振興会館で月例セミナーを開催。わが国のUFOと宇宙哲学研究の大先駆者・久保田八郎会長の解説講演、超能力開発練習、UFOビデオ映写、その他を実施。宇宙的な波動のもとに真面目に研究し、品格のある楽しい雰囲気満ちています。

●入会は中学生以上なら誰でもできます。下記へハガキで案内書をお申し込み下されば、お送りいたします。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
日本GAP ☎03-3651-0958

〈表紙写真〉

1952年12月13日午前9時10分頃、米カリフォルニア州パロマー山腹に住んでいたUFO研究者ジョージ・アダムスキーが8インチ反射望遠鏡で撮影した金星の小型宇宙船。詳細は新アダムスキー全集第1巻「第2惑星からの地球訪問者」に述べてある。

〈巻頭言〉
視点の相違



昨年九月三日、NASA（米航空宇宙局）が発表したところによると、地球の衛星である月の両極には六〇億トンもの氷が存在することを突き止めたという。これはアメリカの月探査機ルナプロスペクターが探知したデータの解析による結果、判明したもので、これを水に換算すると日本の琵琶湖の全水量の四分の一に相当するという驚くべき実情が表面化したことになる。水が存在するならば当然水もあるはずで、さらに希薄ながらも空気もあるだろう。アポロ飛行士が月面に旗を立て

るときに風ではためく場面がビデオに写っていたのは周知の事実である。これで思い出すのはむかし書店に出ている天文学の大著である。月の項目を見ると、月は水も空気もない死の世界であり、地表はコンクリートのような固い岩盤であるとされていた。しかしアポロ計画による米宇宙飛行士達の月着陸の結果、月の地表は全くの砂地であって、しかも水分を帯びた湿地帯のような地層らしく、飛行士達の靴の跡がイヤというほど鮮明に残っている写真が多数公開された。前期の

天文学書の著者は当時の高名な学者であったが、現在も健在ならば、気の毒な結果に終わった著者の心中は察するにあまりある。

この天文学者に罪はない。月探査機のなかった時代に望遠鏡による観測で万象が解決できると信じ込んでいたからだ。かつて日本GAP会員であった一青年が天文学の世界に憧れて、ある天文台へ就職したけれども、ここではUFO問題を語ることは厳禁されており、我らの太陽系の別な惑星群に大明が存在するというアダムスキーの説に同調してしゃべろうものなら文句なしに解雇されると語ったという。

これからみれば、冥王星を発見した大天文学者クライド・トンボー博士が「自分はUFOを見た」と堂々と公言するようなアメリカにはケタはずれの進歩的雰囲気があるようだ。しかもトンボー博士は、火星には進歩した人類が存在すると唱えた名高いアマチュアの火星観測専門天文学者パーシバル・ローウェルが私財を投じて建設した一〇七センチの反射望遠鏡で観測して偉業を成しとげたのである。

一方、日本の別な高名な天文学者がUFOをどう思うかと聞かれて「あんなものは子供のたわごとだ」と答えたという実話を十数年前に質問者から聞いたことがある。日米の学者の視点の相違には進化した異星人と地球人ほどの隔絶があるようだ。

わが国のこうした地盤の醸成は学問の世界が官主導型であることに起因するようだ。学問の世界には何といつてもまず自由が存在しなければならぬ。そのためには研究テーマが第三者から束縛されてはならない。誰がどのようなテーマを選ぼうと本人の全くの自由であって、学界の高位の人による批判や干渉などを恐れてはならない。かつて筑波大学の学長であった江崎博士は学生達に「まず仮説を立てることだ。それが間違った結果になっても気にするな」という意味の訓示をされたというが、世界的な大学者は視点が違うことを如実に示していた。UFO問題をいまだに嘲笑する風潮が学会にただよっているけれども、実はひそかにアダムスキーの書物を読んで熱を入れている高名な学者先生や文人芸能人も少数存在する事実を編者は知っている。ただしこの人達は公然とは語らない。社会的地位の喪失を危惧して黙しているのである。これはやむを得ないことだ。

一九三〇年代を嚆矢とするドイツのペーネミュンデ研究所の第二次ロケット開発時代に活躍してロケット開発の父と謳われたヘルマン・オーベルト博士は戦後アメリカへ渡って指導を続けたが、彼はアダムスキーと交友があり、「我々の科学技術の開発には別な惑星から来ている人達の援助があるんだ」と語っていたという。またケネディー

大統領はアダムスキーのコンタクトを徹底的に支持して、米国内に滞空した土星の母船にアダムスキーと共に乗り込んで長老から話を聞いているし、またケネディーは全米の軍事基地へ自由に入り出来る特殊な許可証をアダムスキーに与えていた。この件はむかし編者がアリス・ウェルズ女史から直接聞いたし、最後の高弟であったアリス・ポマロイ女史はその許可証を見せてもらったという。これは見逃し得ない重要な事実である。

またアダムスキーは名門カリフォルニア工科大学から教授として招聘されたけれども、自分の自由時間が拘束されることを忌避して断ったという事実もある。異星人とのコンタクトはいっ発生するかわからないので極力束縛を回避したのである。この件もアリス・ポマロイ女史が伝えてくれた。

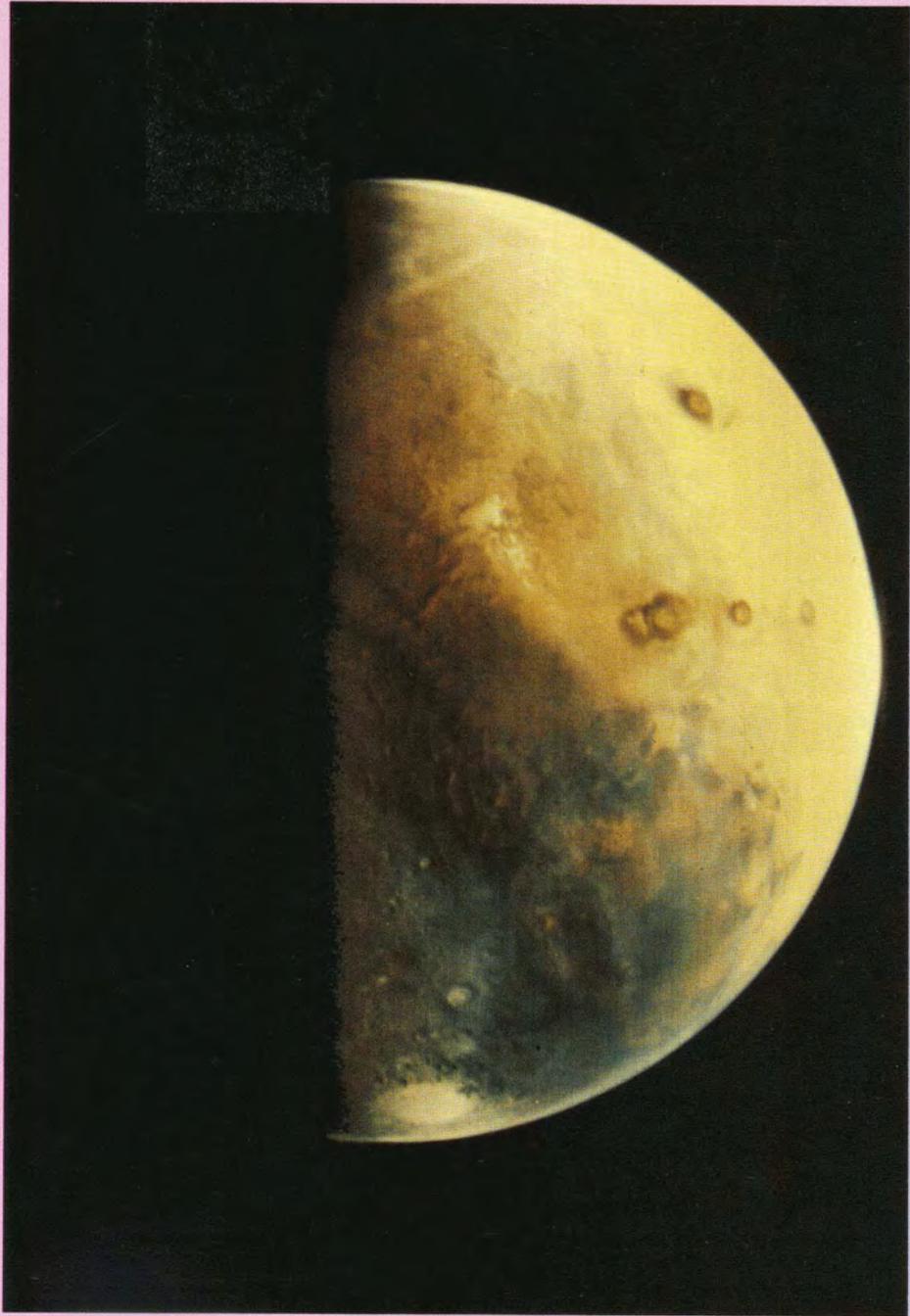
これほどの宇宙的な活動を展開したジョージ・アダムスキーをいまだに信じない人が多いのは、不信者自身の過去世からのカルマによるところがアダムスキーのあるときの講演の要旨である。転生の法則は重要極まりない問題だが、まだ科学的な裏付けがされないために一笑に付す人が多い。来世紀になって人間の知覚力が飛躍的に発達すれば転生の現象は認識されるようになるだろう。焦燥は禁物だ。大河の流れのような緩慢な進歩を忍耐強く期待することにしよう。（久）

Featured Presentation at GAP-Japan General Assembly on October 10, 1998
"Our Space Visitors Today -- And the Mars Connection" by Daniel Ross
Translated by Hachiro Kubota

●ダニエル・ロス／久保田八郎訳

火星における異星人の活動

昨年10月10日、日本GAP総会でロス氏が行なった講演の全訳（講演時の通訳は坂本貢一氏）



▲1976年7月に打ち上げられたアメリカの火星探査機バイキング1号が撮影した火星。この黄色っぽい表面の色が火星の本当の地表の色だという。（D. ロス氏のスライドより）



▲1998年10月10日、東京都港区の機械振興会館で開催された日本GAP総会で講演中のダニエル・ロス氏。撮影/久保田八郎

●ダニエル・ロス氏
一九四七年生、ニューヨーク州出身。米海軍電子工学校卒。原子力潜水艦乗組、同潜水艦建造と原子炉テスト要員等を歴任。退役後カリフォルニア州立大学サンディエゴ校で科学と哲学を専攻。現在はカリフォルニア州立大学ハイワード校で非常勤講師としてUFO問題や宇宙科学等を教えている。バメラ夫人と二人暮らし。夫人は看護大学卒、大病院の看護学講師。

ふたたび日本を訪れまして、この日本GAP総会に参加できましたことは、私にとってこの上ない喜びであります。今日の私の講演は、こんにち疑問となっておりまして火星に関する情報を皆様方にお伝え致すことにあります。アメリカにおきましては、多くの理由によりまして、この問題を大衆に理解させることは容易なことではありません。日本でもおそらく同じことでしょう。なぜなら火星という惑星に関するNASA（米航空宇宙局）の発表は、ほとんどの人にとっては明確で決定的なものと思われるからです。

アダムスキーの知識と矛盾するNASAの発表

私は若い学生の頃からずっと科学に深い興味を持ってきました。科学はこの世界や宇宙の万物の真の性質と関連のある学問であるからです。ご存じのように、私は原子力潜水艦の原子炉のオペレーターでありましたが、その後多くの分野でさまざまな科学を学びました。ですから、もし今日の講演が原子物理学、電子工学、または宇宙科学の分野に関する内容ならば容易にお話してできるのですが、それはここにいる私や皆さん方とは関係ないことです。私が今日行なう講演は難しいものになります。というのはNASAが公表した火星の環境に関する写真類と説明は、ジョージ・アダムスキーと彼がコンタ

クトした異星人達が語った事と完全に矛盾しているからです。私は真実でないことについてお話しするつもりはありません。私が出来た限りの力を尽くしてお話し致したいのは、宇宙の真実です。異星人に関する真実、他の惑星での彼らの生活と彼らもたらした崇高な哲学に関する真実です。

しかし私が合理的な考え方をすると人々に火星または金星に関する真実を伝えようとすれば、NASAによって公表された虚偽の情報に妨害されることとなります。たとえばこれはアメリカの事情ですが、私が火星にも人間が住んでいると思うとただで、それを聞いたほとんどの人が私に白い目を向けてきます。ましてやその考え方を支持する本を書いたと言おうものなら大変です。

というのは、火星にも人間が住んでいるという考え方は、NASAや権威のある科学者達がバイキングの打ち上げ以来二〇年にもわたって発表してきた事と完全に矛盾したものであるからです。昨年打ち上げられた火星探査機パースファインダーの場合もそうです。UFOが地球に来ていたことを信じている人達でも、その宇宙船は太陽系とは別な所から来るに違いない、火星から来ることは絶対にあり得ないと言っています。この時点で三〇年前のアダムスキーは少し有利であったと思います。当時は、火星に関する一般の考

え方はまだ純粋な理論にすぎなかったからですが、現在ではそれは「証明された事実」になっていると思われま

理解は人によって違う

それで今日私はこの講演を「知覚」というものに焦点をあてて始めたいと思います。たとえば、私は日本へ何

か来たことを思い返しています。そして今日でもって全部で三七日間日本にいたことがわかっていきます。私は妻のパメラと共に日本で多くの物を見たり楽しんだりしましたし、特に多くの日本GAP会員の方々にお会いしました。今日で四回目の講演になります。毎回総会に出席していた時以外は、実際にはバケーション・タイムのようなものでした。ですから、日本という国に関して私が知覚している事は、日本に生まれて住んで日本語を話し、日本でずっと生活を続けてきた人達の知覚に比べると、明らかに現実的なものではありません。日本に生まれてずっとこちらで暮らしてこられた皆さんは、日本という国に関して私よりもはるかに多くの事を知っています。

同じ事は皆さんにも言えます。皆さんが過去にアメリカを何度も訪れて素敵な体験を持ったにしても、皆さんのアメリカに滞在して得た知覚は、そこに住み続けている人達とはやや異なっているでしょう。皆さん方はアメリカ

という国はすべての国民に無限の機会と経済的な豊かさを提供していると思われ、解されているかもしれない。しかしアメリカでは無数の人にとって生活はきわめて厳しいのです。多くの地域で社会の多くの物事が改善される必要があります。というのは大きな貧富の差があるからです。教育のシステムは衰退の一端をたどっています。

ですから、人間の知覚という能力は、経験に関連しているでしょうし、また別な物事にも関連しているでしょう。それは人間が教えられる物事です。この二〇年ないし三〇年間ほどのあらゆる学生を例にあげてみましょう。彼らはすべて火星に関して同じ事を教えられています。そして普通の科学者や惑星関係プロジェクトの技術者達の知覚も、万人が教えられてきたのと同じ誤った知識や仮定にもとづいています。したがって誤った情報にもとづいた知覚は実際の解決に至ることはありません。それは不可能なことです。したがって人間は自分の知覚と信念が現実の源泉によって意識の中にもたらされない限り、幻想と限られた理解でもって生きるようになるでしょう。

火星のニセ写真を流すNASA

昨年アメリカはパスファインダー探査機を火星に送りました。しかしその探査機が得た情報なるものは、二〇年

前のバイキング探査機で得た情報と全く同じものだったことを私は知っています。

その第一の理由は、そのプロジェクトに関係した科学者達が自分の知覚を拡大することができなかったからです。正しい情報を基盤にして調べない限り、不可能なのです。

二番目に、政府の秘密情報部の直接の管理下にあるNASAのトップ高官達が、本物の探査データを厳しく検閲して、ひどくゆがめたデータを管制センターの科学者達のもとに流していたのです。軌道上からにせよ地表からにせよ、送られて来る惑星の写真類は、詳細にチェックされ必要に応じて隠されて、たとえ隠されなかったとしても、巧妙な画像処理がなされて、ひどくゆがめられたまま公表されてきたのです。そしてまた火星の標準的なかわりばえのしない画像が公表されました。

隠蔽する理由は何か

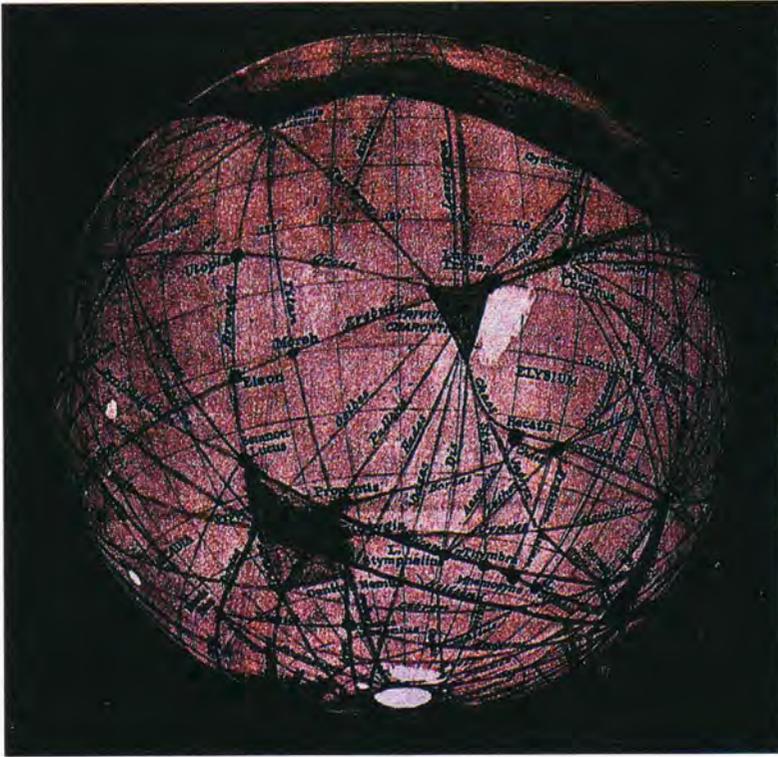
火星の各種の情報機関は多年の間、火星の真実の自然環境について知っていました。彼らは火星に人間が住んでいることも知っています。そして火星とUFOとの関係も知っています。彼らは一九五〇年代から火星に関する本当の知識を閲覧してきました。私は私が書いた「UFO—宇宙からの完全な証拠」と題する書物の中で、そ

のすべてを説明しましたし、月や金星に関する隠蔽工作の事実も述べました。このような隠蔽工作を行なう最大の理由は何でしょうか。

現在この地球で毎日消費されている石油の量をちよつと考えてみて下さい。この地球上には無数の車が走っており、アメリカのカリフォルニア州だけでも二千万台の車が走っています。さらにアメリカ全体、世界全体になると、まさに天文学的數字になります。トラック、バス、列車、外洋船舶、飛行機、ジェット機、セスナ機、軍用機、輸送機、ロケットその他無数にあります。また工業用の燃料、暖房用、発電用も考える必要があります。毎日とつてもない量の石油が消費されています。さらに巨大な核産業とその関連産業もあります。

地球上のエネルギー源を押さえている産業界は、軍事産業を制圧している勢力とあいまって、この世界の最強の勢力として君臨しているのです。そしてこれこそが、大衆が他の惑星の環境に関する真実を知らされない第一の理由なのです。

火星が人間の住むべき天体であるということを権威ある政府機関が公表したならば、この世界のこれまでの経済システムが大転換を強いられることになりま



◀アメリカのパーシバル・ローウェルが私設天文台から多年火星の観測を続けた結果、1915年に「火星には人類が存在する確実な証拠がある」と言明した。

(ロス氏のスライドより)

(編注=ローウェルはボストン出身の天文学者。ハーバード大学で学ぶ。もとは実業家で外交官でもあり、長く東洋に住んで日本に関する著書もある。1894年に天文学に転向し、アリゾナ州フラグスタッフ市に私設天文台を建設して火星の観測に没頭。火星の運河を発見して人工説を唱え、地球人よりもすぐれた人類がいると主張した。また海王星の外側に惑星が存在することを信じていたが、1916年に61歳で彼が没した後、クライド・トンボー博士がローウェル天文台の望遠鏡で観測して冥王星を発見した。ついでながらトンボー博士はUFOを目撃したと言明している。ローウェルは天文学者として異色の存在であり劇的な人物であった。



UFOすなわち惑星間を飛行できる宇宙船の存在を急速に表面化することになるでしょう。しかもその宇宙船は石油や核エネルギーを必要としない自由エネルギー推進装置をそなえているのです。

知(知)は信(信)は別(別)問題

ですから、他の惑星の宇宙船の自由エネルギーによるパワーが地球のエネルギーシステムをおびやかさない段階に到るまでは、宇宙問題に関する大衆の知覚をきわめて限られた誤って導かれた状態に保っておく必要があるのです。そのためには火星その他の惑星に関して公表されるものは、今後も誤つたものとなるでしょう。

ですから、今日の情報メディアの中で大衆が他の惑星の環境に関する真実を知るための唯一の方法は、UFOに関する真実を知ることであるということになります。それ以外の方法では不可能です！

ただし私は「知る」ことについて話しているのとして、「信ずる」ということについて話しているのではありません。ある人達は皆さんが言うことを何でも信じるかもしれませんが、あるいは権威者の言う事なら何でも信ずる人もいます。また何を聞いても信じないという人もいます。要するに、「信ずる」というのは、自分が最も快

適だと感じる考え方を選択することにほかならないわけです。それは「知る」とことは違うのです。

NASAの膨大な隠蔽

何かに関する真実を把握しようとするためには学習と研究が不可欠です。それを得ようとして真剣に努力する人は、いつか必ずそれまでの心の限界を乗り越えるでしょう。そのときその人間の知覚は真実を正しく認識できるころまで拡大しています。そのとき初めて人間は自分が研究してきた物事に関する真実を把握することができるのです。

近隣の惑星群に関する真実を追求する上で、それらの惑星に関する一九六〇年代を迎える以前になされた研究に目を向けることが重要になってきます。金星、火星、月などの環境に関して、過去の優れた天文学者や科学者達がくだした結論は、NASAが一九六〇年代、七〇年代に公表してきた情報とは全く異なるものでした。ついですがNASAのその一連の発表と並行して、米政府はUFOの証拠を公式にことごとく否定していました。今日ここではお話ししませんが、私の著書「UFO—宇宙からの完全な証拠」の中で、過去の天文学者達の結論とNASAの発表とを比較して、NASAの発表がいかにゆがめられたものであるかを、各



▲マリナー9号が1972年に撮影した火星の北極地帯で発生した巨大な台風。これを見ると地表にはかなりの大気が存在することがわかる。
(ロス氏のスライドより)



手に入れて、その内容と私の本とを照らし合わせた結果、ある誤った箇所を発見して私に教えてくれたのです。その箇所についてはこの講演の後半部分でスライドを用いて説明するつもりです。

火星には大文明がある

アダムスキーは火星の環境状態について言及し、火星はごつごつした地形をしているが、商業も工業も盛んに行なわれており、地球ととてもよく似た惑星だと言っています。

さらに北極や南極、その他の水が溶けつつある地域から水路が引かれていること、さらに塩水の運河があつて、その運河を利用して船が内陸部の都市に物資を運んでいることも語っています。そして彼は火星の人口が急激に増えつつあるとも語っています。

一九六三年の講演の中でアダムスキーは、火星には六億の人間が住んでいると言っていますので、地球から比べればかなり少ないものの、現時点ではその六億をはるかに越えた数の人々が火星に住んでいることになりました。

アダムスキーはさらに、地球人はやがて進化を果たして、いまの火星人が築いているような文明を持つようになると言っている。また火星人はいざ現在金星で示されている高度な社会に進歩するようになることも語っています。

火星の衛星は人工物体

火星には小さな衛星が二つあることが知られています。大きい方はフォボスと呼ばれていて直径が二四キロあります。それは高度六〇〇キロメートルの周回軌道を、わずか七・六時間で一周しています。要するに火星の周りを一日に三回という凄まじい速度で回っているわけですが、それは火星の自転速度よりも速い速度です。衛星の公転速度がその母惑星の自転速度よりも速いということは自然には起こり得ないことです。実際、そんな惑星は少なくともこの太陽系内には他に一つもありません。もう一つの火星の衛星であるダイモスは、大きさはフォボスの半分ほどで、高度二四〇〇キロメートルの公転軌道を一日で一周しています。どちらの衛星の公転軌道も、ほぼ真円に近い形をしています。一九五九年にソ連の科学者I・S・シフロフスキー博士は、米海軍天文台による計算結果を用いて、火星の衛星であるフォボスは、その公転速度が電磁抵抗や潮の摩擦による影響で、「実際の固形衛星ではありえないほどのレベルまで低下して遅くなってきた」ことを発見したと言っています。これは一九七七年にドナルド・キーホー少佐が書いた「宇宙から来る異星人達」という本の中で紹介されたものです。したがってキーホ

惑星ごとに、また年代順ごとに説明しています。あの本は一〇年以上に及んだ私の調査と研究の集大成でした。私は徹底的に調査し、あらゆる証拠が本物であることを確認しました。私は自分の本が一〇〇パーセント正確で間違いないものにしたかったです。それは宇宙開発でNASAがあまりにも隠蔽していたために大変な仕事でした。

実はその本が出てからすでに一年になります。最近、その本の中にたった一つだけ小さな誤りがあることがわかりました。ある人が指摘してくれたのですが、それは私が入手したNASAの文書に欠陥があつたからです。私は自分の本の最後に参考資料をすべて明記しました。それでその人は、そこに記されていたNASAの資料を

「は、この火星の衛星は中空であるにちがいない。そうだとすれば人工物体かもしれないと提案しています。」

彼の情報は多くのトップクラスの科学者達に強い印象を与えました。そして一九六三年には航空宇宙科学研究所でNASAのある高官が、次のような発言をしたのです。「火星の月フォボスは、実際には火星の周りを回っている巨大な宇宙基地かもしれない」

火星に精通していたアダムスキー

アダムスキーは一九六五年にニューヨークで行なった講演の中で、フォボスとダイモスに関する質問を受けて、次のように答えています。これはアリス・ポマロイさんが編纂した「例えば」と題するアダムスキーの講演集の中に出ていることです。もしかしたら皆さんも日本GAPの「UFOコンタクトキー」を通じてすでにお読みになったかもしれません。

「火星のあの二つの月（衛星）は人工の基地なんです。異星人達はそう言っていました。彼らはあの衛星をずっと外側に送り出すこともできるんです。地球と火星の中間地点まで送り出して、そこで我々地球人と会うことも可能になるのです。」

あの二つの月はあらゆる目的に利用できるようですが、基本的には防衛のための基地だということです。以前に

空軍のルツペルト大尉が私を訪ねて来たのは、彼がそのことを知っていたからです。

当時彼はまだ空軍のブルー・ブック・プロジェクトの責任者でした。

（編注）ブルー・ブックというのはおのの米空軍のUFO研究機関）

その彼がはるばる私のいたパロマー山までやって来て、私に次のように尋ねました。

「ねえ、ジョージ。もし我々が火星に行つたとしたら、どんなことが起こると思うかね？」

実を言うと米軍部は多年の間、火星に注目し続けてきたのです。軍部は人間が住んでいる可能性が最も高い惑星は火星であるという考えをずっと持ち続けていました。

さて、ルツペルト大尉から、地球人が火星に行つたらどんなことが起こるか尋ねられて、私は次のように言いました。

「もし我々が崇高な想念、崇高な意図をもって火星に行つたならば、彼らは諸手をあげて歓迎してくれるだろうね。ただし、もし我々が彼らを悩ませようとして、あるいは敵意をもって何らかのトラブルを発生させようとして行つたとしたら、我々は火星にたどり着くことさえ出来ないと思うよ」

私は言ったわけです。

すると大尉は言いましたね。「私もそのとおりだと思うよ」

（以下もアダムスキーの言葉です）
「ですからルツペルト大尉はすでにそのことを知っていたわけですよ」

火星人は地球人を毛嫌いしている

火星のあの二つの月は人工の基地なんです。しかもとても大きな基地です。あれらは軍事関連のあらゆる器具類や装置類を搭載した上、三万人の人々を収容することができます。決して小さい物ではありません。それで今我々も同じような物を作ろうとしているのです。ジョージ・アダムスキーはまた、その二年程前に「火星の人々の八〇パーセントは、私達地球人が火星に近づくのを嫌がっている」という興味深い発言をしています。

地球人の闘争的な心の姿勢と、それに伴う闘争的な行動がその理由だといふのです。私達はこれまでに自分達がこの地球を正しく管理する能力がないこと、この地球上で真の平和を築くことが出来ないことを自ら証明し続けてきました。

そのために火星の人々の大半は私達に彼らの惑星には来てほしくないと考えているのです。そんな彼らの気持を私は理解する必要があります。

私達はこれまで絶えず争いを続けてきました。国同士はもとより、同じ国の中でさえ政治闘争その他の争い事があとを絶ちません。そして私たちは戦

い、あげくのはてには殺すことで問題を解決しようとしています。最近アフリカで発生したアメリカ大使館爆破事件では、罪のない人々が一〇〇名以上も犠牲になっていきます。

しかもアメリカをはじめとして、多くの国が核兵器の保有を誇示すること、で他の国々を威嚇しています。多年敵対関係にあったインドとパキスタンも、今年の五月に相次いで原爆の実験に踏み切りました。そのようにして自分達が核兵器を持つていることを誇示することで、互いに威嚇しあっているのです。

火星探査機の不思議な消滅

もし私達が人間を乗せて宇宙の彼方まで飛んで行くことの出来る宇宙船を開発したならば、最も近い惑星である火星こそが私の最初に訪れようとする天体でしょう。異星人達もそのことを知っています。そのために彼らは私達が地球上で真の平和を築き上げて、万人の幸せを考えて行動し得るようになるまでは、私達に宇宙へ出て来てほしくないと考えているのです。

それで、おそらく彼らはアメリカとロシアが近年打ち上げた火星探査機の少なくとも二つに対して何らかの妨害活動を行なったと思われまふ。おそらく一つには、地球の権力者達に火星を至近距離から覗き見られるのが嫌だったのではないのでしょうか。



▲日本GAPの総会でロス氏の講演を聴く満員の参会者。(撮影/西川太)

たとえばNASAは一九九三年に火星探査機マーズ・オプザーバーを打ち上げました。それを作るにはなんと八億五千万ドルもの費用がつき込まれたということです。あれだけのお金があれば、もっとましな物が作れたと思うのですが、もはやあとの祭りです。とにかくその探査機は地球から打ち上げられて火星に向かって順調に飛行していました。

ところが、ある時点で信号がパタッと途絶えてしまったのです。それ以来、

その探査機は位置さえも確認出来ず、完全に行方不明になってしまいました。まるで宇宙空間の外側に瞬間移動してしまったかのようなでした。しかもそれに関してNASAは何の説明も出来ませんでした。

ロシアの火星探査機の謎

もう一つの例はロシアが打ち上げた火星探査機マルス96です。これもきわめて高性能の探査機だったので、第四段階のロケットエンジンの点火に失敗し、地球の大気圏に逆もどりして来たのです。そうして火の玉になって地上に落下するという羽目になったのです。

この事件を謎にしているのは、この探査機の動力源となっていた四つの小さな電池に、二〇〇グラムのプルトニウム238が含まれていたという事実です。プルトニウムは原子爆弾の原料になるもので、人体に最も有害な物質として知られています。

プルトニウム238は、誤って大気中に放出されると、空中に飛散した場合でも、水に混入した場合でも、わずかに二分の一グラムで数千名の人間を死に追いやってしまうほどの猛毒です。

火星人達はおそらく至近距離から覗き見られたくないというに加えて、プルトニウム電池を積んだ探査機という「危険さわまりないもの」を宇宙空

間に持ち込んでもらっては困る。ましてや彼らの惑星にやって来ては困る、ということだったのではないのでしょうか。だからそのためにマルス96探査機が地球に舞い戻るように何らかの操作を行なったのではないかと、私はそう考えています。

私達はプルトニウムというものが、自然界には存在しない物質であるということと、その破壊的な放射性物質は地球の原子炉の中でのみ作られているということを認識する必要があります。

火星の二個の衛星は人工物？

ここでもう一度フォボスとダイモスにもどりましょう。

バイキング探査機が撮影した写真が一九七七年に公表されていますが、その写真を見ると、二つの衛星はごく普通の小惑星のように見えます。しかし私は、それには次の二つのシナリオのうちどちらかが発生していたに違いないと考えています。

まず一つは、それまでに頻繁に行なわれていた「その二つの衛星は人工物体ではないか」という推測をNASAが否定するために、実際の写真に手を加えて、いわば偽造写真を公表したのではないかというものです。

もう一つは、火星人達がその二つの衛星の正体を明らかにする写真を撮らなれたくないために、探査機の電子機器



▶バイキングオービターが撮影した火星の大断層。少なくとも五種類の色を放っているのが見える。

が正しく作動しないように細工したのではないかというものです。いずれにしても、私は火星のあの奇妙な衛星に関してアダムスキーが語った事が真実であることをツユほど疑ってはおりません。

それではここで休憩して、そのあとスライド映写に移ります。

(以下、スライドによるアダムスキーのUFO写真類と火星関係の珍しい写真を公開して解説する)

日本GAP・UFO観測会で大歓声！

A UFO Appears over Kasai Seaside Park!

UFO、葛西臨海公園上空に出現！

昨年10月10日開催の日本GAP総会の翌日、希望者のみ50名が都内江戸川区南端の葛西臨海公園へ繰り出して水族園を見学後、クリスタルビュー付近の草原地帯でUFO観測会を実施。雲一つない碧空に数度にわたって白球型UFOが出現する光景をほぼ全員が目撃。大歓声がこだました。約50名の人と同時に数度もUFOを見るのは世界的にも珍しい事件であり、望遠レンズ付き一眼レフカメラを持つ数名は見事に撮影して素晴らしい記録を残した。これらのUFO写真は、大伸ばしの上、次頁より掲載してある。



一〇月一日朝九時に参加者五〇名は東京駅南口に集合。ここから新橋駅へ行き「ゆりかもめ」で日の出橋へ出て水上バスで東京湾を周遊。葛西臨海公園に上陸。まず水族園を見学後、各種のレストランで昼食をとる。園内は大混雑のため予定を変更してクリスタルビューというビル付近の草原地帯を選び、まず全員記念撮影。続いて観測を開始。各自群れをしながら寝転んだりして上空を見つめる。三時すぎからUFO出現の声が出始めた。結局ここでは計三回出た。あと臨海公園駅前でも出現して全員驚喜した。

● 葛西臨海公園 上空のUFO

撮影と文／久保田八郎

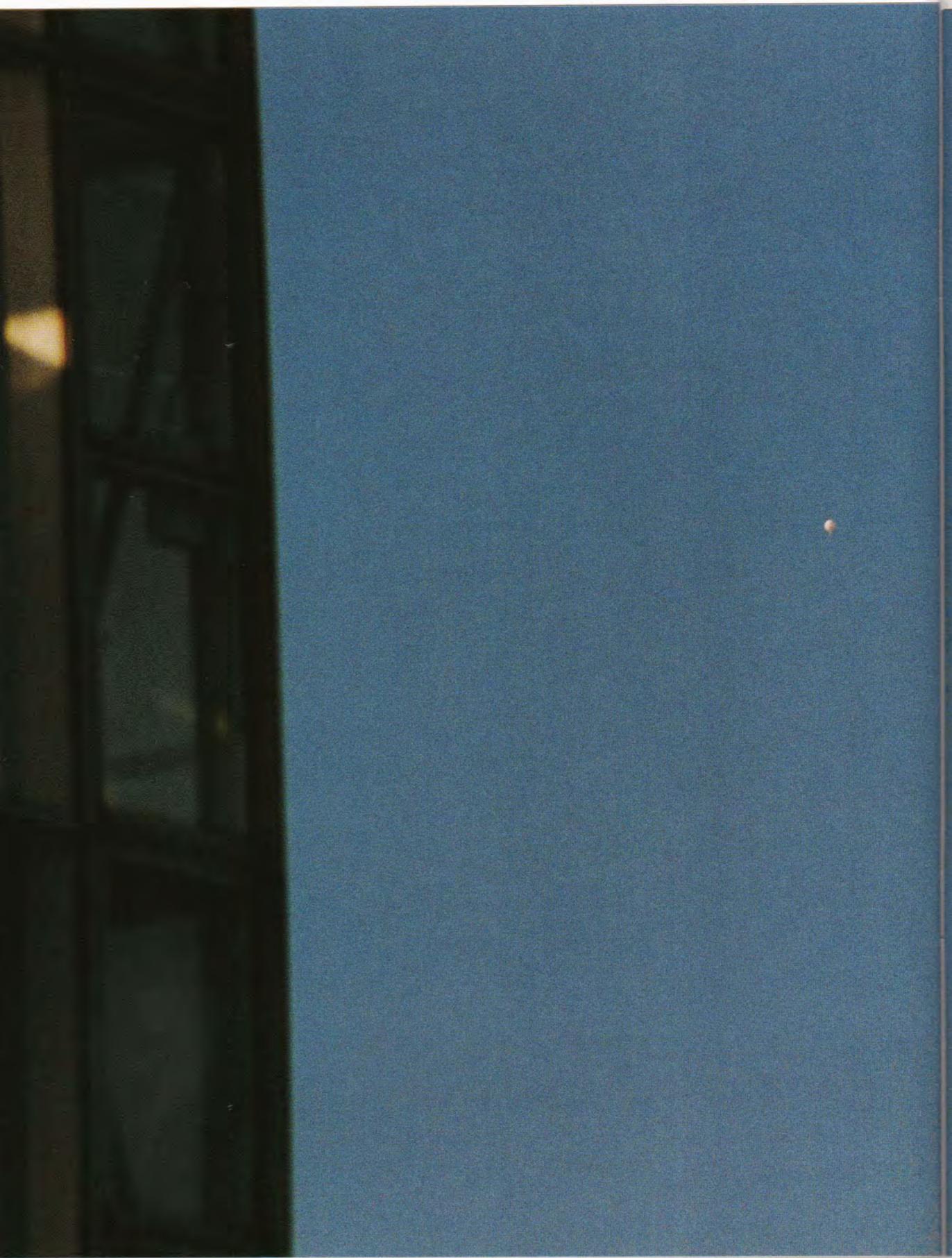
10月11日午後3時5分頃、最初にUFOが出たという騒ぎでその方向にカメラを向けたが、ファインダーに白いキラメキが一瞬見えただけだった。

3時15分頃、またもUFO出現の騒ぎが起こった。今度は純白の球体が仰角約15度の空中を右から左へ水平にかなりな速度で飛ぶのを発見。すぐにカメラを向けて連続3枚撮ったら、物体は左のクリスタルビューというビルの向こう側に隠れた。ここに掲載したのは2枚目の写真。

鑑定した秋山真人氏によると無人の地上観測用超小型UFOで、物体の下部に突起物と垂れ下がったヒモのようなものがかすかに見えるので、これは風船と誤認されやすいが、このヒモ状の下部に小さな箱が吊り下げてあって、その中に精密な観測機器が入っているという。私達を祝福して出現したのだと語っていた。実はこの日より10日ほど前に、この観測会でUFOが出現するという予感が高まってきたので、急ぎよ古いレンズを売って70-300mmズームレンズを仕入れたのだが、これは正解だった。しかしUFO撮影にはもっと長い500mm程度のレンズが良いようだ。フィルムにネガカラーを使用したのは事前に全員配布用の記念写真を撮ったあと、リバーサルに取り替えるのを忘れていたからである。

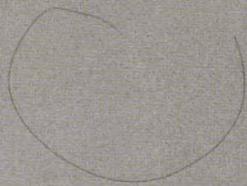
(ニコンF4／ニッコールAFズーム70-300mm、300mmで撮影／フジカラー100)





葛西臨海公園上空のUFO(2)

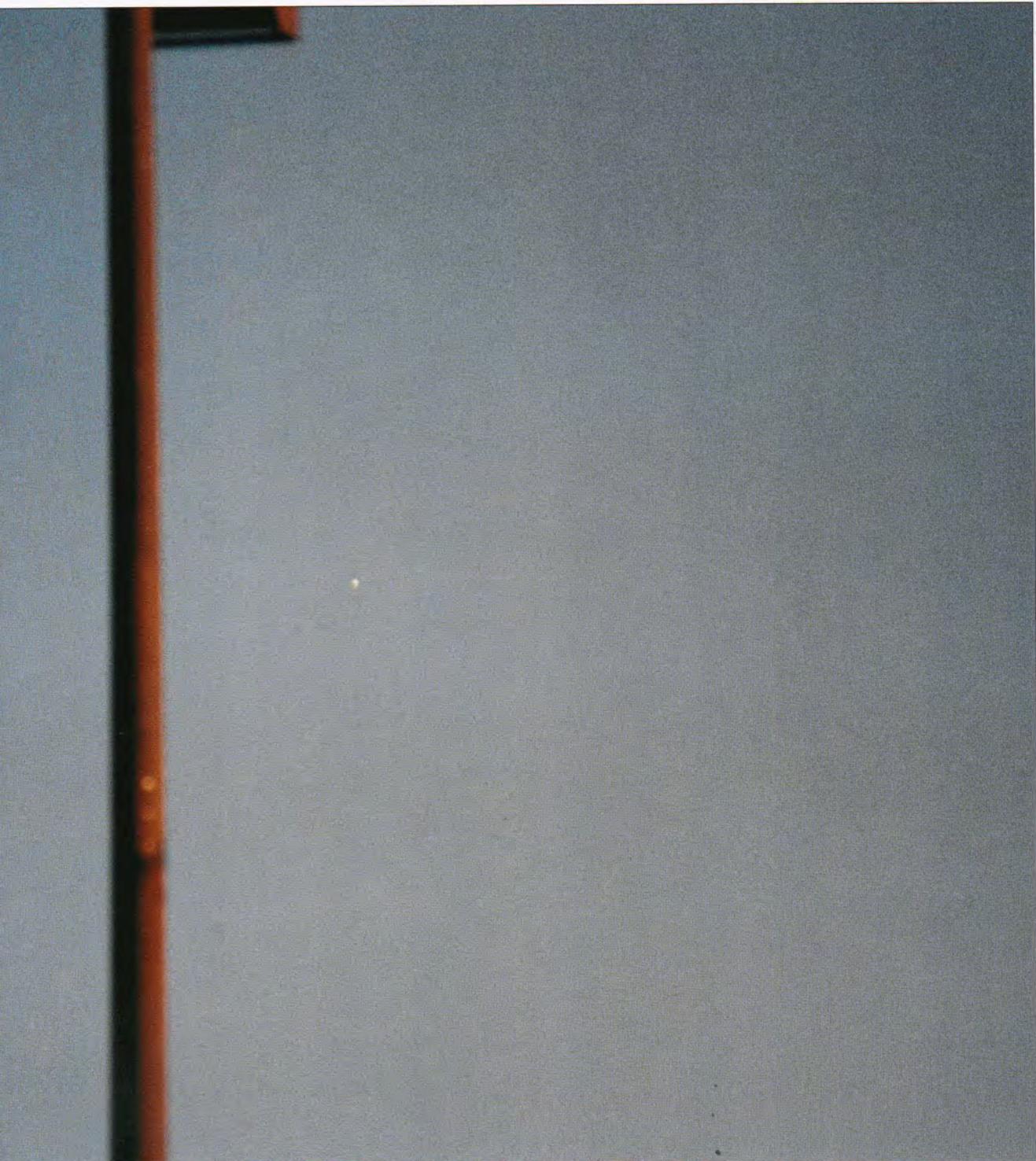
撮影/加藤純一



▲前頁のUFOと同じ物体を加藤純一(本部役員幹事)も見事に撮影していた。時刻は午後3時15分頃。左の建物はクリスタルビューー。物体は右から左へかなりのスピードで水平に飛んで建物の向こう側へ隠れたので見えなくなった。最初に発見したのは、鹿児島支部の抜迫英子さんという。
(ニコンFE2/ニッコールズーム35-200mm、200mmで撮影。/フジカラー100)

UFO、またも臨海公園駅上空に出現

撮影／加藤純一



▲観測会を終えて全員が東京駅へ引き返すために京葉線葛西臨海公園駅に集合したところ、またも球体のUFOが東から西の方向へ急スピードで水平に飛ぶのを一同が目撃して大騒ぎになった。これで四度目の出現となる。撮影データは右頁と同じ。編者もこの物体を撮影した。右頁の物体と同一物と思われる。絶対に気球ではなくて、UFOそのものであると秋山氏は断言している。撮影データは右頁と同じ。

昨年一〇月一日の葛西臨海公園における目撃者の体験記が多数寄せられたので以下紹介する(順不同)。

二度目撃して撮影に成功

東京 村田真人

先日は初めて日本G.A.の総会、観光とUFO観測会に出席させて頂きまして有難うございました。観光とUFO観測会では全員記念写真を頂きましてまことに有難うございました。

私は二度のUFO目撃と写真撮影をすることが出来ました。二度の目撃とも丸い白い物体でした。左の写真は最後に臨海公園駅前で撮ったものです。二枚撮影し、一枚目はピン트가合いませんでした。二枚目は白い丸い物体に確実にピン트를合わせてシャッターを切ったのですが、現像後の写真には物体は写っておらず、白い風船のような物が写っていました。

▼村田氏撮影のUFO

(編注)10頁の写真説明にあるように、これは風船ではなくて球体の下方に検知機を吊り下げた無人の超小型観測用UFOで、主として地上の地震波等を検知する。ほとんど無風状態の空中で風船が推定時速二〇キロの速いスピードで水平に飛行することはあり得ない。写真の球体の下部に見える突起物が波動検知機を金属製のヒモで吊り下げているが、それを収納している最下端の超小型容器は写真では見えない。前頁の写真のように同一物体を撮影した加藤純一によれば、このUFOは最後に斜めに急降下したという)

物体はかなり低空を飛行しているように見えました。ピン트가合っていないのがとても悔やまれます。G.A.P.会員になって一年になります。今年の始めに体調をくずして退職しまして今は回復しましたが、失業中です。これからはできる限り月例セミナー、質疑応答等に出席させて頂きますので、今後ともよろしくお願い致します。

(使用カメラはキャノンEOS55、レンズはEF75ミリ300ミリ、300ミリで撮影。フジカラースーパーV100)

素晴らしかった観測会

静岡県 高橋政子

過日は大変盛り上がった観測会に出席できましたことを大変喜んでおります。また早々と全員記念写真をお送り頂き、有難うございました。

遅れましたが私もUFO写真を撮ることに成功いたしました。四つ切りまで拡大したのですが、二ミリにもなっていませんでした。一センチにはなるだろうと期待していたので残念です。一月発行の一四四号を楽しみにしています。(毎号、最近のは特にスゴイですが)。

双眼鏡で三機編隊のUFOを確認

伊豆支部代表 高梨十光

先日のG.A.P.観測会では何回かの出現の途中、本腰を入れるために久保田先生のお側に場所を変えました。するとまもなく右斜め上空に輝く物を発見しました。

次々と状況を説明する参加者の声を頼りに双眼鏡で全神経を集中して捜すと、幸運にも同じ方向に飛行する三機編隊のUFOをとらえることができました。有翼機でもなくヘリコプターのような形でもなく、楕円型に近かったと思います。少しでも目を離せば、この機会を逃してしまうほどの飛行速度でしたので、双眼鏡を離すわけにはゆきませんでした。私はこの感動のシーンを他の人にも見せてあげたい気持ちでいっぱいでした。素晴らしいUFO観測会でありました。(編注)この三機編隊のUFOは大勢の人が見たという)

初めてUFOを目撃して感動

埼玉県 圓山健哉

先日はUFO観測会で私は生まれて初めてUFOを目撃することが出来、大変感動し当日は寝るまで心がワクワクしておりました。大変素晴らしい経験をさせて頂き誠に有難うございました。これもひとえに久保田先生のご指導のためものと感謝申し上げる次第です。

▼圓山氏撮影のUFO(矢印)



貴重な体験に感謝

東京 鍋島よう子

先日は観測会でUFOを生まれて初めてみなさまのおかげで目撃させて頂きました。UFOの出現の仕方、星とUFOの違い、飛行機などとUFOの

飛行ぶりの違い等、はっきりと目撃しました。私の脳裏に焼きついて離れません。今回の貴重な体験をさせて頂きました事に心から感謝致します。

私達を祝福するための出現？

大阪 福井貴子

前略 今回の観測会での目撃は本当に私達を祝福して下さったのだとつくづく思いました。私も真上に目撃しましたときには、「ああ！」と心の中で叫んでしまいました。駅へ帰る途中でのゆっくりとわかりやすい動きで現われて下さったときも、「できましたら皆がわかりますように現われて頂けませんでしょうか」とお願いしていたので、何と言ってよいか思い浮かばないほどに感激致しました。

水族園の上空にUFO

神奈川県 渡辺康英

観測会が始まる前、私は数名の方と水族園を見学していたのですが、混雑のためか早く外に出たくなり、一人で急いで館外に出ました。一時四五分頃に外のベンチに座って、どちらを見ればUFOが発見できるものかと考えていました。そのとき低空で横切る白い風船のような物体を見ました。海から来る風とは反対に海側へ向かって飛行していましたので、風船ではなかったようです。コンパクトカメラで一枚だけ撮影しました。(以下次号)

●渡辺氏撮影のUFO(矢印)。右の建物は水族園。



My UFO Sighting Diary
by Junichi Kato

UFO目撃日記⑥

加藤純一

日本GAP
東京本部役員幹事



昨年（九八年度）は天文学上の多くの新発見によって太陽系の惑星、衛星について従来のイメージを塗り替えるような報道が相次いだ。例えば月の両極に眠る推定約六〇億トンもの氷（水と表現すべきか？）の存在や、木星の衛星エウロパとカリストの地表下に海が存在する可能性がある等、この太陽系に生命の可能性を感じさせるのに充分な情報が出始めた年でもあった。

これらはG・アダムスキー氏が伝えた宇宙情報に近いものであり、この太陽系は決して死、あるいは不活発な状態ではないということが証明されつつあるように感じるのは私だけであろうか？ アダムスキー氏による宇宙情報が地球にとって役立つ日が一日も早く来ることを願って――。

そんな中で個人的な体験を振り返ってみると昨年も実に多くのUFOを目撃している。九八年の一月から一〇月（原稿の締切りの都合で一一月以降の体験は割愛させて頂きます）までの一〇カ月間で合計十五回の目撃をしている。多い時には一カ月で三回、通常最低一回は確実にUFOに遭遇していることになる。

一九九八年八月

●一〇日（月）お盆休みで実家がある秋田へ帰郷。家族全員で夕方から市が主催する花火大会を見学した。終了間際の八時半過ぎに、突然スペース・ブラザーズとUFOが近くにいたりという印象がやってきたために一人空を見上げていた。（注〓この時、幼い頃に秋田で一度だけ見た巨大なオレンジ色の楕円形UFOのことを思い浮かべてみた。これは以前から帰郷する度に試していた方法で、個人的な推測からおそらくオレンジ色の巨大UFOは母船であり、同乗しているであろうスペース・ブラザーズの方々は私が心の中に宇宙的な想念を呼び起こしてテレパシィで呼びかけをするとかかなりの確率で応えて下さるという確信めいたものがあった。この方法で実際に秋田で数回UFOが出現しているからだ）。

すると不思議なことにこの日は曇りのために星空が見えない状態だったのに我々のいる上空近くだけがぼっかり

●1997年6月14日、神奈川県川崎市幸区で開催されていた日本GAP本部主催のUFO写真展を見た後、自宅上空近くを飛ぶUFOを発見。手持ちのコンパクトカメラで数枚撮影。出現直前にUFOが空を飛ぶ光景が頭の中で見えたので外へ飛び出て目撃した。

撮影/加藤純一



と丸く割りぬかれたように雲がなくなつてしまったのだ。そして一分もしないうちに西の方向から二機の光体が飛んできた！

これは明らかに二機のペアで、互いの距離はかなり近かつたように見えた。我々の上空に差しかかった時には容易に確認出来たのだが、①二機で出現したこと、②かなりのスピードで天空よりも低い上空を飛んでいたように見えたと、③航空機のビーコンライト、光体の点滅が全くなかつたこと、⑤ジェット機やヘリ等の航空機のような音が全くしなかつた等から、この光体はUFOであることを示していた。この時、近くに座っていた母も同時に目撃した。

その数分後、注意して空を見続けていると、北方向へ飛んでいった光体が少し時間をおいて一機ずつ戻つて来たのだ！この時には妻を含む家族五人で目撃、確認できた。ここでも一つ夢が叶った、それは両親共々家族全員でUFOを目撃すること！それは本当に価値あるスペース・ブラザーズからのプレゼントだったようにも思う。

九月

●十九日(土)〜二十四日(木) 風邪から喘息を引き起こし、苦しい日々を過ごした。床で目を閉じながら、心のチェックをしてみることにした。醜悪な自分と対面するのはつらかつたが、最近の自分が宇宙的な習慣からかけ離れ

た生活をし、想念状態もとても良い状態とは言えなかつたことを思い出した。そんな中、本来の自分を取り戻そうとして今後のGAP活動のことや我々の宇宙的な理解のために日夜この活動を強力に推進されている久保田先生、スペース・ブラザーズの方々のことを考へるとちっぽけな想念で満たされていった自分が悔しくて悔しくてたまらなかつた。しかし、宇宙的な道に戻るには最上の時間を病氣によって得たというのは自分に対する何か警告のようにも感じた次第である。

●翌二五日(金) 完治していなかつたが、どうしても会社で顔を出さねばならずフラフラしながら駅へ向かつた。この日は快晴で外に出た途端、「今日はUFOが出現し、目撃できる！」という印象が心に流れ込んでくるのがわかつた。駅に着くまでの間は目撃できずにいたが、ホームに着いてから、突然、何か強いパワーに引かれるように屋根のついてない一番前の方へと歩いていった。

坂の上にある駅のホームからは自宅の方向や青い空一帯が見渡せるようになっており、いつも乗る位置とは全く違うのだが、UFOが見れるかもしれないと思ひながら近づいてゆくと「純！ジュン！」という呼び声が聞こえてきた。実はこの呼び名は妻や両親、特に親戚などが使う呼称であり、普通の人が使うことはない。そういつ

たこともあり、私は非常にびつくりして知人がホームにいたのかと思ひ、後ろを振り向いたのだが、もちろん知人はおろか、ホームには人もまばらで誰も会話もしていないような静かな状態だったのだ。そこで私は「ピン」とききてホームの端まで行つて空を見上げるとそこには一機の楕円形の円盤が滞空していたのだ！その円盤は美しい青空の中でフォースフィールドをまとい、白く輝いているのが肉眼で確認できるほどに近くの空にいたのだ。高さはホームから顔を上げて空を見上げなくとも、充分観測できた。動きは一分ほどかけて北西の方向へ平行移動していった。その後比較的小さな雲の塊の中に隠れたあと不思議なことに雲と共に消えて？見えなくなつてしまった。

この件について久保田先生のご意見を求めたところ、声の主はスペース・ブラザーズであり、音声となつて聞こえたのも心霊的な現象や思い込みではなくテレパシー現象だと太鼓判を押して下さつた！

私としても「ジュン」という呼び名については思ひ出す度に胸が高鳴るし、この種のテレパシー体験について、こゝまではつきりと頭在意識の上で確認できた体験がなかつたために今でも少々戸惑つてしまふのだが、この体験に限つて再度強調させて頂くと、それが正しいことを証明するかのようには絶妙なるタイムミングでUFOを目撃した

という事実があるのだ。

本物のテレパシー現象に触れることが出来た喜びはたとえようもないが、考へてみると本当は毎月のように体験しているUFO目撃についても本当はこのようなしてスペース・ブラザーズは私に呼びかけているのだろうか？
ジュン、純と・・

一〇月

●七・八日は連続して宇宙的な夢を見た。八日(木)は特に九八年度日本GAP総会の講演者であるダニエル・ロス氏夫妻を成田空港まで久保田先生、津田副幹事とてお迎えにゆく日だった。

●翌日九日(金)総会前日。翌日の総会準備のために昼の一時頃に妻と地元駅の駅で待ち合わせて買い物をした。その帰りに自宅上空に現われたUFOをまず一人で発見。その後、妻と二人で観察した。時間は一時三〇分頃から一時五八分までの約三〇分間。UFO出現としては異例の長時間の出現だ。感動的だったのは雲の中に入る時に円盤の周囲のフォースフィールドが雲に反応してオレンジ色に大きく輝く様子はつきりと肉眼で確認できたことだ。私は消え行く円盤を追いかけながらこう心に誓つた。
「明日の総会は絶対に成功させよう！
だつてスペース・ブラザーズは我々日本GAPを上空からも祝福して下さつているのだから！」

(以下次号)

異星人の

壮大なスペース・プログラム(3)

アダムスキーの異星人文明 存在説は確認されつつある

一九五二年一月二〇日、アメリカのジョージアダムスキーがカリフォルニア州のデザートセンターで金星から飛来したという宇宙船の異星人と初めてコンタクトして以来、アダムスキーがその著書や講演により提供したデータ群は、ケネディー暗殺以後アメリカとソ連の巧妙な情報隠蔽工作により、荒唐無稽として全く問題にされなくなったにもかかわらず、アポロ計画中のちよつとしたミスや、最近までのアメリカとソ連が打ち上げた探査機により事実であることが上手の方から水が漏れるように次々と確認されつつある。

(編注)この記事は平成五年に書かれて東芝生活文化研究所の『社会アミニティー』と題する作品募集に応募したもの)

アポロ宇宙飛行士達が月面で見た多数のUFOやその基地設備らしいさまざまな構造物や、また月には水も空気もあり、おまけに植物まであることが判明している。プロジェクトの始めに月を周回する探査機によつて徹底的に撮影されたたくさんの写真は決して公開されないけれども、それが何よりの証拠となっていることがわかつている。

また最近では厳重な機密管理の下でも少しずつ洩れたデータ類によつて、未熟な観測装置であやふやながらも金



星や火星が実は地球と同じように人が住める環境であるという、異星人から教えられたアダムスキーの情報がますます確証されつつある。

宇宙飛行士は月面でUFOを見た

アポロ計画では、最初に月面に着陸したアポロ11号の宇宙飛行士がアメリカの国旗を立てたが、それが風ではためいていたのはつきりと観測された。明らかに空気が存在する証拠である。またその写真をよく見ると、月面の砂地には飛行士達の足跡がくつきり

◀月面に立つアポロ11号のE・オールドリン宇宙飛行士。地面にはクツの跡が多く見える。

と刻みつけられている。われわれが海岸に行つて乾いた砂地を踏んでもへこむだけであつて、あのような足跡はつかない。水際の濡れた砂地を歩いてはじめてはつきりとした足跡がつくのである。つまり月には空気も水も豊富にあるということだ。

アポロ計画のテレビ放映については、実はもう一つの秘密の管制センターが存在して、そこで受信した映像や音声をすばやく修正して放映したものであつたことが明らかにされている。その古い、現在使われていない管制センターの跡が野ざらしにされているのを見ている。

月からの発信音声と管制センターとの会話がひどく間延びしたものであつたことが、一見、月と地球の遠い距離を示すものとして視聴者に印象づけるようにしたのは、実はその放映の内容を修正する時間的余裕が必要であつたからである。しかし音声は消すことはできても違う音声を流すことは不可能であるため、その暗号と思える「サンタクロース」は存在した」という言葉の意味は後にジェームズ・アウイン中佐がインタビューで答えたとおり、UFOや月面の異星人の人工構築物の存在を表わしていることがわかつたのである。

(編注)右の暗号の「サンタクロース」は「UFO」を意味する。後年アウインが日本へ来てテレビに出演し

たときに「自分は月面でUFOを見た」と英語で話したのを編者は聴いたことがある。このときに限つて画面には日本語の字幕が出なかつた。

また最近では金星や水星の極には白い極冠らしいものが観測されておらず、金星や水星が高温の星ではないことは明らかである。また過去の有名な天文学者達の望遠鏡による月の観測でさえも、月には雲や霧のようなものが発見され、またオニールが発見した「オニール橋」は後に忽然として消えてしまつたので、これは異星人の巨大な宇宙船としか考えられないという。

その他、巨大な掘削機のようなものが観測されたり、時折強烈な光がきらめいたりしているが、アダムスキーの情報によれば、月にはチタンが豊富にあるので、異星人達は宇宙船の材料として欠かせないチタニウムの鉱石を掘っているという。

また地球の電離層は上空約六〇〇キロだが、その外側から地球を観測したところ、地球には水も空気も存在しないというデータが帰つて来たので、惑星を光のスペクトルなどによつて観測しても正確なデータは求められないことが証明されている。

大先覚者アダムスキー

アダムスキーは、太陽系を取り巻く三層のアステロイド帯(小惑星群)に

より弱りかけた太陽の放射線が活性化されて、すべての惑星にほとんど同じような光と熱が与えられていると説いているが、一九七八年にボイジャー1号が測定したアステロイド帯の運動エネルギー(カインテティック温度)は太陽表面の温度の一〇〇倍もあることが報告されている(『サンフランシスコ・クロニクル紙』一九七九年六月一日)。またバイオニア10号の太陽の磁場構造に関するデータ(楕円磁場。太陽系を楕円に包み込んでいて一枚の薄い電子の流れからなる幕によつて南北に分けられる)も、その一五年前にアダムスキーが「さらば空飛ぶ円盤」で述べていることと一致する(編注)。

『さらば空飛ぶ円盤』は新アダムスキー全集第六巻『UFOの謎』に収録)。太陽の楕円磁場が太陽系の全惑星を包み込んで星間にもつながっている。『磁気の川』は異星人達の宇宙船の航行にもなくてはならないものであるが、これらの磁場は地球の核爆発によつて壊滅的打撃を受け、その結果、太陽系のバランスが崩れて惑星の運行にも悪影響を及ぼすので、金星や火星から多くの探査機(地球ではUFOすなわち未確認飛行物体と呼ばれている)が地球に飛来するのはこのためであり、すでに彼等の高度の技術により、乱された磁気の流れの修復と成層圏にたまつた放射能帯の除去に成功したということがアダムスキーを通じて知らされて

いる。

この放射能帯は過剰になると宇宙線をふせぐオゾン層が消滅してフィルタとなるものがなくなり、強烈な紫外線が直射するので、地球上の生物は死に絶えて、あらゆるものが業火に包まれて地獄の様相を呈するに至るといふ、まさにノストラダムスの世紀末予言にある「恐怖の大王が降る……」に当たる状況となるのである。

これは核戦争が勃発し、核保有国の水爆が発射されたときに必然的に起こる現象であつて、現在の地球の各国が競つて核の保有国を選択する状況では避けられないかもしれないのである。

月は異星人の基地であつた

アダムスキーは『空飛ぶ円盤は着陸した』『宇宙船の内部』（編注Ⅱ以上の邦訳は新アダムスキー全集第一巻に収録）、『さらば空飛ぶ円盤』（新アダムスキー全集第六巻に収録。いずれも中央アート出版社刊）というベストセラーズとなつた三冊の他にも、出版物や講演などで宇宙に関する非常に多くの貴重なしかも驚異的な異星人からの情報を提供したのであつた。

ケネディー大統領が計画したアポロ月ロケット打ち上げは、実はこれらの情報を実証するために月面の状況を詳しく調査して、月に高度に進化した異星人が住んでいることを全世界に公表

し、戦争のない恒久平和をめざしたものであつたが、これによつて現在も続いている世界の経済体制が宇宙エネルギーなどの導入と、聖書に従つた道徳律の実践と国境の廃止によつて完全に崩壊することを恐れた、陰の世界政府がMJ12プロジェクトとかサイレンスグループという謀略組織を用いて「カストロ暗殺チーム」を使つてケネディーを消したために、アポロ計画はその後大統領に就任したジョンソンによつて逆にUFO問題や宇宙の真実を隠蔽する目的のために実施される結果となつたのである。

アポロ宇宙船は月面の何もない砂漠に着陸したが、これは計画実施の前に故意にそこを選んでは着陸させ、月は死の世界であるように大衆に印象づけようとしたものであつた。宇宙飛行士達は誤つて月のジャングル地帯に着陸してしまつたときのためにその訓練も施されていたのであつた。

月面のUFO基地やドーム状構築物、地下に通じる巨大なトンネルなどの調査は、すでに廃止となつたもう一つの秘密の管制センターによつて克明に調査がなされていたのであつた。

このように月は異星人によつてすでに基地化されていることがNASAの関係者とアメリカ政府のトップクラスに知られることになつたが、月のみではなく、太陽系の全惑星に人が住み、地球を六千年以上も凌駕する高度の文

明が存在することを金星の巨大宇宙母船のマスター（指導者）から聞かされたこと、アダムスキーは新アダムスキー全集第一巻「第二惑星からの地球訪問者」で述べている。

宇宙の大明を伝えた情報もある

アポロ計画の後にもボイジャーや金星探査機のマジエランなど、多くの探査機がますます的確なデータを送り続けていたが、その内容は嚴重にチェックされ隠蔽されて、公表されるのはほんの一部で、従来の知識を上回るものではなく、しだいに人々の宇宙への関心は薄らいでアダムスキーの情報を忘れ去らせてしまつてゐる。

しかしマジエランから送られた電送写真の中には巨大なドーム都市（直径二・五キロ、高さ七〇〇メートル）と思われものが七個も写つているが、その注釈には「溶岩ドームと思われる」とあるけれども、それが同じ大きさであることと真円であることから溶岩とはとても考えられず、アダムスキーが金星訪問記で述べている円形都市である可能性が強い（編注Ⅱアダムスキーの金星訪問記は新アダムスキー全集第五巻『金星・土星探訪記』に収録）。

ソ連（現在はロシア）でも最近発射した惑星探査機が冥王星を通過した後なんと「天国」の写真を送つてきたと

いうニュースが流されて、その中でソ連の宇宙開発技術に協力しているドイツのクルト・パウアー博士が「その写真は数百枚に及び、冥王星の外側で虹色の光のトンネルの先に、金色の城壁に囲まれた街があり、その門から出入りする人々の姿がはっきりと写つていた」と言つている（編注Ⅱこの報道は編者も目にした記憶がある）。

アダムスキーは冥王星の外側にさらに三個の惑星が存在することを異星人から教えられているが、そのことを博士が知つていたとしてもみづから明言できない立場にいる博士は、これらの写真を死後の天国と表現したのかもしれない。

土星を訪問したアダムスキー

一九六二年三月二七日から三〇日まで土星においてスペース・プログラムすなわち太陽系の中で最も進化の遅れた地球を救うための活動計画に関する一二個の惑星代表者会議が開催されて、その地球代表としてアダムスキーが選ばれたのである。

出発前の二四日、ワシントン郊外のラングレー空軍基地に土星の葉巻型巨大宇宙船が着陸し、アダムスキーの案内でケネディー大統領が乗り込んで乗員と会談したことが、各国のGAPリダー宛に送られたリポートに記録されている。

(編注) アダムスキーからの別な惑星行きに関する事前報告は編者のもとにも来た。それによると、アダムスキーは、自分はこの惑星へ行くのか、訪問の目的は何か、の二つの問題を出して、これをテレパシーで当てて回答せよとのことであった。(編注) 編者(久保田)は土星と答えたが訪問の目的は不明であった。したがって五〇点である。二問共正解であったのはペルギーGAPリーダーの故レイ・ダクイラ女史だけであったという)

ケネディーはこの時すでにスペース・プログラムにかかわっていたことになるのであるが、惜しくも暗殺されてしまい、地球が他の惑星と共に開かれた宇宙へ歩を進めるための絶好のチャンス逃したのであった。

アダムスキーが惑星間航行用大母船に乗せられて土星に着いたのは、地球出発から約九時間後であった。本当はもっと早く、ほとんど一瞬のうちにけるはずであったが、地球人の訓練されていない者を乗せたためにゆっくりとした速度で行ったという。それにしてもたった九時間とは驚くべきスピードである。それが緩速度とは! これだけでもいかに彼等の技術が進んでいるかを推測できるのである。(編注) 異星人の宇宙船は重力場推進方式とい、電磁気を応用して宇宙の流れに乗るのだとアダムスキーは言っている。NASAは極秘で開発中という)

壮麗きわまりない土星の都市

土星の都市の乳白色の建築物は壮麗で、地球では見られない素晴らしきものであり、街路には色とりどりの花が咲き乱れ、花の絨毯が敷き詰められていた。なぜなら土星の乗り物は車輪がなく、その花畑の上を一く三メートル浮き上がって進行するので、地球にあるような舗装道路は必要ないのである。

アダムスキーはこの土星の乗り合いバスに乗って土星の都市を見学したが、宇宙船と同様、その動きが全く体に伝わらないので、スピード感がないのであった。それは宇宙船自体に強力なフォースフィールド(重力)が発生させてあり、人間の体を引き寄せているので、惑星上にいるのと同じであるためなのだ。聖書に述べられている「天の王国」とはこのような惑星の環境とその暮らしぶりを表現しているのであったと、初めて理解できたのである。

土星の太陽系会議

会議の論点はまずこの太陽系は崩壊期にあるのかどうか、もし崩壊期にあればどうしたらよいかということである。長時間の熟慮の末につきのような結論が出た。

確定的ではないが、彼等異星人の科学装置が示すデータにより数年以内にわかるといえる。他の惑星群は宇宙船を持つているので、もうすでに居住に

適した新しい太陽系へ約百万の住民が移住していて、その中には地球人も混じっている。太陽系崩壊の前に地球人はみずからの手で移住用の宇宙船を建造する必要があるが、それができないと全惑星の人口は地球(当時四〇億)を含めて一四四〇億にも達するので、地球人全員を救助する余裕はないかもしれない。一刻も早くこのことを地球

に知らせなければならぬ。はるか遠くの他の太陽系へ旅行可能な性能を有する大宇宙船の建造を促進する技術援助を必要とするが、現在の地球は宇宙の法則に反して推移しており、この技術が軍事目的に悪用されてアトランティスの二の舞となる恐れがあるという。現在の核以上のエネルギーを所有して戦争を始めたために地球の人類がすべて滅び去ったことなど、地球の文明が始まって以来のすべての歴史を彼等異星人は熟知しているそうである。

彼等は高度に発達した科学及び精神文明を持ち、聖書の記述は地球人を教え導くために彼等からわれわれの祖先に伝えられた唯一の教科書であることが、彼ら異星人の生活とその考え方が聖書の教えそのものであることから理解できるのである。

しかも彼等は地球人の行為を決して

非難しないで、地球の武器により攻撃されたときも反撃しなかった。地球人を殺すよりも自分達の死を選ぶと言っているほどである。

地球は墮落人間の家に なった

一九五〇年にアメリカのニューメキシコ州ホワイトサンズで起こったコンタクト事件で、ダニエル・フライが異星人から知らされた情報によれば、我々の太陽系の属する銀河系には「銀河連邦政府」というものがあって、この銀河の中で人口爆発状態になった惑星のために、新生の安全な惑星を見つけてその住民を大移動させることを行なっており、また必要ならば人工の惑星も作ることができるといのである。その場合の人類の救助に関しては、よほど緊急を要する場合に限られているのであろう。

異星人によれば、地球の人類というのは、最初に他の惑星からトリテリア人という人達が地球を楽園として住むつもりで、まだ性能のあまり発達していない宇宙船でやって来たが、大災害が起り、現在のチベットの当たる地域に避難して地球を離れる相談をし、その六つのグループのうち二グループだけは残ることを決意し、他の四グループは宇宙船に乗って火星へ向かったけれども、到着したのは三グループだけであったことが彼等異星人の記録に

残っている。

その後には宇宙の中で反抗的な闘争的な人間ばかりを地球に送り込んで住まわせたと言っている。

絶えず地球を援助する

異星人

地球は教育機関として古代から邪悪な人類の中から神に忠実なイスラエル国民が選ばれて諸国民の指導者とし、絶えず天（宇宙）から教え導かれてきたのであったことが聖書の記述によって証明されている。

イエスは金星からメシアとして地球に生まれ変わり、地球の人類を救おうとしたけれども、邪悪なユダヤ人に殺されてしまい、それ以来彼ら異星人はメシアとして地球を救うことはやめて宇宙船で使命を帯びた異星人を地球社会の中に送り込み、特殊な方法で戸籍を取得し、地球人と全く変わらない普通人の姿でひそかに科学者や政府のトップクラスと接触して、地球の平和と発達のための援助をしているのだという。

地球の大気圏外のレーダーも届かない約一六〇〇キロの上空では、土星あるいは金星の大母船（葉巻型）が常に地球の状態を監視し、その母船からは小型探査機（普通はUFOと呼ばれている）が常時発信し地球の状況を調査していて、母船内では地球のあらゆる音声をキャッチしてそれを映像に変換

する地球のテレビに似た装置があり、彼等はそれによって地球人類の言語をわずか三方月でマスターするということである。

地球の科学者が人類に貢献するような発明をする場合、必ず異星人からの援助を受けているのだとアダムスキーを通して伝えられている。そればかりでなく、過去にアメリカのNASAが実験のために大気圏外で核爆発させるため、ロケットに核弾頭をつけて打ち上げたことがあったが、NASAの高官達が見守る中、あれよあれよというまに、そのロケットはUFOに持ち去られてしまったのである。

あとでわかったことだが、大気圏の外側は膨大な水素原子の層が広がっているため、これに火がつけられると地球全体が猛火に包まれて、すべての生物が火によって滅びてしまうところだったのである。

またフルシチョフがキューバに大陸間弾道弾を設置したときも一触即発の危機であったが、このときも異星人からのひそかな接触によって和解が成立したのであった。

また東京地方に巨大地震が起きないのも、彼等の技術によって、ゆっくり地震」とされて大災害を未然に防いでくれているのである。これは日本GAPが東京に本部を置いて活発な活動を行なっているからだ。会長の久保田八郎氏の乗る旅客機の後ろには必ずUFO

Oがあとをつけて墜落事故から守っているのである。このようにして地球は現代に至るまで常時異星人に保護され導かれていることは明らかである。

サイレンスグループの暗躍と地球人の向上の最重要事

それにもかかわらず、アダムスキー情報をインチキと思わせるための謀略組織であるサイレンスグループは、ことさらに偽の情報をでっちあげ、宇宙の悪者の異星人と協定（キャトル・ミューティレイション）を結んだりして、地球以外の宇宙生物はいかがわしい恐ろしいものだと印象を人々に植えつけている。そして汚染を生む石油や核のエネルギーに支配されて、ひたすら物質主義を追求する利己的な日常生活に没頭せざるを得なくさせられている。

あの悲惨極まる大殺戮と救い難い環境汚染をひき起こした湾岸戦争こそは、まさに石油資源をめぐる民族の飽くことのない欲望を浮き彫りにしたものであったが、これが地球の現状である。人々がまずUFO問題の真相を知り、またこの神の啓示とその救いの手にも匹敵するスペース・プログラムの存在を知ることによって目を覚まし、自身を理解し、各個人は創造主より「宇宙の英知」を分け与えられていることを認識してお互いを尊敬し、破壊や分裂をやめて万物の調和をめざし恒久平和を確立してこそ、真の社会ア

ニティーは実現できるのである。

さらにアダムスキーの正しい宇宙情報を伝える精力的な活動により、残された情報を元にして金星文字や図形などの解明に科学者の総力をあげて取り組み、UFOが推進力に活用しているという宇宙エネルギーの開発を進めて、一日も早く大宇宙船の建造にとりかかり、他の惑星のスペースプログラムに私達の地球も参加できるようにしなければならぬ。

アダムスキーがその生涯を賭けて実践した宇宙の真理を、一人でも多くの人に伝えてゆく活動を、明日の地球に希望を託して力の限り続けてゆくことが私の残りの人生に課せられたカルマであると信じている。

筆者注AII右の論文はもともと文字数が制限されたものであったため、説明不足の箇所を平成一〇年三月一三日に付け加えて修正したものである。一見、小説かフィクションのように思う人もあるかもしれないが、これは事実に基づいたものであることを強調しておきたい。またこの論文の他に緊急提案として次のようなことを別紙に箇条書きにして提出した。

注BII文中の「ゆつくり地震」とは、平成四年七月一八日に神奈川県三浦半島直下型地震でM七・五が、約二昼夜かかってゆつくりと地殻がずれて移動したため、全く揺れを感じなかったことが地殻調査によってわかった。

宇宙論とアダムスキーの理解のために

小山洋一

宇宙論とアダムスキーの理解のために

多少脱線しながら書きます。ご意見を
お聞かせ願えれば幸いに思います。
宇宙がもし永遠だとしたら、夜は星
の光で昼間のように明るくなるはずだ
という詭弁があります。夜が暗いとい
うことは有限であるという論法です。

(オルバースのパラドックス)こんな
単純な論法が生き残っているのさえない
思議です。これは、兎は亀に追い付け
ないという論法に似ています。つまり、
兎が亀のところに着くとその間に亀は
前に歩く、また兎が亀のところに着く
とその間にまた亀は前に歩いている。
これは永遠に続くから抜けられないとい
うのです。これは誤りであることに直ぐ
気付くでしょう。

これは数学的に解決できます。最初
に兎が亀に追い付く時間を一秒、次に
追い付く時間が〇・五秒、次が〇・二
五秒としていくと次の式で表せます。
 $1 + 1/2 + 1/4 + 1/8 + 1/16 + 1/32 + 1/64 + 1/128,$
この数字は無限に続きますが、合計
は二秒にしかならないのです。つまり、
兎は二秒間で亀に追い着きます。現実
もこうなります。これは高校の数学で
す。

分かりやすいように計算しますと、
一〇〇億光年までの明るさを一としま
すと、一〇〇億光年から二〇〇億光年

までの明るさを1/2と仮定します。
(明るさは距離の二乗に反比例すると
1/4ですが) つぎは1/4、次は
1/8、1/16のようにになると、宇宙
が永遠に続いていても合計は一〇〇億
光年までの明るさの二倍にしかなりま
せん。この様に宇宙が永遠だからとい
って昼間のようにならないのです。

さらに空を見上げると何も視界を遮
るものがないように見えますが、無数
に塵が浮遊してそのために光が乱反射
して空は青いのです。そのためある程
度の距離で見えなくなってしまう。
その事もパラドックスは無視していま
す。水の例で説明しますと、私も見ま
したが大変澄み切っている摩周湖は世
界一の透明度を誇っています。三〇
センチの白い円盤が何キロ先まで見え
るでしょうか。私の記憶によれば、わ
ずか四〇数メートルで見えなくなりま
す(編注)摩周湖は北海道東部の大
湖)

宇宙の生命体

次に宇宙に生命体がどの程度あるの
かという事について述べてみようと思
います。孔子は「一を聞いて十を知ら
ないものはどうしようもない」と言っ
ていますし、宮沢賢治が尊敬してやま
なかつた日蓮は「五尺の人間も一尺の
顔を見れば分かる。一尺の顔も一寸の
目を見れば分かる」と例えて言ってい

ます。一寸の目を地球、一尺の顔を太
陽系、五尺の人間を宇宙に考えれば分
かりやすいでしょう。宇宙を知ろうと
思えば太陽系を知ればよい。太陽系を
知ろうと思えば地球を知ればよいので
す。では、地球を調べると生命のない
ところを探そうと思うのですが、ない
ところを探すのは大変困難です。原子
炉の中にも生命が発見されたという記
事を読んだことがあります。美しい女
性(もちろん男性も)の口の中にも五
〇億以上の細菌が住んでいるそうで
す。腸には一キログラムも細菌がいる
そうです。(余談、美しい女性を弁護
します。これらの細菌がいないと食物
を分解できませんし、免疫力がたちま
ち低下して、ちょっとした細菌やウイ
ルスにも抵抗力がなくなり、感染症で
人間はまもなく死んでしまいます。日
本人は清潔にし過ぎて体内にはいる細
菌が激減してしまつて免疫力が低下し
ています。すぐ病気になる日本人の子
供の増加、東南アジアで日本人だけコ
レラに感染など、アダムスキーのいう
ように細菌を嫌い過ぎてはいけません。
土いじりが健康にいいのです。手を洗
い過ぎるのも良くない。洗剤を使い過
ぎて地球を汚染します。薬を使い過ぎ
て強力な細菌が増えています。変な言
い方ですが、生野菜を食べる新鮮な細
菌を補給すべきです。変なものを食べ
たらすぐに緑茶を飲んでください。緑
茶の殺菌力は抜群で二〇分間でまず生

きている細菌はありません。ゆえにま
ず食中毒になりません。昭和薬科大学
の教授の研究では一ccで一〇〇万匹
の〇一157が死滅します。寿司屋さ
んで緑茶を出すのは日本人の経験則で
す。亡くなった祖母はお茶は「毒消
し」だから飲みなさいと子供の時よく
言っていました。深海の青酸ガスの
出る噴火口も、人間なら一瞬で死んで
しまいますが、それを食べるバクテリ
アの巣になつていて、それを食べる魚
のコロニーになつています。高温の硫
黄の温泉の中にも硫黄を食べるバクテ
リアが住んでいます。灼熱の砂漠にも
酷寒の南極にもエベレストの頂上にも
います。さらに最近では宇宙空間にも
いることが分かつてきました。隕石が
運んで宇宙に漂っているのと、上昇気
流で運ばれたのがいます。

空気など生命に必要なとは限らないの
です。げんに地球のほとんどの細菌は
酸素に触れると死んでしまうため地中
に生活しています。酸素のない頃に発
生したからです。殺菌にオキシドール
を使ったのはそのためです。これらか
ら推測してください。太陽系のみなら
ず、宇宙が生命の宝庫であることに気
付くはずですが。釈迦は經典の中で宇宙
を三千大千世界という広大無辺の永遠
の宇宙観をのべ生命で満ち溢れている
と述べています。すべてのものが輪廻
転生する生命体なのです。さらに地球
を一つの生命体と考えることに何の違

きている細菌はありません。ゆえにま
ず食中毒になりません。昭和薬科大学
の教授の研究では一ccで一〇〇万匹
の〇一157が死滅します。寿司屋さ
んで緑茶を出すのは日本人の経験則で
す。亡くなった祖母はお茶は「毒消
し」だから飲みなさいと子供の時よく
言っていました。深海の青酸ガスの
出る噴火口も、人間なら一瞬で死んで
しまいますが、それを食べるバクテリ
アの巣になつていて、それを食べる魚
のコロニーになつています。高温の硫
黄の温泉の中にも硫黄を食べるバクテ
リアが住んでいます。灼熱の砂漠にも
酷寒の南極にもエベレストの頂上にも
います。さらに最近では宇宙空間にも
いることが分かつてきました。隕石が
運んで宇宙に漂っているのと、上昇気
流で運ばれたのがいます。

和感も感じません。地球が四六億年前に誕生し（宇宙から出産）いずれ滅ぶ事（死）は天文学から考えても否定しようのない真実です。

生命について

つぎに生命について述べてみようと思います。

あなたにすこし意地悪な質問をします。『生物と無生物の区別を説明してください』。三分以内に答えてください。あなたの返答を推測します。生物は呼吸する物である、と答えた人に質問します。酸素呼吸しない生命は細菌類など幾らでもあります。昆虫類でも無酸素で何十年も仮死状態で生きるものが発見されています。子供を生むものと答えた人には、男は生めませんし、単細胞生命などは分裂でふえます、これは子供でなく、分身つまり兄弟なのです。無生物ですが、核分裂などは気が遠くなるほど分裂します。動くものと答えた人には、地球はどうですか。呼吸のように正確に一年に一回公転していますし、一日に一回自転しています。さらに怒ったように地震を起したり、噴火したりもしますし雨や曇りや台風があつたり穏やかな静寂の時もあります。さらにウイルスの中には石のように結晶化して環境が整うまで何万年も動かないものもあります。もちろん呼吸していません。

これ以外で納得する解答があつたら教えてください。いまの科学では説明できないのです。ですから意地悪な質問といつたのです。いや永久に答えは出ないと思うのです。つまり区別すること自体が無理であると私は考えます。つまりすべてが生命体と考えたほうが素直かもしれないのです。ですから私たちが「生命がある、ない」と言う事自体が便宜的な表現なのです。とりあえず現時点ではそうなのです。生物学の歴史を見ても生物の定義ができたような時がありました。結局、変わった生命体が発見されて否定されたのです。これは大変重要なことですが、つまりすべての科学が永久に「過程」であるという事を教えられるのです。「過程」と考えずに「結論」と考えるのは、宇宙の大きさや偉大さの分からぬ「身の程知らず」といえないでしょうか。長い間、人類を惑わせたビッグバン説についてです。実質的に滅んでしまったビッグバン説は「宇宙」も「時間」も、笑うのさえ馬鹿馬鹿しいぐらい小さく限定してしまいました。宇宙が一〇〇億年か二〇〇億年の歴史しかないのに最低八〇〇億年かかる超銀河の大集団が発見されて滅びました。科学が「過程を知る」ものであると認識すれば、アホー派（アインシュタイン、ホーキングの主流派）のように、派閥を作つたり反対意見を排斥したりしなかつたでしょう。ホーキングなど、無節

操にも、何度誤りを指摘され自説を更させたでしょうか。そのたびに本に出し多くの人がぞろぞろと追いかけてくるのです。世界が気付きはじめ限界が来ています。例えば、ある仙人があなただの前に現われて「全宇宙は一〇〇億年か二〇〇億年前にできて、その前に何もなかった。その前の歴史はないのだ。あえて言うなら虚数時間がある。広さもせいぜい一〇〇億光年か二〇〇億光年までで全宇宙は終りでその先は何もないのだ。空間さえもないのだ。あえて言うなら空間が曲がっているのだ」と言つたらあなたは信じますか。そういわれて宇宙のどの様な姿が浮かびますか。その宇宙のイメージを思い浮かべてください。思い浮かばないとしたら数学を利用した嘘だからです。子供に聞いてみると「なにもない先はどうなつてくるの？」と素直に聞き返されます。アダムスキーが、「子供に学べ」と言っているのはその事です。子供のほうが大人より真実を見ているのです。三才の子供は容姿、貧富、人種、心身障害者と差別するでしょうか。平等に遊びます。親があの子と遊ぶなどか教えて偏見や差別を生んでいくのではないのでしょうか。

ある科学者は「新しいものが発見されるまでの命である。体積がある以上またみつかるのである」と言っています。皆さんも考えてください。宇宙がそんな単純に割り切れるかをです。アダムスキーが「見えるもの、見えないもの、あるいは原因と結果の双方が認識され、一つにされなくてはなりません」と言っているように、物と物でないものの区別もできません。これは、釈迦が「色心不二（しきしんふに）」とはるか昔に言っています。「色」とは目に見えるものすなわち物、「心」とは心のように目に見えないもの、一体不二で区別できないと言っているのです。仏像が蓮の上にのっているのは、蓮が汚れた泥沼でも染まることなく清浄な花を咲かせる意味と、花と実を同時につける、つまり原因と結果は同じ、すなわち「因果俱時（いんがくじ）」を現わすからです。アインシュタインの、エネルギーが多く集まったものが物でエネルギーが少ないものが物でないというのはいつの側面から見た仮説です。これは真実に近いのかも知れません。これからの研究すべき科学の課題に磁石がなぜ引ついたり反発したりするのか、重力はどういう原理で起こるのかも分かりません。すべてマイナスがあるのに重力にはないのか。電気の原因も同じです。現象はわかるけれどもどうしてそうなるのかが分からないのです。

つまり宇宙とは仏教でいうところの思議できない世界、つまり不可思議なものです。では絶望するのか、それは違います。人間よ謙虚になれと宇宙が我々に教えているような気がしてなりません。簡単な理論で宇宙を知ってしまったかのような傲慢さは捨てるべきです。アダムスキーが紹介した太陽系の人々のように、謙虚に楽しく勉強するべきなのでしょう。勉強するにつれて新しい発見に驚き心を開かれる。派閥もセクトもなくお互いが尊敬しあい、人間という生を楽しんでいるのです。こういう状態だと科学は素晴らしい進歩を遂げるだろうということは私でも理解できます。スペースビープル（太陽系のはるかに科学の進んだ人たち）が「宇宙はまだ分からないことで満ちている。人間なるものが宇宙の英知の結晶である。お互い助け合って、勉強して、人間性を向上させながら楽しく生きていこう」といつているのです。もしその様に生きてゆかないなら、その様な世界に輪廻転生して、そうする様にレッスンを受けるというのです。宇宙はそういう仕組みになっているぞというのです。どの道を選ぶのかは本人の自由です。因果応報です。このとおりだとすると宇宙は何と平等なんでしょうか。ゆえに、不幸な境遇に生まれても、たまたま幸運な境遇に生まれてもすべてレッスんだというのです。

日本人がアダムスキーを抵抗なく受け入れやすいのも、聖徳太子以来の仏教の精神的風土があるのだと思われまゝ。ただし、現在の日本の宗教の多くは出生での差別である世襲制と金儲け主義に墮落しています。

輪廻転生とは

つぎに輪廻転生についてです。ここでも科学はそんなものあるわけないと限定していますが、これも滅びざる運命にあります。エネルギー不変の法則はどう考えるか。イワン・ステイブソソ著「前世を記憶する子供たち」（日本教文社）の研究が証拠です。生まれてから教えない外国語を話す子供など、客観性のあるものを収録しています。

生まれてから子供が不自然なくらい早く物事を覚えて行く事実。最近では天才と呼ばれる人は過去の記憶を残しているからだという説もある。さらに催眠術で過去世の記憶を思い出させて科学的に検証していく本も出ています。次に宇宙が生命体であるというもう一つの根拠を説明したい思います。電子顕微鏡で見れないウィルスは複雑です。分裂して増えるプログラム、学習行動、体の構成、敵と認識して逃げたり、食べ物と判断して食べる行動、体の仕組みを変えて薬に対応する知恵、結晶になって冬眠する行動、限りなく

ある食物を消化する仕組み、体内に潜り込む作戦行動などあげればきりがないう位です。これをプログラムするとして最新の大型コンピュータを一万台使っても無理でしょう。そうすれば原子一つづつが組みあわさって数百個集まって一つの記憶素子を構成するとしたら電子顕微鏡で見れない規模のウィルスの体ではとても収納は無理です。つまり、原子一つでさえ考える能力があるといわれなければ説明がつかないのです。つまり何の生命傾向を持たない積み木が集まっても、生命体にならないように思うのです。素粒子さえ考える力もっているぐらゐの規模でないとウィルスの行動パターンは体内に収容できません。そうすると、どう見ても原子や素粒子に思考能力があると思えないのです。この意見は唐突に聞こえるかも知れませんが、重要ですから良く思索してください。意識を発現する場がないから見えないだけではないでしょうか。見えないから無いとはいきけません。

現在科学では海が生命の源であつて、そのスープの中から原子が偶然がかさなつて生命ができたというのですが、そんな馬鹿なことはありません。では、その人に質問します。「人間が作らずに偶然に自動車ができましか」その人も人間が作らないとできないと答えるでしょう。ここで私ならこう質問します。「自動車と生命とどち

優秀な日本のN2ロケット

話が小さくなりましたから宇宙に目を向けましょう。日本のN2ロケットとアポロのサターンロケットを比べてみましょう。大きさは別として性能は問題になりません。サターンは燃料がケロシンつまり灯油なのです。超高压縮の液体酸素、液体水素の燃料とは比べるべくもありません。日本が断然優秀なのです。

（以下次号）

★埼玉支部主催 UFO 写真展盛況

昨年九月一二日から二八日までの二週間、埼玉支部は埼玉県春日部市の春日部郵便局内ギャラリー「ふれあいの広場」で開催。全期間を通じて総計約八〇〇名の入場者があり、多大の成果をあげた。会場に準備した日本GAPの入会案内書の希望者は一七名あり、なかには入会した人も数名あった。今後も定期的に開催して輪を広げる。

★関西支部設立第一回月例セミナーも大盛況



▲講演中の久保田会長 撮影/梁瀬和孝

昨年九月二七日には大阪府堺市の南大阪地域地場産業振興センターで開催された第一回のセミナーに久保田会長が特別出講し、「宇宙哲学で幸せな人生を築く方法」と題する素晴らしい講演を行ない、約六〇名の出席者に多大の感銘を与えた。これは支部大会ではないので本誌に一頁大の記事は掲載し

ないが、名実ともに大会に匹敵する豪華な内容であった。関西支部の役員の方々の真摯な努力は特筆に値すると会長は絶賛している。

★北海道支部、UFO観測会を実施

北海道支部は昨年一〇月三日にUFO観測会を開催、かなりの成果をあげた。場所は小樽市の朝里ダム近辺の草原地帯。当日夜は月が出ていたが、その月の光が全く見えなほどに厚い雲に覆われていた。真冬に近い寒気が体を凍らせるため、用意した材料で熱い豚汁をつくって全身を暖めながら一八名で円陣を組んでたびたび上空に呼びかけたところ、九時五八分に雲の中を高速で移動する光体一機を全員で目撃。その直後にまた反対方向へ移動する光体を全員で見た。一時半に中止。午前〇時半に六台の車で全員無事札幌に帰着した。

★日本GAP総会、盛大裡に終了

昨年一〇月一〇日、恒例の総会が都内港区東京タワー前の機械振興会館大ホールで開催され、満員の参会者を前にしてアメリカから馳せ参じたダニエル・ロス氏が「火星における異星人の活動」と題する講演を行ない、多数のスライドを映写して大好評を博した。夜は六階の大部屋で立食パーティーが開催されて旧交をあたためた。詳細は本誌冒頭記事を参照されたい。

★日本GAP、UFO観測会も大成功

一〇月一〇日の総会の翌日、約五〇

名の会員は江戸川区の葛西臨海公園でUFO観測会を実施。野球ボール型のUFOが数度出現して全員を驚喜させた。詳細記事と写真は九頁より。

★久保田会長、東京造形大学で講演

一〇月三〇日にまたも会長は八王子市の東京造形大学で約一〇〇名の一年生男女学生を対象にUFO問題に関する講演とスライド映写を行なった。これで同大学への出講は八回目になる。終了後も五、六名の女子学生が長時間会長を取り巻いてUFOに関する質問を浴びせかける姿が印象的だった。



▲久保田会長造形大での講演 撮影/津田篤孝

★第七回秋田支部大会も大好評

去る一一月二日に秋田市のアキタパークホテルで開催された支部大会は熱意ある会員のもとに熱気溢れる大会が実施された。久保田会長の講演「アダムスキー問題と世界の未来と人間の生き方」と題する雄大な講話一同は

深い感銘を受けた。夜は同ホテルの新館で和気あいあいたる会食と福引が開催されて友好を深めた。秋田支部は隔年ごとに支部大会を開催する真剣な集団。今回で七回目になる。

★第六回久保田先生との質疑応答会

GAP傘下の強力な支持グループである黎明会はすでに何度も質疑応答会を開催しているが、去る一一月二〇日には六回目の会合を神奈川県川崎市「かながわサイエンスパーク」で開催し、久保田会長を囲んで多数の質問を浴びせながら楽しい四時間をすごした。夜は忘年会として南欧食堂「アマート」で非常に愉快な一夜をすごした。これで昨年度のGAP関係の主な行事は無事に終了した。

★日本GAP維持会員制度

日本GAPは普通会员とは別個に維持会員制度を設けている。これは一種の寄付制度であり、GAPの運営と発展に寄与するための援助活動で絶大な役割を果たしている。これに加入すれば久保田会長が個人で毎月始めに発行する「意識の声」と題するエッセイが維持会員に直送される。これは本誌に掲載されない秘話、会長が実践している宇宙的能力開発法、会長の珍しい体験、行事速報その他が満載されている。美麗オフセット印刷。維持会員加入希望者はハガキに「維持会の案内書送れ」と書いて日本GAP本部に出せば直送される。

〈宇宙〉

■水六〇億トン、月に眠る

米航空宇宙局（NASA）は九月三日、月の両極には六〇億トンに上る氷があることがわかったと発表した。月探査機ルナプロスベクターの観測で今年三月、水の存在が確認され、量は最大で三億トンと推定された。同じデータを詳しく分析した結果、それよりはるかに多いことがわかった。琵琶湖の全水量の約四分の一に当たる。

水の存在は、水素原子に当たって減速した中性子をとらえることで確認された。彗星などが月に衝突し、その水分が両極地方の地下に氷の形で閉じ込められたとみられる。月の組成の新しいモデルなどを駆使した今回の分析で、氷は月面から最大四〇センチまでの深さにあり、純粋に近い水でできていることもわかった。また、北極の方が南極より多い。

（九・四 朝、読、毎）

■火星の衛星フォボス、微粒子が表面を覆うNASA探査機の写真公開

米航空宇宙局（NASA）は九月一日、無人探査機マーズ・グローバル・サバイヤーが撮影した火星の衛星フォボスの写真を公開、フォボスの表面はほこりのような微粒子で覆われており、その厚さは約一メートルに及ぶと発表した。フォボスは火星に二つある衛星の一つ。写真は八月一九日、約一〇八〇キロ離れた場所から撮影した。ジャガイモのような長円形（長さ二八キロ、幅二〇キロ）のフォボスの約四分の一が写っている。

（九・二二 日経、朝）



▶ホコリのたまったフォボス。

■天王星の王冠

米宇宙望遠鏡研究所は一〇月一四日、ハッブル宇宙望遠鏡で撮影した、リングに囲まれた鮮やかな天王星の画像を発表した。写真。

撮影は昨年八月八日。天王星を取り巻くリングがくっきり映し出され、存在がわかっていいる衛星一七個のうち一〇個をとらえた。目には見えない近赤外線を使った撮影。

◀天王星の王冠。

（一〇・一〇 朝）



■イオを包む幻想的な光

米航空宇宙局（NASA）のジェット推進研究所は一〇月二三日、木星の衛星イオに発生したオーロラを初観測した木星探査機「ガリレオ」の画像を公表した。主に北極や南極地方に見られる地球のオーロラと異なり、イオ全体を淡く幻想的

な七色の光が包んでいる。

ジェット推進研究所は同日、オーロラ画像のほか、木星で初めて観測した雷の画像や、木星の衛星エウロパの表面に見つかった、野球のキャッチャーミットそっくりの「丘陵地」の画像も写真も発表した。

（一〇・一四 毎夕、朝）

■高さ二六〇〇メートルの火星火山

米航空宇宙局（NASA）は一〇月一二日、無人火星探査機マーズ・グローバル・サバイヤーが撮影した火星の火山「オリンパス山」の画像も高解像度カメラで撮影、NASA提供も公開した。高さは二六〇〇メートルと、太陽系内で最大規模。裾野の直径は長い場所です約六〇〇キロ。山腹の傾斜が二度から五度のゆるやかな山だ。今年四月、高度約九〇〇キロの上空から撮影した。

（一〇・一四 朝）



▶高さ二六〇〇メートルの火星の火山



▲木星の氷の衛星エウロパの氷の表面で見つかったキャッチャーミットに似た地形。NASA提供

■海王星で音速超す風

エネルギー源不明、気象活動も活発
米ウイスコンシン大の研究チームは一〇月一四日、ハッブル宇宙望遠鏡で撮影した海王星の画像から、海王星表面では音速（時速二二五キロ）を超える時速一四四〇キロの猛烈な風が吹き荒れていることがわかった、と発表した。

地球の風や嵐は太陽のエネルギーが原動力。ところが海王星は太陽からの距離が地球の三〇倍の約四五億キロもあり、太陽から届くエネルギーの密度は地球の九〇〇分の一しかない。同大のローレンス・スロモフキ博士は「風が何をエネルギー源にして吹いているのかは不明。海王星の謎が増えた」と指摘している。

同博士らはハッブル宇宙望遠鏡で、海王星を連続撮影。近赤外線望遠鏡も使って大気の動きを調べた。その結果、赤道付近では超音速の風が吹き荒れていることが判明。赤道と平行する帯が見え、緯度によって気候帯が分かれていた。一定の緯度で発生する雲の広がりや高さ、撮影のたびに変化しており、活発な気象活動が起きていることも分かった。

（一〇・一五 日経 読）

■自ら材料に睡眠・代謝探る

シャトルの科学実験、ひとまず幕
スペースシャトル・ディスカバリーで二度目の宇宙飛行を果たし、日本時間一月八日未明に帰還した向井千秋さんは、老化の研究や植物の成長など約三〇種類の科学実験を次々にこなした。向井さんのモットー「仕事場は宇宙」時代が強く印象づけられたが、シャトル上で、こうした実験を行なう飛行は、実は今回が最後だ。今後は国際宇宙ステーション（宇

宙基地）建設のための飛行が中心になる。九日間の旅で、向井さんが取り組んだ実験のいくつかをふり返ってみたい。

ディスカバリーでは、微小重力を利用して、生命科学や医学、材料工学などの分野で、八〇種類余りの実験が行なわれた。このうち、向井さんが主に担当したのは、魚を使った宇宙酔い実験や、植物の成長や、ホルモンの働きを調べる植物実験だ。医師の経験を生かし、睡眠リズムやたんばく質の代謝を調べる実験にも参加した。向井さんは記者会見で「予定された実験はすべて順調に進んだ」と話した。結果は研究者がくわしく解析した上で、公表される。

約九〇分で地球を回り、昼と夜が繰り返すシャトルの上で、体内時計はどうなるのが。向井さんとジョン・グレン上院議員（七七）は、睡眠リズムを調整するホルモンの一種、メラトリンを飲んで、睡眠中の呼吸数や脳波、心電図を取った。

（一一・一一 朝、他）

■21世紀半ば、人類を火星に

衛星次々打ち上げ NASA探査機、一月から次々

米航空宇宙局（NASA）は一月一三日、二二世紀にかけての火星探査計画を発表した。昨年二月一〇日に気象観測衛星、今年一月には極地着陸機を打ち上げる。二〇〇一年には赤道付近の観測を進め、二〇〇三年からは土などを採取して持ち帰る。その後二〇一三年まで、ほぼ二年ごとに複数の打ち上げを実施し、二二世紀半ばまでには人間を送り込みたい考え。人間の火星着陸は早ければ二〇二〇年にも実施するとの見方も出ている。

（一一・一四 日経）

〈医学〉

■羽根車式人工心臓を開発

小さな羽根車を高速で回転させて血液を送り出す仕組みの人工心臓を、医療機器メーカー・テルモ（本社・東京）などのグループが開発している。小型化が可能で壊れにくく、血栓もできにくい工夫がされている。脈拍のない、静かな血流が体にいのか悪いのか気になるところだが、昨年八月には動物実験で八六四日間の長期生存記録をつくった。二〇〇七年頃までには実用化させたいという。

（九・一一 朝）

■コーヒーは胃にやさしい！

毎日飲めば、癌発生率三分の二に

コーヒーを毎日飲む人は、飲まない人に比べて胃癌にかかる率が三分の二程度と低く、特に日に三杯以上飲む人では約半分になっていることが、愛知県癌センターの榎崎（たけさき）俊郎主任研究員らの大規模な疫学調査で分かった。ただし煙草を吸うと効果はなくなるという。九月二〇日から横浜市内で開かれた日本癌学会で発表された。

榎崎さんたちは、名古屋に住む四〇〜七九歳の男女二万二〇〇〇人余を対象に、一九八五年にアンケートし、食生活や喫煙の有無など生活習慣を調べた。回答した男女一四九四六三人を、九六年まで一年間にわたって追跡調査し、胃癌にかかったかを確認した。

その結果、コーヒーを飲む量が一日一杯未満の人たちは八八一人だったが、うち一四三人が胃癌にかかった。約六二人に一人の割合になる。これに対し、毎日二杯飲むグループでは胃癌患者は八五人に一人、三杯以上だと同一〇一人

に一人だった。

榎崎さんはさらに統計的な手法を使い、喫煙など胃癌に影響すると思われる他の習慣の影響を取り除き、厳密な比較を試みた。すると差はもっと開き、一杯未満の人に比べて、一、二杯飲む人は胃癌にかかった率が約三分の二、三杯以上の方は約半分という結果が出た。

ただし、コーヒーを毎日飲んでも喫煙歴が一年以上ある人の場合、胃癌にかかる率は、どちらの習慣もない人と同程度だった。たばこを吸ってコーヒーを飲まない、胃癌の率は、両方やらない人の二・二倍も高かった。（九・一七 毎）

■血液中の免疫細胞NK T

癌細胞殺す働きを千葉大、動物で確認
血液中にある免疫細胞の一種で、通常は働いていないNK Tと呼ばれる免疫細胞が、活性化を促す物質で刺激されたり、体外で活性化させた後に戻したりすると、癌細胞を殺す働きがあることが、千葉大医学部の谷口克教授（免疫発生学）らの八ツカネズミを使った実験で明らかになった。実験でつくった白血病や肺癌、大腸癌、皮膚癌の一種であるメラノーマのいずれの転移癌も消えたという。九月三〇日から横浜市で開かれた日本癌学会で発表された。

NK T細胞は、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患を抑える働きがあることが知られている。ふだんは眠った状態で血中にあり、αガラクトシルセラミド、と呼ばれる生体内の物質が存在する時に初めて動くようになる。

活性化された後は、自分の細胞かどうかを見分ける能力をもとに、自分以外の細胞を殺す作用があることが分かっている。

る。そこで谷口教授らは、NK T細胞を活性化し、自分以外の細胞と認識される癌細胞だけを殺す方法を考えた。

ハツカネズミに、白血病のほか肺癌、メラノーマの癌細胞を入れそれぞれ血液を通じて転移癌をつくらせるようにした。このハツカネズミ五匹ずつに活性化を促す体内の物質、活性化させたNK T細胞などを投与したところ、実験に使った三グループとも二週間後には転移癌が消えてしまった。一方、癌細胞だけを入れておいたものは、癌が数ミリほどの大きさに成長していた。

これまでの癌の免疫療法では、癌の種類ごとに免疫細胞をつくるやり方が試みられてきた。谷口教授は、この方法で基本的にすべての癌に対応できるはずだ。大きな癌を消すことはできないだろうが、小さな癌や転移癌を防ぐことは充分可能だと思ふ」と話している

(九・二六 朝)

■「ポリフェノール入り」続々

赤ワインで脚光、健康志向が背景などに効果があるとされるポリフェノール入りをうたった製品が相次ぎ登場してきた。チョコレートをはじめとする食品類や化粧水からベトトフードなどまで幅広く、いずれも売れ行きは好調という。ポリフェノールは赤ワインやカカオ豆に多く含まれ、体に害を及ぼす過酸化脂質の生成を抑制するとされる。動脈硬化予防や発癌抑制、抗ストレスなどの作用を持つといわれるが、化学的な特定や作用の詳細な説明は今後の研究の課題となっている。

(二〇・二八 日経)

■どんな臓器も作れる可能性

米の医師らが「万能細胞」増産に成功 神経や筋肉、骨など人体のどの組織でも作り出せる分化万能の細胞を分離して増やすことに、米ウィスコンシン大のジエームス・トムソン博士らが世界で初めて成功し、一月六日付の米科学誌サイエンスに発表された。

移植用臓器を無尽蔵に生産するなど、幅広い応用の可能性を開く成果。一方、この細胞から人そのものをつくり出すことも理論的には可能で、クローン技術に続き生命の操作につながるとして倫理的側面の議論も巻き起こしそうだ。

この細胞は胚性幹細胞(ES細胞)と呼ばれ、マウスや家畜の一部ではすでに培養に成功している。

研究グループは、体外受精した人の卵子を使用。胎児になる前の受精卵から内部の細胞を取り出した。この細胞を、マウス細胞の層の上のせて培養し、あらゆる組織をつくり出せる未分化の状態を保ったまま増殖を続けるES細胞の複製に成功した。

(二一・六 毎夕)

へハイテク

衛星利用の携帯電話ー地球上どこでもOK

携帯電話がいよいよ衛星利用時代に突入する。米イリジウム社が昨年九月から他社に先駆けてサービスを開始し、これを追うように英I-CO(アイコ)社などが参入する。地球上のどこからどこへでも携帯電話で通話でき、ビジネスだけでなく、災害時や通信事情の悪い地域などでの幅広い活用が期待されている。

米通信機器メーカーのモトローラ社が一九九〇年、多数の通信衛星を地球の周回軌道に打ち上げ、地球規模の携帯電話

網を整備する「イリジウム計画」を提唱した。翌年、イリジウム社が設立され、日本や欧米、中国など一五か国の一九社が資本参加している。

計画によると、地球の南極方向と北極方向を結ぶ六つの低軌道(高度七八〇キロ)上を二機ずつ計六機の衛星が回る。衛星一機が直径四四〇〇キロの円形の地域をカバーし、イリジウムの最大の特徴である衛星間通信などを使って地球を包含する。

静止衛星を使った従来の衛星通信では、衛星と地球の距離が三万六千キロもあることからアンテナや送受信機の小型化が難しく、手軽には利用できなかった。また在来の携帯電話は、日本中どこでも使えるわけではなく、通信システムが異なる国との間でも使えなかった。しかし、イリジウムでは、従来の携帯電話器よりも二回り程度大きい携帯電話器さえあれば、ビルなどの障害物のない屋外なら、どこからどこへでも通話ができるという。

衛星の姿勢制御や軌道修正などの運用は米バージニア州の衛星ネットワーク運用センターで行なわれ、追跡管制制御局は米、カナダなど四カ所に設置されている。イリジウム・システムと地上の在来電話回線網、携帯電話回線網とを接続する関門局を、日本(長野県)など世界一地点に置く。投資総額は約七〇〇〇億円の大型事業となる。

昨年五月から米国のデルタ、ロシアのフロン、中国の長征の各ロケットでほとんどの衛星を打ち上げ済み。地上施設もほぼ完成し、九月三日から日米欧などでサービスを開始する。利用者として世界を移動する国際派ビジネスマンや通

信サービスを含め、三〇万台の加入をめざしている。

イリジウムの携帯電話器は四〇万円前後。契約手数料と月額基本料金が要る。米国出張中にイリジウム携帯電話で日本のオフィスに電話をかけると、一分当たり約六三〇円かかる。(八・二五 読者)

■いよいよパソコン「着用」時代

広がる音声認識ソフト SF映画「2001年宇宙の旅」に登場したような会話するコンピュータにはまだ遠いが、その要素技術の一つ、音声認識ソフトがパソコン上で実用レベルに達した。マイクに向かって文章を読み上げると、すぐに漢字がなまじり文が表示される。翻訳補助などプロも使い始めたこのソフトの利用例、パソコンが言葉聞き取る仕組みを探った。

日本語の音声認識ができる代表的なパソコン用市販ソフトは日本IBMの「ピアボイス98」、NECの「しゃべっていいメールVer2.0」。ともに昨年七月に発売され、特定の話し手でなくても認識できる。普通に文章を読み上げるように連続して発音すればよい。

沖北陸システム開発(金沢市)が三月に発売した英会話学習ソフト「ネイティブワールド」は英語の音声認識ができるソフトを内蔵している。生徒が話した英文に応じてパソコン画面に現われる「先生」の受け答えが変わり、対話しているような感じで英語を学べる。

電話したい相手の名前を言えばダイヤルしてくれる携帯電話、地名を告げると表示してくれるカーナビなど、音声で操作できる機器も登場している。

(二一・二一 朝夕)

George. H. Williamson-Man Of Mystery
by Michel Zirger

謎の男ウィリアムソン

●ミッシェル・ジルガー／久保田八郎訳

(完)

一九五七年七月九日、P・ミゲルは昨夜ベッドの中に吸血コウモリにもぐり込まれた！我々はそいつを殺した。今日は午前七時四〇分に例の大岩に向かつて出発する。カヌーに乗って三人のモチゲンガ族の少年をガイドにする。パテアチは二〇歳、ルイは一七歳、メンドサは八歳だ。

午前八時一〇分に川の右岸のモチゲンガの一家にまず到着。数本の急流にカヌーを乗せる。

一〇時四五分、少年達が弓矢を持ってサルを捕獲に行くが、ついていない。午後二時四五分、シンキベニア川の河口に到着し、五時にキャンプする。プラヤで少年達が弓矢を持って魚とりに行く。明日は大岩に着くだろう。

七月一〇日。午前五時四五分に起床。少年達は漁に行く。七時四五分に出発。八時四五分、川の右岸のシヨリティア(クリークか?)の河口に到着。正午に川の右岸のインコナドの河口近くのモチゲンガ族の一家に着く。一時一五分ころ、川の左岸のクリーク、テラ

パリの河口に着く。この若者達は短パンをはき、黒い羽のヘッドバンドを着けている。

午後二時四五分、再度シンキベニア?に来る。いま川には全く水がない。三時一五分にプチャラキに到着。夕食にヤツカを準備。プチャラキのモチゲンガ族の家から約五分後に大岩に着く。大岩はものすごく巨大なり！明日詳細を調査するつもり！

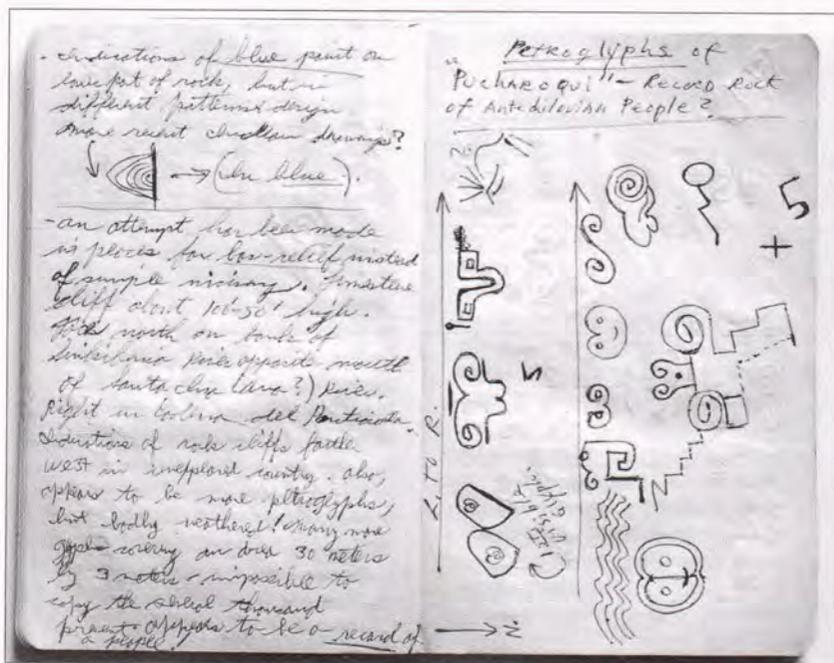
七月一日。午前六時半に出発。七時半に大岩へ着く。シンキベニアでバルサ材の筏を作り、二時半に出発。午後四時半にカヌーの引き揚げ地へ到着。少年達は大岩の所で昼前に弓矢でヌートリア(編注||南米産のネズミの一種)をとる。夜九時にサン・ミゲル教会へ到着。筏が岩に乗り上げたときにマイクが足を痛めたこと以外は良い旅だった。みたところただの捻挫だ。大岩の下部にかすれた塗料の跡がある。しかし近ごろのインディアンの絵とはもつと違うデザインようだ。

簡単な彫り込みの代わりに浅浮き彫

りを各所にほどこした跡がある。一〇〇ないし五〇フィートの石灰石の崖がある。サンタ・チャ・ラノ川の河口の反対側のシンキベニア川の岸辺に岩が見える。コデナ・デル・ポンティオコラに入る。未探検の地域の西に岩の断崖があるようだ。また、もつと多くの

彫刻があるようだが、ひどく痛んでいる！幅三メートル、長さ三〇メートルの面積を覆うようにしてもつと多くの図形が描かれているが、無数の図形をコピーするのは不可能だ。ある種族の記録らしい。

(完)



▲ウィリアムソンの手書きノート。右の図形は南米奥地で発見したもの。ノアの大洪水以前の種族のものかと彼は記している。

私が目標とする 宇宙への道(4)

● 渡辺康英

イスラエル旅行が貴重な体験に なった

昨年のイスラエル旅行については、これでイスラエルに行くのは最後だということでしたが、またぜひイスラエル旅行を実施されますようによりしくお願い致します。

私自身は二〇代前半にGAPの研修旅行に参加させて頂いたことがございました。そのときは初めての海外旅行だったものですから、とにかく緊張しましたし、当時は今よりもっと底知れぬ低俗な状況だったのですから、自分自身としては研修というような形にはなかなかならなかったのですけれども、今回のイスラエル旅行につきましても、今回のイスラエル旅行につきましては、出来るだけ自分を冷静に保つて浮ついた部分を押さえておりました。特に久保田先生を始めと致しまして、参加された方々の非常に高いレベルの波動をたつぷりと頂きまして。この旅行自体が私の一大転機という形になったわけですね。

結局いままでは三日坊主的に宇宙哲学を勉強してまいりましたけれども、

帰国以後ミラクルワードとか大宇宙思念法とか、あるいはアダムスキー関連の文献を毎日少しずつ読むことなどが継続して実行できるようになりました。ですから、あの旅行が私にとっては貴重な体験になったわけですね。

(編注)ミラクルワードというのは、自分の望む物事を実現させるために、「もう実現した」と反復して唱えることを意味する)

スペース・プログラムに貢献 すること

このほか、週末の土曜や日曜などにはスペース・ブラザーズ(異星人)に対する呼びかけも行なっています。こうしたことを継続して行っていますと、やはり自分の気持ちがあつてく落ち着いてきて、前向きの生き方が出来ているのではないかと思っております。私の目標ですけれども、自分があと何年生きるかは分かりませんが、納得のできる充分に満足できるような生き方、つまりどのようなことをしたらよいのかということを考えたところ、最終的には二つの目標が残ったのです。その一つは、スペース・プログラムに貢献すること(編注)スペース・プログラムとは太陽系の惑星群の人達が地球を救済するために行なっている活動を意味する)。もう一つは自分自身が世界的な環境デザイナーになることです。

一つ目のスペース・プログラムに貢

献することですが、スペース・プログラム自体がどういうものなのか自分では全然わかりません。ですからGAPの活動に多少なりとも協力させて頂ければと考えております。今からトレーニングを続けてゆけば、一〇年後ぐらいには多少はましな人間になってお役に立てる局面も出てくるのではないかと考えております。

また自身の仕事の面で宇宙哲学的な面を多少なりとも加えることが出来たらと考えております。私は仕事で地方の振興について関わりを持つておりまして、現在ほどどちらかといえますと世界的に経済効率一辺倒の社会が広がっているわけですが、もう少し人の善意の輪というものを広げてゆけるような社会システムを研究してゆきたいと考えております。

仕事の面でも宇宙哲学を導入

いろいろと出張することがありますが、地方へ行く機会が多いのですが、やはり都会と比べますと、地方の方が親切な方が沢山いらっしゃるような気がいたします。先日も長崎県の対馬へまいりましたが、そこで夕食をとる場所を通りかかるとおばさんに尋ねたところ、いろいろと親切に教えてくれました。雨が降っていたのですが、傘もささずに教えてくれました。地理が不案内なものですから、私がよくわからないよ

うな顔をしていますと、家が近いから私の所へ来なさい、車でつれて行ってあげますからと、そこまで言ってくれるような方でした。本当に親切な方でした。

そうした親切さや暖かさを社会のシステムの中にうまく活用して、それがうまく循環するような、そんな社会システムをこれから考えてゆきたいと思っております。今は情報ネットワークが世界的に進んでおりまして、経済効率、市場効率一辺倒のシステムが行き過ぎておりますので、そうした面に多少なりとも歯止めがかけられるような地域社会を造ってゆきたいと考えております。仕事の面でも宇宙哲学の視点を導入してゆけたら素晴らしいことではないかと思っております。

古代の巨石建造物に関心を 深めた

もう一点の目標の世界的な環境デザイナーになることですが、有名になりたいということから世界的というわけでは全くなくて、いわゆるミラクルワードを実践するときに、世界的とか絶対的とか、そういったものを頭につけた方が何か効果があるのではないかと思ひまして、それで世界的と大げさな看板をつけているわけですね。

そこで私の考えている環境デザイナーというものの一端をこれからご紹介させていただきます。(以下次号)

ホワイトサンプズUFO搭乗事件(5)

ダニエル・フライ／久保田八郎訳

〈前回からのあらまし〉

一九五〇年七月四日の夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場で技師として活動していたダニエル・フライは、暑さに耐えかねて砂漠地帯へ散歩に出かけたとき、突然空中から不思議な円形の物体が眼前に降下して着陸した。驚いている彼の耳にどこからともなく人間の声が響いて、地球の科学の誤りその他について英語で説明し始めた。フライは茫然として聞くのみ。この物体は別な太陽系の惑星から来た宇宙船らしい。やがて彼はそれに乗ることをすすめられて、信じられないような超高速でニューヨークを目指して無音で飛行したのである。この物語は実際に発生した驚異的事件として世界のUFO研究界にショックを与えた。この記事は生前に彼から翻訳権を与えられた訳者による連載の第五回目である。

異常な強風は地球の人々を苦しめるもう一つの問題です。ハリケーンとして知られる旋回する嵐は大洋上で形成され海岸に向かって動きます。嵐の力は巨大な波を起こし、非常な速度と抗しきれない衝撃力をもって海岸に運んで来ます。

惑星上に住む人々を常に脅かす多くの災害をみれば、ほとんどの技術力をもった人類がより単純で、安全な生活ができる自分たちの人工惑星を建設する理由を理解することは困難ではありません。彼らの一部はもちろん自分たちの惑星上の条件とは無関係に、彼ら自身の宇宙の住み家を建設するでしょう。それは人が首尾良く発達するために、制限されない環境を求め、遅れか早かれ一個の小さな惑星上の制限にあきらめようからです。

私たちの歴史に記録されている最初の永久的な宇宙の住み家は五万世代前にこの銀河系の中心近くにある古い惑星のいくつかの住人によって創られました。それらは性能の制限された、近接した二つの恒星の間の空間を数世代

もかかって渡る比較的遅く動く宇宙船でした。新しい恒星が惑星系をもっていることが発見されると、次の世代か二つの世代がその惑星を探索するのに奉仕し、それから次の恒星へと移動したようです。

宇宙船を建造する能力に達したどの惑星の人類も、過ぎていく世代の内により多くの宇宙船を建造したし、各々の世代において、他の惑星上のより多くの人類が宇宙船を建造する能力を獲得しました。宇宙飛行が始まって最初の三〇世代の間に、各々の世代で、宇宙船の総数は少なくとも一〇倍になつたと見積もられています。しかしながら、新しい技術が古い宇宙船をスクラップにしたり再建造することを促進したために増加率は次第に小さくなりました。現在の最上の見積もりでは、小型輸送船を含まないで永久宇宙船の総数は一〇の三三乗ほどといわれています。

各々の宇宙船は今やその場所には関係なく、近接している他のいくつかの宇宙船と電磁氣的通信をすることができ、情報や発見のほとんどが連邦の

データ船の一つによって集められ記録されるまで、船から船へ中継されています。社会の発達において、人口が危険点をまだ超えていない惑星のために個別のデータバンクが置かれています。これは危険な時期に援助を必要とするならば、最も近くにいる惑星援助船によってすぐに援助が与えられるためです。

なぜアランが選ばれたのか

あなたがこの援助代表として、この特別な任務に選ばれた理由については、あなたの興味を満足させてあげるときが来たようです。その成功が確信されているとは言いがたいので、任務というよりは経験と言うべきでしょう。この場合、この行動をする人は、この惑星上に住居を定めなければなりませんので、その人はその体が高価な変身をすることなく、また非常に長い待機時間もなく惑星の環境に適応できることが要求されます。うまく適応するために必要な最少限の生理学的な

要求は計算され、表に作られました。その後、一般奉仕職員の記録をスキヤニングした結果は、あなたの肉体的特徴が、他の奉仕グループ員のものよりも、この要求により多く合致することを示していました。おそらく、そのような原始の人類に生理学的に似ているという理由で選ばれることはうれしいことではないでしょうが、それがすべてではありません。あなたの系図を調べると、あなたの遠い祖先の一部がこの惑星に由来していることが発見されました。それらの祖先は、彼らの子孫（地球人）がふたたび開始しようとする破滅によって、人類が居住するのに全く適さないようにしたのち、千世代くらい前にこの惑星を放棄したのでした。千世代というのは、かなりの時間的なギャップになりますが、生理学的特徴はほとんど完全に存続しており、あなたがここに住むことができるようにするための肉体的調整が比較的少なくてすむということがわかりました。しかし、この惑星の人間として受け入れられるためには、もっと大きな問題があるでしょう。

地球で生活するために

私たちが宇宙船内で使用している重力の二倍に近い重力にあなたの身体を慣らすことが必要でしょう。あなたの

筋肉、特に働いている器管を支える靱帯は強化されなければなりません。私たちが宇宙船内大気から得ている、惑星の大気には存在しない微量な要素をあなたの身体に供給する方法を見つけなければなりません。惑星に多く存在し、その一部は命とりになりうる細菌に対して免疫にするための広範なプログラムにあなたは耐えなければなりません。このプログラムを全部消化するには相当長い時間を要しますが、この時間は地球の言葉を学び、練習することと惑星の人々の歴史と習慣を学ぶことに使います。

少なくとも一人の地球人と直接にしかも連続的にコンタクトすることが必要です。一方、私たちは語られたり、書かれたりした言語の記録を沢山もっています。これらは、長い期間にわたって間欠的に記録されたものです。イデオムとアクセントは時間がたつと相当に変わります。あなたが一般市民として受け入れられるとしたならば、あなたの言葉は現在のものでなくてはならず、数世代も前のものでなくてはなりません。あなたが惑星にとつて異人種であることが発見されたとしたら、そこでのあなたの立場を完全に保持できなくなり、すべての任務は失敗に終わります。

惑星上をあちこち旅行するとしたら身分証明書が必要となります。また、お金として知られている交換のための

媒体の供給も必要となります。ただ一人の能力のある地球人の協力者が、これらのものをあなたのために用意してくれるでしょう。

地球人の一人との直接コンタクトの確立は、私たちのすべての問題の中で最も困難なものではないにしても、最もデリケートな問題でしょう。選ばれた人は私たちの目的を理解するのに十分な知能をもち、外部からの圧力にかまわず、彼自身の仲間を守る十分な自信をもっていなければなりません。また、それ以上に、自分の習慣や衝動や以前の信仰をさしはさまずに私たちの提案を考えることができなければなりません。これは地球の人類にはほとんど発見されないだろうと私が心配している特徴の組み合わせです。その上、コンタクトの手はずが整う前に選ばれた個人が必要な能力をもっていることを確かめなければなりません。

若い女性の説明を連続的に図示していたスクリーンは、彼女が小さくため息をついて向き直ったときに消えた。「この課程は、これで充分です」と彼女は言った。「食事と休みの時間です。あなたの休み時間は、私たちが思うままに用いる言葉とその他の情報の知識が、あなたの記憶細胞に直接に伝達されるように一般の休み時間より長くしてあります。それにそれとは別に、必要ではあるけれど退屈で時間をくう勉強の一部を消し去るためでもあります。

私たちはあなたの記憶に、これらのデータを軽く印象づけるでしょう。そのいくつかは消えてもいいし、地球でのコンタクトが確立したときには忘れなければならぬかもしれないからですが、首尾よく話し合うようになったとしたら、人類の言葉、歴史そして習慣の知識を最少限はもっていなければなりません。

ベラという名の女性

あなたは地球にとどまる間、アランという名を使用します。それは地球ではむしろ一般的な名ですし、あなた自身の名に非常によく似ているからです。あなたが私と連絡する機会があれば、私はベラという名で答えましょう。この名も地球ではめずらしくなく、ぬすみ聞かれたとしても何の注意も引かないでしょう。

二人は立ち上がって、食事室に向かった。そこで彼らは、船内の自動合成機によって用意された心をそそるいろいろの食物をつつましく食べた。

輸送宇宙船は種々の娯楽や骨休みの道具も提供しているとはいえず、これは仕事の旅であった。アランと彼の連れは食事の後すぐに寝室へ行った。最新式の宇宙船なので、それは宇宙船の中央部に位置し、寝る人が休んでいる間、ほとんど空中に浮くほどに重力が小さ

いのである。ここで、若い女性は自分の場所を探す前に彼がデータ送信器のヘッドピースを調整するを手伝った。宇宙船のやわらかい低い音は人の心をやわらげる音質であり、アランは自分を持つていよう未来のことに、ほんの少しの間だけ考えた後、ほとんどすぐに眠りにおちた。

地球の時間にして約一〇時間位のうち、アランはデータ送信器からの刺激で眼を覚まされた。彼は立ち上がり、注意深くデータ送信器のヘッドピースをはずして清浄室（クレンジングルーム）に入った。（長距離宇宙輸送に使用されるすべての物質は早くそして完全に再使用する必要がある、入浴のための水の浪費は禁じられていた。しかし、身体を清め、爽快にするための気持ちのよい効果的な方法が用意されており、大きな人工惑星では完全な入浴設備が常時使用できる）

食事室で、少しではあるが満足できる食事をとった後で、アランはあの小さな会議室にもどった。彼の連れであり指導者であるペラは少し前に着いており、彼の地球での任務のための用意を続ける準備をしていた。

「私たちは目的地（地球）に非常に接近しています。適切なコンタクトの調査が始まる前に、予備的な討議をする時間は沢山ありません。もちろん、コンタクトの後、あなたが惑星に第一歩を踏み出すまでには十分な時間があり

ます。

あなたが休んでいる間に、地球の主要な言語の一つの一般的知識はあなたに与えられています。あなたが地球人と話し合いを試みる前に実際に使用してみるために、今からその言葉を使い始めなければなりません。

私たちは惑星に対して位置を固定するでしょう。地球の表面から一四四八キロメートルの所です。「しかし」とアランがささげった。「それだけ多くの観測や着陸それに何回かの直接面と向かったコンタクトがあったとしたならば、地球の人々またはより進歩した人類は、この繰り返し行なわれたモニタリングをよく知っており、急激に進歩した彼らの技術によって、我々が接近していることを察知することができ、計測器を持つているにちがいないし、彼らが依然として、理由よりも衝動によって動機づけられるのだとしたら、我々が固定した位置を保つことはむしろ危険ではないのですか？ 我々を歓迎するものは核兵器の弾幕であるかもしれない！」

エゴは地球外生命の可能性を認めない

「そう」ペラは答えた。「人類は肉眼の範囲を超えた所にある接近しつつある物体を検知する計測器を開発しつつあることは事実です。しかし、私たちの選定した距離で、私たちの接近を検

知するのに十分な感度をもっている

は信じられません。私たちが思い違いしているかもしれませんが、仮に私たちの宇宙船が観測され、いくつかの宇宙観測グループによって報告されたとしても、何かの行動が起されることは十中八九ないのです。それは私たちにとっては信じ難いことですが、ほとんどの地球人は自分たちの惑星上に存在するもの以外のどんな生命体をも知らないのが事実です。彼らの科学者たちは、しばしば地球外生命の可能性について推測していますが、彼らのエゴがその存在のほとんど間違いのない証拠でも認めないようになっているのも事実です。データ収集用の道具は見つけられ、百世代以上もの長い間にそれが有頂天になって報告はされており、小型宇宙船は地球の人々の何人かがいる前で少なくとも、一二回以上も着陸しているにもかかわらず、それを見たという比較的少ない報告は依然として無視され、「地球上の現象」「ハリケーン」として説明され、何も見なかった大半の人々によって明らかな間違いだとされてしまいます。私たちのサンプリングやモニタリング用の道具を不幸にも観測し、しかも、その事実をかるがるしく報告したものはだれもが軽蔑と哀れみの対象にほとんど自動的になってしまうのです。それ以前の彼の地位がどんなものであろうとも、彼の信用も道徳も、さらに正気さえも疑われ

るのです。

もちろん、何人かの科学者や思想家たちは、自分たちの知識レベルによって彼らに統計的な生命の可能性と地球外のより高い技術をもった人類の存在の可能性も受け入れさせられているものもあります。この人たちは、仮に他の人類が存在したとしても、いくつかの離れた恒星の周囲を回る軌道に乗っている惑星にだけ生きており、非常に遠いために地球を訪問することなどは決してできないと信じて自分のエゴを縛りつけているのです。

彼らの天文学者たちは銀河系の中心部にある恒星は自分たちの太陽系よりはるかに古いものであることを知っていますが、自分たちの惑星上で今、開発されているどんな技術能力もが他の惑星の人類によって少なくとも数百万年前に達成され、それ以来ずっと進歩・改良を続けられているという必然的な事実を把握していないようです。地球の生物学者たちは、いくつかのアミノ酸の分子や他の生命の結合体を見つけてようという希望をもって隕石を調べながら実験室に閉じこもって毎日を通っています。一方、私たちは彼らの惑星から一六〇〇キロメートルも離れた宇宙船から、彼らのしていることを彼らの肩越しに見ています。望めば、彼らの顕微鏡をのぞき、彼らの達している結論を彼らの心から読みとることもできます。彼らは観察者である

かわりに、自分たちが観察の対象であるという可能性を考えることさえも拒否しているのです。

月ではチタニウムが採掘されている

過去数千世代の間に、部分的には制御されたものの、人口増加によって生命の発達にふさわしくない状態になった惑星のほとんどは、宇宙船建設のための新しい物質を得るために分解され、恒星間の崩壊物質の大半が集められこの目的に使われるほどに、付加的な人工の惑星の要求は大きくなってきています。このプロセス（人工増加—人口惑星建設）は銀河の中心部分に始まっているので、銀河の翼の部分の開発は比較的少ないのです。しかし、地球の月でさえも小規模ですが時々チタニウムの採掘がされています。チタニウムは月になりに発見されており、他の元素からは合成することは困難なものです。チタニウムの分離プロセスの間に放射される強烈な光は地球の天文学者たちに観測され報告されています。彼らはその光を「火山活動」か「隕石の衝撃」によるものと説明しています。この歴史の多くはあなたがすでに知っているものですが、それを繰り返すことは、あなたが地球上に住居をかまえるときに発見する信念と態度を理解するのを助けるかもしれません。

空中を飛ぶことは宇宙への第一歩

先ほど、明らかにしましたように、間もなく私たちは固定点に到着するでしょう。私たちは惑星と人々を直接に近々と調査し始めることができます。その間に、データ投写機が鳥の真似をするために地球人が努力した物のいくつかも見せてくれるでしょう。最初の試みのほとんどは筋肉の力を使用することによって飛ぶという粗野な試みでした。もちろん、どれ一つとして成功するものもなく、ただ笑いものになりました。苦勞して作った製品にかけた夢が絶たれた人たちの生活においては、笑うどころか悲劇であつたでしょう。失敗に失敗を重ねても、人は飛ぶことへの決心をあきらめなかつたばかりか、人は、鳥は人間に勝つてはおらず、鳥ができるならば自分たちにもできる」と言っていました！ このムダな試みにほとんど一世代を使いました。もちろん私たちはデータの全部をもつていません。観察も断続的で完全というにはほど遠いものでした。しかしながら、空中を飛ぶことを達成する第一歩であることを銀河連邦政府は理解し、この惑星とやつと羽根のはえたひなのような人々に相当な興味向けられていました。

続けるのに使われました。不幸なことに、これらのエンジンは、それらが作りだすエネルギーに比べてあまりにも重量がありすぎました。これらの機械の大半は科学的知識の比較的少ない人々にとつて作られました。なぜなら、知識を沢山もっている人たちは非常に困難なものであると理解し、可能性は決してないと確信していたからでした。それで、そのような人々はこの試みをすることに興味がありませんでした。地球人がいまだに飛ぶことができなかったとしても、少なくとも自分を支えるための軽いガスを入れた大きな風船を使用して空中に浮くことはできたでしょう。それは一時的な妥協として最もよいばかりでなく、一世代以上の長い時間の後で、空気よりも重い道具によって飛ぶことに成功したでしょう。非常な努力と工夫が地球の表面から逃れる方法にささげられました。それは非常に微妙なもので危険をはらんだ技術でした。ガス風船、操縦室、客室、必要ならばモーター、乗員、それにすべての機器の全体はそれらが排除する空気よりも重くはできません。最初の頃は、ガスの中で一番軽くてすぐ手に入るただ一つのガスであった水素ガスが使用されました。空気中の酸素と混合されたときに、水素ガスは最も燃えやすい組み合わせになり、風船のほんの少しの裂け目でもこの混合ガス状態を引き起こしました。彼らが「飛

行船」と呼んだもののほとんどは起るべくして、強風によって部分的に裂けたり、爆発したり、燃えたりしました。どの場合にも常にかかりの人命が失われました。数多くの一般的に悲劇的な失敗の後、しばらくの間は一つ二つの小型船が見られたとはいえ、この技術はほとんど完全に放棄されました。成功した飛行船は他のものと化合しないヘリウムを使用しています。

地球人は機械を飛ばす可能性を作り出すのに十分な単位（パウンド）重量あたりのエネルギーを出せる内燃機関を作るのに成功しました。また、この頃に上向きに反らせた翼の効果を発見しました。この組み合わせが、真に飛ぶことを可能にし、「航空機」として知られているものになりました。原理の正しさは証明され、今、本当の発達が始まりました。

この間に男性も女性も飛行術の歴史を作りしました。その多くはその大胆さと操縦のうまさの理由で人々のアイドルとなりましたが、大半の人々は人間が本当に鳥のように飛ぶことができることを証明したという理由でアイドルとなりました。

この頃に、銀河連邦の探査船が地球のより接近した観察を始めました。宇宙飛行の始まりが少なくともその進歩の数年間で見えるので、空中飛行における進歩の度合いをチャートにする必要があります。宇宙飛行の始ま

りはどの人類の発展においても非常に危険な時です。その時期は、もし方向を間違えた場合には人類を一掃することができるような技術レベルを達成する時期に一般的に一致しています。

多くの種類の新しい高速飛行機が設計され、建造され、試験されました。いくつかは成功し、他のものは危険な状態で失敗に終わりました。いくつかはパイロットに名声と幸運を与えることとなりましたが、他の場合は死をもたらしただけでした。それにもかかわらず、より速く、高くあるいはより遠くに飛ぶ航空機やかつての飛行機の換価荷重以上のものを運ぶ航空機を建造するための努力はずっと続けられました。地球人の社会での極端な競争的性質がこの努力へ拍車をかけました。いろいろな飛行機が生まれました。いくつかは乗客を運び、いくつかは貨物を輸送し、いくつかは、かれらが隣人を殺すことができる爆弾を輸送するものでした。この時地球人が惑星を包む大気内を飛ぶことに満足しなくなるときだということは明白でした。飛ぶことを学んでしまったので、今や、人は新しく得た能力を実行するためのもっと大きな機関を要求しました。

の可能性があるものと考えました。最初は飛ぶ試みをしては沢山の失敗をし、成功はわずかなものでした。成功からはもちろん失敗からも学び頑強に固執していました。

ロケット狂信主義者たちの計画と努力に対して送られた指導的立場の科学者たちによる嘲笑は、技術のポテンシャルが一般の見解の中に現われ始めたときに次第に静まりました。

地球の場合には、通例として、最初の大きなロケットは破壊の手段として使用され、今でもそれらの多くは特に破壊の目的のために設計されています。現在のロケットは、それが運ぶように設計された核弾頭をつけられ、惑星の全人口をすばやく殺すことができるであろう兵器システムを作っています。私たちのもっている証拠のすべてが、何らかの介入がなければこの悲劇的な出来事はすぐにもやってくることを示しています。

しかしながら、地球人の宇宙旅行への決意は弱められてはいませんし、私たちの研究グループの報告は彼らがすぐにもそれを始めるだろうと予見しています。

アランの連れが語り終わったとき、ビデオスクリーンの下にある小さな青いライトがリズムカルに点滅し始めた。「私たちの操縦者が、固定点に着いたことを合図しています。私たちは地球でのコンタクトのための調査を始める

ことができます」と彼女が言った。

目的の位置に到着

最初の目的地として、「大アメリカ砂漠」として知られている合衆国の人口密度の低い部分を選びました。私たちの観察を始めるには奇妙な場所と思えるかもしれませんが、この部分は、新しい多くの宇宙へ向けての技術がテストされている「実験場」を含んでいます。彼らの努力が依然として初歩的なものであり、あまり成功するとは思えないものでも、私たちが要求する援助を与えてくれることができる人を探せる可能性が最もあるのはこの場所にいる人々の中です。

地球でのコンタクトマンを選定するのに助力してくれる二人の精神分析の専門家が一緒に乗っています。私たちがホワイトサンズ実験場として知られているロケット試験場の上の固定点に達すると同時に、そこに働いている人たちを探し、次から次へと彼らの心に同調することを始めて一致する者を発見したならば、完全な精神分析がなされます。私たちが最終報告書を提出するときに、社会援助部の倫理委員会によって、多分、個人の秘密の不当な侵害について譴責されるでしょう。しかし、私はそれ以外に私たちを援助する意志と能力の両方をもっている人を見出す確実な方法を知りません。分析

家が彼らの予備調査をしている間に、私たちは地球人類のより危険な問題のいくつかについて、それらを解決するために援助できそうな方法について討議しましょう。

生かすべきか死ぬべきか

彼らの指導者たちの多くが、結局は常に失敗している戦争行為が、国あるいは人種の政略の有効な手段であると考えているという事実によって、現在では、真の文明への前進のすべてが妨害されています。

多数の人々、時として国家あるいは人種全体が他のものと本質的に違っている基本的な仮定や信仰を採用するようにならざるに、連続的に増加する摩擦がグループの間に発生しがちです。彼ら是对立する概念の相対的な効果を調べるのに充分な、または容認された方法（彼らが物理科学で行なっているような方法）をもっていませんので、連続的な摩擦によって生じた衝動の熱が、しばしばそうであるように、開戦へと導くのかも知れません。

衝突するイデオロギーのお互いのメリットを決定できないという事実の中に、戦争行為の悲劇と無益さが存在しています。そして、関係したもの相対的な戦闘能力を破壊するだけなのです！



●アリゾナ州のコマ型UFO

1972年11月11日午後1時55分頃、米アリゾナ州メサでリー・エルダー氏が屋内のテレビでフットボールの試合を見ていたところ、庭で遊んでいた9歳と10歳の坊や2人が「空飛ぶ円盤が飛んでいるので見に来て!」と叫んだ。35mmカメラをつかんで外へ飛び出たエルダー氏は、この異様な物体を連続4枚撮影した。この写真はその内の1枚。秋山真人氏によれば本物のUFOであるという。©日本GAP

宇宙の法則のもとで生きるスペースブリーダーズ(7)

ジヨージ・アダムスキー／久保田八郎訳 〈アダムスキー講演集 連載24〉

まず自分自身を知ること

しかし、彼ら（高貴な異星人）が私たちにたらしめてくれた知識、それから、私たちが無知ゆえに自らを滅ぼすために使うかもしれない知識であつても、とにかくあらゆる知識に大きな価値があります。そしてそれを正しく利用して生きようとするのが、私たちが本当に行なうべきことなのです。

主に異星人によって押し進められている宇宙の法則に従った諸計画は、この世界を人類のより良い住処にするためのみならず、それを研究する個々の人間を進歩させるためのもでもあります。

そして、私たちが真の進歩を果たすには、まず自分自身を知らなくてはなりません。これは私たちの誰もがすでに認識していかるべきことのはずです。聖書でさえ、「人よ、自分自身を知ることだ。そうすればあなたはすべてを知るだろう」と言っています。人間はあらゆる形あるものの中で創造

主と同じ能力を持つ唯一の存在なのです。その能力を持つのは人間のみです。人間はもし自分自身を知ったならば、

自分一人でも仲間たちと一緒に、また人生の様々な謎と関わりながらも、これまでよりもはるかに素晴らしい人生を生きたりできるでしょう。

ここにいる皆さんの誰もが、おそらく次のような自問を何度も行なってきたのではないのでしょうか。

「私は生きている。私はそのことはよく知っている。私はとりあえず人生を楽しんでいる。ただ、もっと良い人生があるのではないだろうか。そして、そんな生き方ができないでいるのはなぜなのだろうか」

さらに皆さんは、こうも考えるかもしれません。

「この人生にはいったいどんな意義があるのだろうか。私は今、ここでこうして生きている。しかし、いずれは死ぬことになる。この人生で私が何かを学んだとしても、しよせん無意味なことなのではないだろうか。私はここからどこに行くのだろうか。私がいま生きて

いることの目的というのは、いったい何なのだろうか」

今日、人類はまるで夢の中を生きているかのような状態です。私自身もそのような状態にあつたことが何度もあります。人生のあらゆる行程が皆さんに苦闘を強いています。なぜなら、この社会が著しく秩序を欠き、一つの家族として機能していない社会、つまり人々が互いに敵対している社会であるからです。私たちがどんなに多くを学ぼうとしても、ここで生きていることは時間の無駄なものではないか。無駄な努力なのではないか。そんなふうに見えるかもしれません。私たちにとつて、私たち自身が謎の存在であるからです。当然のごとく、他の人々もまた謎の存在です、私たちの人生もまたしかりです。

しかし、一度私たちが自分自身を理解することができたならば、そして、人生というものがなぜ存在するのかを理解する能力が内部に備わっているということを知ったならば、そのときから私たちは、自分の内部に備わったその能力を利用して、自分自身および自

分の人生を向上させようとし始めることになりす。

存在の背後にある原因を知る

たとえば人間の一要素である心について考えてみましょう。人間はもし感覚器官を持たなかつたとしたら心を持つことはありませんでした。感覚器官と（死ぬ運命にある）心は一体であり同じものです。心は感覚器官を通じて観察します。視覚を通じて物を見、聴覚を通じて音を聞き、臭覚を通じて匂いを嗅ぎ、味覚を通じて味わいます。もしこれらの感覚器官を持たなかつたならば、私たちは、いま私たちが認識している人生というものについて多くを知ることはできなかつたでしょう。

でも、そのすべてはいわば現象、すなわち外に現われたものです。そして、私たちはそれに執着しています。なぜならば私たち自身が現象であるからです。私たちは現象をとてよく知ってきました。そしてその結果、自分の存在を明確にしようとして他の現象の

数々に目をやり続けてきました。そして私たちは、それを現実と呼んでいるわけです。

しかしながら、あらゆる現象すなわち形を持つもののすべてが、その背後に原因を持っています。そしてその原因にもそれが存在する明確な理由があります。人間はその原因に自分自身を同調させない限り自分自身を知ることできません。自分の存在、現象としての存在の背後にあるその原因を知ることによって初めて人間は自分に関する真実を知ることができるのです。その原因はあらゆるものの背後にあります。それは様々な形を持つあらゆるもの、地球そのものさえも創造しているのです。ここでまた臭覚の話に戻りましょう。前にもお話ししたことですので、ご存じの方がおられるかもしれませんが、たとえばここに、とても美しい花があるとしましよう。皆さんがこれまでの人生で見た一番美しい花です。皆さんがこんなに美しい花を見るのはこれが初めてです。その繊細で美しい形や色が皆さんの視覚を捕らえます。そこで皆さんは、それを神自身の現われとしてとらえ、心から崇めます。それは実際にその通りなんです。ですから、皆さんはそれを崇めます。

ところが、そこに皆さんの臭覚がやって来てこう言います。「君（視覚）がそんなに崇めている花は、いったいどんな香りなんだらう。その香りをせ

ひ嗅いでみたい」

まるで二人のまったく別の人間がいるようです。そして皆さんは、その香りを嗅ぎます。するとそれはまるでスカンクのオナラのようでした。

（編注）スカンクは敵に襲われた時、ひどい悪臭のオナラを放って自己防御する）

そこで臭覚はそんなものとは以後あなたの関わりも持ちたくないと考えます。それを自分の前から完全に遠ざけようとするでしょう。一方、視覚はそれを優しく撫でながら、いつまでもそばにおきたいと考えます。そのとき皆さんの心の中では激しい戦いが繰り広げられていくわけです。そのとき皆さんはその二つによって切り裂かれています。そして他の感覚器官同士も常に同じような戦いを繰り広げています。それらは互いにまったく別の方向を見たり押し合ったり引き合ったりしているわけです。ですから、私たちが六、七〇年しか生きられないのは当然のことなのです。感覚器官が互いに争うことで肉体をバラバラにしてしまうからです。そのような状況の中では調和は決して生まれません。肉体が生き続けるためには調和が不可欠なのです。

四つの感覚器官を調和させる

しかし異星人はこれをすでに克服しています。彼らは感覚器官同士が調和

を保てるように心を鍛けてきました。私たちも自分自身を知るためにはそうしなくてはなりません。すべての感覚器官を調和させて一つの単位として機能させるようにしなくてはなりません。それらが互いに見知らぬもの同士、あるいは意見の違うもの同士として機能しているかぎり、心の中では常に争いごとが発生し続けることになり、それによって肉体は激しいダメージを受け続けることになります。

たとえば、皆さんは千年もつような立派な家を建てることができます。でも、もしその中に皆さんがしょっちゅう喧嘩ばかりしている人たちが住まわせたとしたらその建物は決して長持ちしないでしょう。互いに皿を投げ合ったり家具をぶつけ合ったりしながらその建物を持続的に傷め続けるからです。そしてそれが皆さんの心の中で、ひいては肉体の中でいま行なわれていることなのです。

人間は五〇〇歳までも生きられる

でも、もし皆さんが自分の肉体をどのようにして面倒を見るべきかを知ったならば、肉体はこの地球上で五〇〇年にもわたって生き続けることが可能なのです。実際、他の進んだ惑星では私たちと同じ種類の肉体を持つ人間が一〇〇〇年にもわたって生き続けています。皆さんのとまったく同じ肉体が

です。要するに私たちは自分の肉体の正しい面倒の見方を知らないでいるわけです。それだからこそ、私たちはこの肉体を実際の寿命よりもはるかに短いあいだししか生かすことができないうるのです。

こういう話をするとき、よくこんな質問が持ち上がってきます。そんなに長生きしても、いいことなんてないんじゃないだろうか。五〇〇年も生きていたら、この肉体はボロボロになってしまいうじやないか。とまあ、そんなことを言う人がいるわけです。でも、もし皆さんが正しく生きたとしたら、おそらく皆さんの肉体の最盛期は二五〇歳頃に訪れるはずですよ。皆さんの肉体は、それほど良くできています。アダムの肉の体と同じようにです。アダムの息子のセスは彼が九百何歳かの子供です。その歳になってもまだ彼には子供を作る元気があったわけです。私たちが四五歳ほどになると、あるいは遅くとも六〇歳くらいになると、そんな元気をなくしてしまいます。私たちはこの人生で体験できる楽しみをどれほど少なくしていることでしょうか。それは自分の肉体の正しい面倒の見方を知らないからです。他の惑星の人たちはそれをよく知っています。それだからこそ、あんなにも長生きしているわけですよ。

単にこの点からも私たちは自分自身を研究すべきです。私たちは機械を買

います。たとえばこの録音機とか、自動車とか調理用のオーブンだとか、その他のいろいろな機械をです。私たちはそれらについて真剣に学びます。そのために、それらがうまく動かなくなつたときでも上手に調整し直すことができます。

しかしこの世でもつとも貴重な機械、つまり私たちが住みついている自分の肉体に関してはほとんど学んでいないのです。そのために私たちは肉体が土に帰るべきときが訪れるはるか前の時点でバラバラにしてしまつてゐるわけです。

眠っている脳細胞

私はこのことを『生命の科学』（訳注Ⅱ中央アート出版社刊、アダムスキ全集③『二一世紀／生命の科学』）の中で指摘しました。皆さんは九〇億前後の脳細胞を持っています。そのうちのどれほどが実際に活動しているのかをご存じでしょうか。これまでに得たもつとも信頼できる情報によれば——ただしこれは推測にすぎません。——というの、脳の中に入つていつて活動している細胞の数を数えたことのある科学者はまだないわけですから。それでその推測によれば、もつとも知能の発達した人間でも、全脳細胞の一〇パーセントしか動かしていないといふことです。ということ、この地球

でもつとも知能の発達した人間でも、知能の開発の余地がまだ九〇パーセントも残つてゐるということになるわけです。

もしある人間が、科学者あるいは電子技術専門家として地球上空六、七マイルのところにある機械を修理できたとしたら、その人間は他の多くの人たちよりもはるかに進んでいるといふことができます。しかしそのために彼が用いている脳細胞は全体の一〇パーセントにすぎないので、彼が自分の脳を一〇〇パーセント開発して、それを用いたとしたら、いったいどれほどのことができるでしょう。そのとき彼は、明らかに、創造主と同じことを行なうことができるようになります。間違ひなくそうなります。ですから私たちにはまだ進歩の余地がとつともなくたくさん残されているのです。

人間は偉大な創造主の子

これはもちろん、一部の科学者に限つたことではありません。この地球上で人間として生きてゐるすべての生き物がこの可能性を秘めているわけですから、すべての人間がこの無限あるいは永遠の宇宙を治めてゐる一つの偉大な創造主の子孫であるからです。宇宙が永遠であるといふことは、それには終わりが無いといふことです。もし終わりがあつたら、その終わり

がそれよりもはるかにしつかりとした何かによつて支えられてゐるということとを認めなくてはなりません。それはその先どこまで行つても同じことです。終わりが訪れるたびにそれは常に他の何かによつて支えられてゐるわけですから、真の意味で終わりなどといふものは、どこまで行つても見つけることができないのです。

では、始まりはどうでしょうか。たとえ始まりというものが存在したとしても、それがどこにあるのかをどうしたら皆さんは知ることができません。これは私たちがまだまったく把握できていない問題です。でも、もし始まりが存在するとしたら、そのときには終わりも存在するということになります。その中間点も存在するでしょう。そしてそこから端つこまでの距離あるいは時間を計測することもできません。私たちがそれを計ることはできません。ですから私たちはいま単なる理論とともに生きてゐるにすぎないのです。私たちは常に推測に従つて進んでゐるのです。

たとえそれが何らかの教え、あるいはいかなる種類の教えであつたとしても、そのアイデアは毎日のように変化します。しかしときおり不幸なことに、特定のアイデアが何日も何カ月も、あるいは何年も変わらないままに持続するという事態が発生します。するとそれらは習慣として定着し、人類を動か

し続けることになりまゝです。人間は習慣によつて動かされます。そのとき人間は、もはや自分で考えるべきことを考えようとしなくなりまゝです。いまの世の中はまさにそういう人たちが溢れてゐるのです。

人間は習慣によつて生きるゾンビ

皆さんのほとんどは、戦争、新たな大戦争を決して望んではいないはずですが、しかし、ある人々はその手この手を使つて大衆の感情を戦争に向けて煽りたてることができます。その結果皆さんは知らず知らずのうちに、わけの分からぬまま彼らの後ろをいつの間にか行進してゐるということになるかもしれません。そのとき皆さんは何の疑問も抱きません。すでに皆さんは戦争に向けた流れに感情的に巻き込まれてしまつてゐるからです。

どうしてなのでしょう。実を言うと、私たちの誰もが、たとえば犬の食用に適しないドッグフードを作つて、それを大量に売ることさえできるのです。大衆の心理をちよつと利用するだけではないのです。まずそのドッグフードを市場に出して、あとはそれをテレビのコマーシャルを通じて、子供たちに人気のある特定の芸能人がそれを自分の犬にやつてゐると宣伝するだけでいいのです。すると子供たちはお母さんからお父さんのところに走り寄つて、買

物に行ったらそのドッグフードを必ず買ってきてくれとせがむことになりま
す。そして世の親たちは子供と議論す
るのが面倒なので、言われるままにそ
れを買うわけです。ドッグフードの善
し悪しなど考えもしないままにです。

私たちは、私たちが従うように作り
上げられた特定の習慣に従って生きて
います。私たちは自分の力でそのつど
考えようとはほとんどしていません。
そのようにして私たちは、人間という
よりはゾンビ（ロボットのよう無感
覚な人間）のようにして生きているの
です。

私たちは変化を恐れています。それ
（変化）がどのようなものとなるのか
を予想できないからです。それは、自
分にいまよりも好ましい状況を提供す
るのだろうか。それとも、いまよりも
悪い状況を提供するのだろうか。そう
考えて私たちは結局はたとえ現状がど
んなに悪かろうと、それにしがみつき
続けようとするわけです。新しい何か
を行なうことが、吉とでるか凶とでる
かが分からないからです。そのように
して結局は習慣に従い続けます。

しかし、そのとき私たちはある大切
なことを見落としています。私たちが
踏み出すあらゆる一步が、常に私たち
の進歩につながる前進であるという事
実をです。私たちが新たに踏み出す一
歩は、すべてが私たちのより進んだ自
己表現のための一步なのです。

人間を分析すること

ここで私たちが認識すべきことは、
私たちには学ぶべき事がたくさんある
ということですが、これにはいかなる宗
教も関係ありません。実際、もし皆さ
んがこのことを真剣に考えたならば、
これが他のあらゆる分野の科学と同様
に、人間という存在を理解するための
純粋な科学にほかならないことを知る
でしょう。

人間はいま自分自身にとって謎の存
在です。そして自分は他のすべての人
間にとっても謎の存在です。ですから
人間は分析されねばなりません。人間
のあらゆる構成要素が分析されねばな
りません。それらがそれぞれ、どんな
機能を持っているのか、そして互いに
どのように機能し合うのかといったこ
とが分析されねばなりません。そして
それらが理解されたとき人間はもはや
謎の存在ではなくなります。そのとき
から人間は自分が創造された目的を果
たすべく、創造主を充分に表現しつつ
生きることになります。

この点で異星人は私たちのほるか先
を行っているのです。彼らは、他のど
んなことよりも先に、まずこのことを
じっくりと学びました。まず何よりも
自分たち自身に関するすべてのことを
学ぼうと心がけたわけです。その結果
他のあらゆることが私たちよりもはる

かによく理解できているのです。

たとえば私たちはいま宇宙に目を向
けています。ガリレオがああ最初の望
遠鏡を使って宇宙に目を向けたことは
皆さんもご存じの通りです。彼は神が
住むと信じられていた場所で神を発見
しなかったために、当時の教会から激
しく非難されました。そしていま私た
ちは宇宙のさらに遠方にまで目を向け
つつあります。いずれ私たちは他の
様々な惑星を、この太陽系のすべての
惑星さえも間近に観察することになる
かもしれません。さらにそれらの惑星
に実際に行くようにさえなるかもしれ
ません。そしてこの宇宙をどんなに遠
くまで進んでいっても、これまで神だ
と言われてきたものを発見することは
決してないでしょう。ではいったい、
私たちはそこで何を発見することにな
るのでしょう。いずれ分かるはずで
す。少なくとも、そのとき私たちはこれま
で教えられてきたような神を信じな
くなるでしょう。

一方、そのとき私たちは、神をそれ
までもっとも強く信じることになる
はずですが、なぜならば、そのとき私た
ちは宇宙に存在するあらゆるパワーや
宇宙で表現されている神の知性につい
て充分に学んでいるからです。そのと
きの私たちの理解は現在の私たちのそ
れをはるかに超えています。そのとき
私たちは物質がそれ自身では形を持つ
ことができないうことを明確に認めてい

るはずですが、物質は何らかの知性によ
って導かれない限り決してその形を出
現させられないということを私たちは
知るでしょう。

その結果、私たちは真の信仰を持つ
ことになります。神を信じるのが正
しいことだから、あるいは社会が信じ
ているからという理由ではなく、神
と直接対面することによってそれを信
じることになるでしょう。

理解されなかった

バーバンク

たとえば、ルーサー・バーバンクと
いう人のことは、ここにいる皆さんは
よくご存じのはずです。私は彼に会っ
たことがあります。彼は植物の王国と
深く関わってこの社会のために素晴ら
しいことを行ないました。

（編注）バーバンクは昔のアメリカの
有名な作物品種改良家で、農作物とテ
レパシーで語り合ったといわれている。
また遠隔地に住む妹とテレパシーで連
絡し合っていたという）

その彼がある日、ある牧師が同席し
ていた場所で新聞記者に神を信じるか
と尋ねられました。

彼は「神を信じている。私は神とい
つしよに毎日仕事をしているし、神
と話しているよ」と答えました。彼
のその発言を受けてすぐ新聞各社は彼
を無神論者だと書き立てました。それ
はバーバンクにとって耐え難いことで

した。それは彼をひどく傷つけました。その後、サンフランシスコのある大きな教会の牧師が、彼にその教会にきて話をしよう要請してきました。新聞が大衆に与えた彼に関する悪い印象を、それでぬぐい去ることができればという思いからでした。

彼はその要請を受け入れました。まず牧師が話し、続いて彼が話しました。しかしその試みはうまくいかず、彼の心の痛みは決して消えることがありませんでした。彼は激しい非難を受け続けた上、それに耐えられませんでした。

たとえそれが誤った非難であつても、それに耐えることは誰にとつても困難なことです。人間がそれに耐えるためには、まず自分の正しさを強く信じていなくてはなりません。と同時に並外れて強い心を持っていなくてはなりません。しかしパーバンクにはそれほど強さはありませんでした。そのため心不全で亡くなつてしまいました。もし生きていれば彼はいまでも皆さんに素晴らしい奉仕を続けていたでしょう。彼は何か間違つたことを言つたのでしょうか。いや、彼が言つたことは何一つ間違つていません。彼は完璧な真実を語つたのです。

楽器は自然界の音響から学びとつた

この世界は自然界から学ばなかつたとしたら、ここまで進歩することは決

してなかつたはずで、少し時代をさかのぼつてみましょう。たとえば音楽。これは私たちがこのことを理解するための他のどんなものにも優る例だと思えます。

たとえばこの世界に初めて現われた人間は、おそらくどんな楽器も見たとがなかつたことでしょう。しかし彼らは木々の間を抜ける風の音を聞きました。葉っぱを持たない木々の間を抜けるとき、風はある特定の音を作りだします。そして葉っぱをたくさんつけた木々の間を通るとき、それはまた別の特定の音を作りだします。さらに松の葉のようなものがつた葉っぱの間を抜けるときにも、それはまた別の音を作りだします。それらの音は、彼にはとても心地よいものでした。

そこで彼はそれをまねてみようと考えました。その結果、もつとも単純な楽器である呼び子を作り出すことになつたわけですね。春のある日に柳の木のところに行き、その枝を切り取り、それをちよつと叩いて割れ目を入れ、そこを少し広げると呼び子ができあがります。

続いて彼は鳥の歌声を聞きました。その他のあらゆる種類の音を聞きました。彼はそれらの音を組み合わせ、ハーモニウムを作りました。いったい誰が教えてくれたのでしょうか。教師もいなければ学校もなかつたのです。私は別に教師や学校に敵対しているわけでは

ありません。当時は彼にこれらのことを教えてくれる教師もいなければ学校もなかつたということを言つていただけです。

学校のない動物たちには誰が教えてくれるのでしょうか。大自然です。彼女（自然）はあらゆる創造物の母なのです。人間はいま、人間を出現させてくれた、人間自身の源である大自然から遠く離れてしまひ、もはやそれについて何も知らないでいるのです。

たとえば私はかつてパロマー山の山腹に住んでいましたが、そのあたりに住んでいたインディアンたちは彼らの豚を放し飼ひにしていました。樫の木がたくさんあつて、それらの木からドングリが落ちる季節にはそれが豚の餌になっていました。

ある日、グレーハウンド・バスがやつて来たとき、一頭の雌豚が数匹の子豚を引き連れて、樫の木が立ち並んだ山腹を移動しながらドングリを食べていたんです。

そのバスには二〇歳から八〇歳に至る、成人男女たちが乗っていたのですが、山腹にいたその雌豚と子豚たちを見るなり、私にどう尋ねたと思ひますか。

「アダムスキーさん、あのウサギたちはどうして豚の後をついて回つていんですか」

彼らはそう尋ねたんです！ もし彼らが都市部に生まれてまだ豚を一度も

見たことのない子供たちだつたならば当然かも知れません。でも彼らはすでに立派に成長した大人たちだったので、私たちが母なる自然からいかに遠ざかつてしまつていのかを如実に物語る出来事でした。

母なる大自然から学ぶ

私が「母なる自然」と言うのは、自然界はまさしく私たちの母であるからです。もし彼女が私たちが食べる食べ物を作り出さなくなつてしまつたら、私たちはここに住むことができなくなつてしまいます。私たちが彼女にどんなにひどいことをしようと、彼女をどんなに傷つけようと、彼女に感謝しようとするまいと、彼女はなおも私たちを養ひ続けてくれるのです。私たちに食べ物を与え続けているのです。

これは他のどんな生き物にとつても同じことです。彼女は私たちに、何の見返りも求めていません。彼女はこれまで、私たちが彼女の胸にしゃぶりつくのを一度としてやめさせようとはしませんでした。そして彼女は、食べ物を作り方を人間よりもはるかによく知っています。確かに人間は、食べ物の生産を援助したり、それをより良いものに行ふことを行なうことはできません。しかし、それをそもそもどのようにしてスタートさせるかを知っているのは彼女のみなのです。（以下次号）

宇宙哲学で奇跡的に
婦人病が治った私

E・N



長い間ご無沙汰をいたしております。いつも先生にお手紙をと思い巡らせるばかりで、いっこうにペンを走らせることができませんでした。大変申し訳なく思っております。

私事になり誠に恐縮なのですが、今年に入りましてから体調をくずし、五月の半ばに病院へ行きましたところ、エコーにより子宮と卵巣に異常があると言われました。

画像で見せてもらったのですが、確かに子宮と右の卵巣に異常が見られました(実際、調子の悪い日が長く続いていました)。

ああ、やっばりか……と納得したものの不安な日が続きました。専門医に診てもらったことをすすめられましたので、二〇日後の六月半ば頃、婦人科へ行ってきました。

その二〇日間はいやというほど自分の弱さを見せつけられました。でもそれと同時に久保田先生がいつも私達にお教え下さっている信念の力(イメージ法)を今こそ自分の内奥より湧き出させなければ、と思いました。

ば、と思いました。

短い間でしたが、思念や健康になったイメージを、言葉と心の中の「絵」によってふくらませてゆくようにしました。

ところが不思議なことに、そうしてゆく内に、今までこれほどまでに感じ得なかったような両親への謝罪と感謝の気持ちわがわき起こってきて、涙がポロポロとこぼれ落ちる日が続きました。それと同時に、自分の心と体が何か軽くなってゆくような気がしました。

あとは自然に任せようと思い、婦人科の病院へ走りまわりました。結果は「異常なし」でした!

天を仰いで感謝いたしました。今生で自分の子供を持ちたいという気持ちが強かったのですから、その喜びはひとしおでした。私自身の健康になりたくてという気持ちが強かったばかりでなく、この間、知人からすすめられた体に良いと言われている水を飲み続けたことも効き目があったのではないかと思います。秋田の方が発見された水です。

そしてもうひとつは、毎晩『生命の科学』(新アダムスキー全集第三巻。中央アート出版社)を一行でも読むようにして、アダムスキー氏の写真とオーソン氏の写真を見つめながら眠りについていました。そうすると心がやすらぐのです。でも本当に自分自身の勉強になり、学ばせて頂きました。アダムスキーの宇宙哲学、スペース・ピープルの方々の真実を知らずにいたら、乗り越えられなかった

のではないかと思います。

何かの流れでしようか、私の治療と入れかわるようになって、今度は父が倒れてしまいました。七月の終わりに大動脈瘤りゅうの手術を行ない(かなり重症で困難とされていましたが)、現在まで入院しております。

手術は大成功でした。入院中は合併症(心筋梗塞など)をおこしましたが、今は落ち着いております。

七時間に及ぶ手術で、その間、家族の控室で、父が横たわるベッドの頭上からイエスキリストが大きく手を広げて、光輝くオーラを発して下さるイメージを描き続けました。そうすることしかできなかったのです。

後にユーコン誌で拝見したのですが、本部役員の加藤純一さんが以前に、義理のお父様が病床についておられたとき、同じようにイエスのイメージを描くことをされたことを知って大変嬉しくなりました。今父は後遺症で両足が使えなくなった状態ではありますが、きつと良くなるというイメージをもって父も家族も頑張っています。主治医からは良くて松葉杖、悪くて車椅子の生活だろうと言われていましたが、あきらめないでリハビリを続けてゆこうと話合いました。

困難な時こそ自分を見つめ直すことができ、また、アダムスキーから久保田先生を通じて伝えて下さった宇宙哲学の真実と素晴らしさを実感できるような気がします。今年はいりある一年となりそう

です。私も不思議と心と体が軽くなったように感じます。両親に対する想いが変化してきました。以前よりも優しいフィードバックで接しられるようになったことが嬉しいのです。

ユーコン誌で拝見いたしますと、先生はおやせになったようですが、月例セミナーのテープで先生のお声を拝聴いたしましたら、本当にお元気そうで安心いたしますと同時に大変励まされました。先生が信念の力の素晴らしさを教えて下さったからだと思います。ありがとうございます。

追伸 六月八日にはUFO鑑定のお手紙を頂きまして本当にありがとうございます。その写真を撮影した前後に、電柱の上方くらいの高さにはぼんやりとした楕円形の光が出現して、三カ月くらいの間に四〜五度くらいだったでしょうか、私のもとをずっとついて来てくれるという現象がありました。これは夜のみで、雨の日も変わらず現われました。車で移動する時も、フロントガラスのちょうど上あたりを私が見ることができるようで、同じリズム、同じ動きをくり返しながらかつて来ました(円を描きながら)。いまだにそれが何であるのか分かりませんが不思議な出来事でした。

(編注) Nさんが撮影したUFO写真は秋山真人氏の鑑定によれば本物だとの結果が出たが、写っている物体が小さいので掲載には不向きであった)

第七回秋田支部大会盛況

★一月二日

秋田パークホテル

第七回日本GAP秋田支部大会を秋田パークホテルで開催致しました。

前日までは記録的な大雪に見舞われた秋田市でしたが、当日は抜けるような青空で、大会を祝福しているかのようでした。

この大会には東京本部より加藤純一氏ほか多数の本部役員が応援に駆けつけて下さり、会場は高波動に包まれてピンと張り詰めた中で定刻に支部代表の任の長い伊藤正治が歓迎の挨拶をしました。

続いて久保田先生による「アダムスキー問題と世界の未来と人間の生き方」と題してご講演がありました。

先生は体調を崩されたということで心配をしておりましたが、長時間立ち通して疲れも見せず、パワー溢れる熱のこもったご講演を拝聴する限り、健康についての心配はまったく杞憂でした。

内容的にも大変興味深いものが多く、一九九九年七月には何事も起こらないが、今後中国が経済力で飛躍的に発展するというのが予言の意味であるらしいということ。地軸が傾けば当然大変動が起こるが、来年は何事も起こらないから安心すること。東北地方の東部で近未来に地震が発生する可能性があるあるけれども西部には影響はないということ(編注)この後二四日に岩手県

宮城県地方で震度四の地震があったことが新聞で報じられた。東京都内には数千人規模の異星人が在住しているが、これは何かの現象を未然に防止しようとしているらしいことなどについて話されました。有難いことです。

また日本経済も九九年春頃から回復して再度バブルを迎えるだろうということでした。最後にあらゆる人を尊敬しなさいと締めくくられました。一休みして恒例の夕食会では福引き大会で大変な盛り上がりを見せました。

翌日は正式な観光は予定しておりませんでしたが、車数台に分乗して小人数で市内観光に出かけました。まず秋田大学付属鉱業博物館を見学しました。世界中の鉱石を展示してあるこの博物館に久保田先生は大変な興味を示されて、いろいろな鉱石についても卓越した学識と知識を披露され、皆さんを驚かせていました。幅広い能力の一端を垣間見せつけられた一日でした。その後は土崎港の一〇〇メートルタワーに昇ったり秋田市民族芸能伝承館で竿燈を見て楽しみました。

以上のように全日程を無事に終えて先生を空港へ無事お送り致しました。最後になりましたが、全国各支部より多数の祝電を頂きまして誠に有難うございました。このように関係者の皆様に支えられて心からお礼と感謝の言葉を申し上げます。

秋田支部代表 伊藤正治



秋田支部は創立一八年の歴史を有し、また隔年ごとに支部大会を開催する支部として矚目にあたいする。一四年前に開催を始めて今年で七回目になる。代表は当初より伊藤氏が担当。円満な人格で支部会員から慕われている。秋田の日本酒は日本一と称し、これに滅法強い無類の好人物の氏は絶えず愉快に哄笑し、周囲に愉悅感に満ちた雰囲気醸し出す人徳の高い人である。

今回の参加者は減少気味だったが、編者は全く意に介することなく熱弁をふるった。少し喋りすぎた感もあったが、まあいいだろう。皆さんは私の話を聞きに雪の中を集まったのだ。

とまれこの大会は素晴らしい雰囲気だった。大勢の騒がしい会場よりも、このアカデミアに満ちる「真・善・美」の波動を衷心より賛美したい。

日本GAP会長 久保田八郎



1ST SAITAMA BRANCH CONFERENCE

第1回 埼玉支部大会

全国の日本GAP会員の皆様こんにちは。埼玉支部は写真展その他で活動を展開してまいりましたが、このたび支部大会を企画しました。設立1周年にもなりませんスタッフが同熱意とパワーで皆様をお迎え致します。久保田先生の氣迫溢れるご講演を拝聴する絶好の機会ですから多数ご参加のほどをお願い申し上げます。

支部代表 会田裕子

- 日時 1999年3月21日(2連休の初日)
- 会場 埼玉会館 7階A会議室
埼玉県浦和市高砂3-1-4
Tel 048-829-2471
- 交通 JR京浜東北線「浦和駅」西口より県庁通りをまっすぐ徒歩5分。
- 会費 ¥3,500 (全員記念写真代は送料共 ¥1,000 希望者のみ)

プログラム

- 1:00 開会 司会 奥村 徹
代表挨拶 会田裕子
- 1:05 久保田先生ご講演
「UFO問題と宇宙的生き方」
- 2:45 休憩/全員記念撮影
- 3:30 久保田先生による質疑応答
- 4:30 閉会

- 夕食会 5:30~7:30
- 会場 埼玉会館内森永レストラン2F
「エンゼルーム」大ホール
- 会費 ¥5,500
- 宿泊 浦和ワシントンホテル
シングル¥8,400 ツイン¥16,600
浦和市高砂2-1 Tel 048-82-4001
- 申込先 夕食会・宿泊希望者はハガキで3月10日までに下記へお申込み下さい。
〒350-0214 埼玉県坂戸市千代田1-7-25 会田裕子 Tel 0492-81-4267



▲埼玉会館

UFO contacteeバックナンバー主要記事

★バックナンバーは101(中間欠)105(中間欠)107以降各号の在庫あります。バックナンバーのみ1冊¥700、送料不要、代金後払い可。ハガキに号数、住所(7ケタ郵便番号共)氏名、電話番号を明記して日本GAP宛ご注文下さい。101号から130号までの主要記事目録入用の方はハガキでお申込み下さればお送り致します。

No.143 1998年(平成10年)10月25日発行 ¥700

火星の驚異の地下大都市! 久保田八郎
UFO目撃日記(4) 加藤純一
異星人の壮大なスペース・プログラム 平田泰介
東京造形大学でUFO講演 久保田八郎
検証「UFO写真」 三島貴博
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

No.142 1998年(平成10年)7月25日発行 ¥700

金星人イエスの実像と出現の意義 久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(4) ダニエル・フライ
実用化された遠隔透視能力 坂本貢一
異星人の壮大なスペース・プログラム 平田泰介
謎の男ウィリアムソン ミッシェル・ジルガー
UFO目撃日記(4) 加藤純一
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

No.141 1998年(平成10年)4月25日発行 ¥700

バブアニューギニアのUFO出現騒動 久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(3) ダニエル・フライ
地球人を救う異星人たち バトリシア・フィンチ
太陽は熱い天体ではない! 平田泰介
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類(2) 小山洋一
「生命の科学」1万回読破で超能力が発現 池上正則
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ—G・アダムスキー

No.140 1997年(平成10年)1月25日発行 ¥700

火星には大都市があるか! 秋山真人
NASAによる火星探査報告の欺瞞性 杉山敏樹
ホワイトサンズUFO搭乗事件(2) ダニエル・フライ
宇宙論の疑惑とニセ宇宙探査報告類(1) 小山洋一
UFO目撃日記(2) 加藤純一
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ③—G・アダムスキー

No.139 1997年(平成9年)10月25日発行 ¥700

重大極まりないUFO問題 久保田八郎
ホワイトサンズUFO搭乗事件(1) ダニエル・フライ
UFO目撃日記(1) 加藤純一
宗教とUFO問題のはざま 平田泰介
偉大なアダムスキー哲学 高梨十光
UFO目撃のメッカ、ニューメキシコ州 久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ②—G・アダムスキー

No.138 1997年(平成9年)7月25日発行 ¥700

火星人に会った男 久保田八郎
コニストン円盤事件の現地を訪ねて 高橋 徹
異星人女性との不思議な出会い—ミッシェル・ジルジェ
UFOの磁気モーターの謎を解明 遠藤昭則
宇宙の使者 加藤純一
宇宙哲学で良き運命をつくる方法 久保田八郎
宇宙の法則のもとに生きるスペースブラザーズ(1)—ジョージ・アダムスキー

No.137 1997年(平成9年)4月25日発行 ¥700

UFO頻出のデザートセンター 久保田八郎
私は至近距離でアダムスキー型円盤を見た—中里信彦
空中に不思議なサインが出現 加藤純一
宇宙の真実を語るアダムスキー 肥後哲也
ケネディー大統領はドイツに転生?!—久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法 塩谷信男
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)—G・アダムスキー

No.136 1997年(平成9年)1月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<2> 久保田八郎
大宇宙の無限の力による長寿健康法 塩谷信男
反復思念とイメージ法で奇跡を起こす!—会田晋一郎
誤った宇宙論とアダムスキーの正当性 小山洋一
江戸川区のUFO—大根田匡史・岡田茂
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法(完)—G・アダムスキー

No.135 1996年(平成8年)10月25日発行 ¥700

愛と救いの異星人交信<1> 久保田八郎
イエス出生の謎を探る 遠藤昭則
アダムスキー哲学を実践して奇跡的に病気が全快—西坂安信
オレンジ色の光体を目撃 堀下一郎
東京上空の細長い物体 藤原敏子
素晴らしい宇宙哲学講義 佐藤 彰
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法③—G・アダムスキー

No.134 1996年(平成8年)7月25日発行 ¥700

米政府が隠すUFO問題の驚異の真相 久保田八郎
真実であったアダムスキーの体験—G・クレイトン
秋田で巨大円盤を目撃! 加藤純一
東京タワー上空の大母船 遠藤昭則
ロズウェル事件の真相はこれだ
コンピューターによるUFO写真鑑定への疑問—遠藤昭則
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

No.133 1996年(平成8年)4月25日発行 ¥700

月は異星人の基地だった 久保田八郎
私の宇宙哲学実践とUFO目撃 加藤純一
懐疑論者から支持者に転向—J・ローリーノ
アダムスキー哲学と波動感知法 林 国宜
創造のための宇宙哲学 佐藤 彰
宇宙の夢とUFO目撃 吉川美香
カルナの意味 林寺正俊
東京大地震は近未来に発生しない—秋山真人
肉体を超えて大宇宙と一体化する方法—G・アダムスキー

No.132 1996年(平成8年)1月25日発行 ¥700

別な惑星の文明と創造性 秋山真人
イエスの時代を透視する 遠藤昭則
奇跡を起こすイメージ療法 原 永倉
宇宙船の形態に関する一考察 遠藤昭則
アダムスキーの思い出と彼の宇宙哲学—アリス・ポマロイ
好評、名古屋市の講演
東京造形大学で講演



2ND FUKUYAMA BRANCH
CONFERENCE

第2回 福山支部大会

★今世紀最後の福山の支部大会！
★中国・四国地方の会員大歓迎！
★大会・夕食会・宿泊は同一建物！
超便利な会場！



▲サンビア福山（会場）

プログラム

12:30	受付開始	
13:00	開 会	
	支部代表挨拶	栗田雅則（なつめだまさのり）
13:05	講 演	久保田八郎「アダムスキー問題・宇宙哲学・来世紀の展望」
14:30	全員記念撮影・休憩	
15:00	質疑応答	久保田八郎
17:00	閉 会	

日 時 1999年（平成11年）5月23日（日曜日）
 ■大会 予約不要。当日受付。
 会 場 広島厚生年金福祉センター「サンビア福山」けやきの間
 交 通 JRF福山駅からタクシーで約7分
 JRF福山駅から御角町経由車庫行きバスで10分
 緑町バス停下車、徒歩1分
 会 費 ￥3,000（全員記念写真代￥1,000は別納）

■夕食会 要予約。下記を参照。
 会 場 サンビア福山 せんだんの間
 18:00～20:00（楽しい福引きあり）
 会 費 ￥6,000

■宿 泊 要予約。下記を参照。
 場 所 サンビア福山
 料 金 シングル￥6,000 ツイン￥8,000

■予 約 希望者はハガキに「夕食会予約」、「宿泊予約」と書いて、住所氏名、電話番号を明記の上、下記へ5月10日までにお申込み下さい。宿泊希望者は宿泊日、シングル、ツインの別を明記。宿泊料はチェックアウト時に各自でサンビアのフロントへ支払って下さい。

申込先 〒729-3101 広島県芦品郡新市町戸手1144-3
 栗田雅則（なつめだまさのり）
 Tel 0847-52-6306

ご注意 5月の福山支部月例セミナーは中止します。

●栗田代表のご挨拶

全国の日本GAP会員の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。福山支部は第2回目の支部大会を来たる5月23日に開催することになりました。日本GAP会長・久保田八郎先生のご講演とご指導は皆様の宇宙的進歩の絶大な指針になるものと確信致しております。会員ならばどなたでも歓迎致しますが、特に中国・四国地方の方には絶好の機会です。多数ご参加下さい。夕食会、宿泊の予約は早めにお願致します。支部一同心からお待ち致してあたたかくお迎え致します。



●久保田先生のメッセージ

福山支部は超熱意のある代表・栗田雅則氏によって運営されている素晴らしい集団です。以前に第1回の支部大会にご招待を頂きまして、この支部が高度なレベルに達していることを知って驚きますとともに、私自身のためにも非常に良い刺激となりました。今回は第2回の支部大会開催を心から祝福致します。当日は精一杯の努力を傾注してお話を致したいと思っておりますので、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。多数の会員の方々のご参加をお待ち致しております。愉快に過ごしましょう。

●久保田先生のご紹介

1924年生。島根県出身。慶大卒。戦後9年目にアダムスキーの著書に接して驚愕し、内容はすべて真実であると直感。文通によりアダムスキーに師事して1961年に世界GAP網の一環として日本GAPを設立。以来38年間UFO問題と宇宙哲学の哲学活動に専念。デンマークやアメリカでアダムスキー問題に関する講演を英語で行ない世界UFO研究界でも国際的研究家として知られる。

ユーコン広場



素晴らしかった会長の講演

兵庫県 宇野秀樹

先日は関西支部設立第一回セミナーで記念すべき素晴らしい講演を有難うございました。関西地区におけるこのセミナーを心待ちにして頂けたところです。この支部設立の先鞭となった奈良での質疑応答会の時にも増して素晴らしいものでした。

設立までの間、ご尽力頂いた先生のお蔭で小原さんという素晴らしいリーダーを中心に設立と運営がスタートしたことに感謝しています。小原さんは人格品位が高いので、そこから溢れてくる雰囲気はきっと関西支部を良い方向に発展させ、高い志を持つ支部になるものと思っております。私も支部の一員として彼等を強力にバックアップしてゆこうと思っています。今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

ユウコンスタック

福島県 伊藤章雄

私は入会した者です。本誌は私の想像以上に素晴らしい内容でした。高校を中退して半ばなげやりになっていた私にとって、UFOとは心の支えであり、また地球人を宇宙へと導いて下さる先導者であると思っております。

近所の書店にて「UFOと異星人の真相」という本を買いました。著者でありGAPの会長をも務めている

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

久保田八郎なる人物はいつたいどのような人なのかと思いましたが、掲載されていた先生の写真を見させて頂きまして、実に明るくて優しい方で、また読みやすい文章を執筆されるとは本当に素晴らしいです。私の身の回りにもUFOと思われる現象が幾つかありました(以下略)。

屋外に大きなUFO

和歌山市 匿名女史

誰しもUFOを見られることは大きな喜びですし大きな幸せだと思えますが、宇宙的な精神を自分の心としてしっかりと生きてゆかねば自分も周りの人も幸せになれないと思います。以下は私の目撃体験です。

一九九八年三月十七日の朝、立ち上がって二階の窓の外に目がいったとき、オレンジ色の大きな楕円型の光の右の山の方へ動いて行きました。目の前で見ましたので、UFOかどうかという次元の低いものではなく、「あれは一体どこから何をしに来ているのかな?」と、ポカンと考えました。この名もないごく一般人の私が見るとは全く信じられない話ですとても感激した日となりました。(編注)UFOのスケッチを添付

素晴らしきユーコン誌

大分県 平田泰介

先日は「意識の声」をわざわざお送り下さいまして深く感謝いたします。拙文に過分なお褒めの言葉を頂きましたことは面映く、まして先生の校正と編集のご努力があったのこのと思っております。しかし信じていることを先生から認めて頂いたことにより、大いに自信を深める手助けをして下さったことに感激しております。私共の活力とは先生のお言葉が何よりの励みで大きな助けとなっております。

いつもながら先生は大変に精力的な活躍で、次のユーコン誌一四三号では火星の地下都市をNASAが知っていた可能性があること、これはコンタクティーズ氏の遠隔透視によるものということ、非常に楽しみにしております。Z氏の場合はまさに「生命の科学」に述べられているレクチャー10と11の「意識による旅行」及び「宇宙空間の探検」に当たりますので、大きな事故に遭われた後「生命の科学」講座を何度も読まれたことによつて益々その能力が発達し、ブラザーズからの積極的な接触があったと言われているので、これはもともとカルマとしてそのような宿命のあった方なのでしょうか(編注)以下非常に有益なご意見が展開しますが長文のために残念ながら省略させて頂きます。

関西支部第一回セミナーに出席して 大阪市 米田純子
九月二七日には第一回関西支部月例セミナーにお越し頂きましてまことに有難うございました。つい三か月前にも奈良での質疑応答会にお越し頂いたばかりでしたが、今回も他方面より大勢の方がご参加下さいまして、これもやはり関西方面でも先生を待ち望んでいる方がたくさんいらっしゃるんだと改めて実感いたしました。

私はGAPに入会させて頂いて八年目位になるのですが、一度も東京総会に出席したことがなく(主婦はなかなか時間がとれません)、今年度は貴重な機会に二度も恵まれましたことに大変喜んでおります。アダムスキー哲学に出会えましたことと久保田先生にご指導いただいておりますことに本当に幸福に思いますと共に、とても充実したフライリングに囲まれています。

日常生活ではたまにため息をつくこともありすが「信念の力、希望の力、絶対にあきらめない力」昨日失われたゴールを明日は勝ち取る事ができる、この心の底から沸き起るエネルギーを大切にしていきたいと思います。本当に有難うございました。

偉大な日本GAP

静岡県 高梨十光

いつも有難うございます。毎月ご惠贈頂いておりますところの「意識の声」は毎回感動して読んでおりますが、ユーコン誌も世界で最も先駆的な専門誌として立派な内容を誇られていて、これは、誠に素晴らしいことと存じます。

小生はおよそ三〇年前から久保田先生発行されるころの日本GAP機関誌を拝読しておりますが、これ

ほどに進化するものなのかと驚いております。これを久保田先生お一人で取材され編集され発行され続けてこられたのですから、驚異以外の何ものでもありません。何よりも日本GAPの活動そのものが偉大であり、これにはいつも敬意を表しております。

都内の観測会でUFOを目撃

香川県 関 高明

一〇月一〇日の総会に参加させて頂き、心から御礼を申し上げます。ロス氏の火星に関する講演で新しい情報を聞かせて頂き、有難うございました。こういう情報に接することができるのもGAP会員の特権です。先生と本部役員スタッフのご尽力に感謝申し上げます。

翌日の観測会では久しぶりにUFOを見させて頂きました。すごかったです。銀色の球体の飛行は何か風船のようでしたが、これが間違いなくUFOであれば、私は何度も同じ物を見ていると思えました。

支部代表者会議では加藤氏をはじめ本部役員、支部代表との意見交換もできて盛り上がりつつありますが、本部と支部とのコミュニケーション不足を痛感しました。もっと互いのコミュニケーションを活性化させれば、先生や本部の考えが地方に浸透し、全国が一体となった活動が展開できると思っております。今後も私なりに頑張りますので、よろしくご指導下さいますようお願い致します。

エネルギーに満ちたユーコン誌

岐阜県 大谷和枝

ユーコン誌一四三号が届きました。

美しい装丁で、ページをめくると先生の渾身のエネルギーがビリビリ伝わってくるようでした。Z氏の記事も大変興味深く読ませて頂きました。本当にこれだけの情報を、この値段で読むことができるなんて……。GAPに入っている特権だなあと感謝しております。

感動の総会と観測会のUFO出現

鹿児島県 曾我部勇人

東京の総会から帰って来まして、あの感動と喜びを新鮮なうちに思いながら、身辺の俗事に押しながされていたのですが、筆をとることが出来ました。先生からは早速観光の全員記念写真をお送り頂き、感謝申し上げます。一人一人の顔を拝見し、再度あの楽しかった時間に我を忘れてます。とにかく先生が元気に回復され、私共も今回の総会に出席出来ましたことに、とても嬉しく思っております。

今回の総会と観測会との両日の快晴をも含め、そして何よりも全員で見ましたあのフットボール型のUFO!「やった!」とつい叫んで走りまわっていました。その私の周囲の会員も上空を見上げて歡喜しているの、GAPとは関係のない若者も「どれですか、どれですか」と必死に私らにその位置を求めてきました。UFOというのは、GAP以外の若者にも新鮮な感動を与える対象なのだ嬉しくなりました。その中の一人の若者が「こんな所でUFO見れるなんて思わなかったよ!」と興奮していました。決して冷めた若者だけではないことを知ったように、UFOはGAPの人々だ

けのものではない事を再度痛感しました。(以下略)

前進する新潟支部

新潟県 今泉克美

前略ーオーブンマインドについては新潟支部の星代表をはじめ支部会員の皆様からも恩恵を受けています。かつての会員でありながら二〇年間も宇宙哲学を忘れていた私を快く仲間として受け入れて下さいました。東京本部例会に毎月参加させて頂いております。感謝の気持ちでいっぱいです。私の全身の細胞が会員の皆様のご援助で少しずつ進歩の道に乗りはじめています。

新潟支部は古くから立ち上がった伝統ある支部です。定期的に開催するUFO写真展は大手パートから「次回もまた開催してくれ」と好評で、入場動員数でも四桁の数字をあげています。まさにGAPの名にふさわしく支部代表はじめ皆様のご努力と信念に頭の下がる思いです。(以下略)

感動的な関西支部第一回セミナー

兵庫県 西村悠子

このたびはお忙しい中を関西支部初のセミナーにお出まし下さり、誠に有難うございました。当日は全員が大変緊張しておりましたが、黎明会の方々とのさりげなく黙々と手伝って下さる姿には暖かい奉仕の精神があふれていて頭が下がりました。

また出席者数も全が見当がつきませんでした。イメージ通り、面識のない方が次々入って来られて受付は大忙しでした。その方達も先生

の宇宙的な御講演や質疑に対する明解なお答えに感動なされたのではないのでしょうか。

私は今まで月例会は先生の御講演のビデオを見せていただくだけでいいのだろうかと思っておりました。今回計らずも細やかながら支部設立の仲間としてお手伝いさせて頂きました。した事に我ながら驚いたり感動したりしておりました。そしてスタッフの方々が一様に謙虚でパワフルで言い訳をしないのもさすがアダムスキー哲学の実践者と思いました。

セミナーが始まる前の緊張感、終わった時の喜びと感動をいつまでも忘れずにいたいと思います。セミナー一室一号が一瞬他の天体の一室のように感じられたのは私だけでしょうか。先生、どうかお体を御自愛下さいませように。

素晴らしい第一回関西支部セミナーの講演

埼玉県 会田裕子

先日開催された第一回関西支部記念セミナーでの大変素晴らしい講演を誠に有難うございました。久保田先生のご講義は、いつ拝聴しても感銘を受けます、特に今回のお話は現在の私の内面で起こっている葛藤や不安などに対する見事な解答を与えて下さいました。自己犠牲ではなく、真の奉仕を学ぶことが今生の私の大きな課題のような気が致しました。改めまして御礼を申し上げます。次第でござります。

ユーコン誌の親切な編集

東京 土屋裕子

ユーコン誌は長年発行されて慣れておられると存じますが、やはり一

冊完成させることは大変なお仕事であるうといつも思います。と申しますのは、毎回読ませて頂いておりますと、その都度反省ややる気が起きて気持ち透明になるような幸せ感があるのです。やはりお作りになる方の精神の高さが反映しているからにほかなりません。

ユーコン誌は初めての読者が読んでもよくわかるように「注」がよくつけてありまして、とても親切で、自分達だけの世界にならないようなお気遣いを感じます。私は良心的な会費でおつりがたつぷり頂ける位に勉強させて頂いております。先生の今後の一層のご健康とご発展をお祈りさせて頂きます。

新刊紹介

近來精神世界探究の機運が上昇して多種類の刊行物が出来るようになったが、ついに昨年二月(株)ごま書房より「精神世界」と題する月刊誌が出た。編集は名高い超能力者の秋山眞人氏。精神世界研究者達の論説や体験記を網羅したわが国最初の専門誌。日本GAPの久保田会長を取材した「UFO研究は人間研究」と題する興味深い二回連載記事の第一回も掲載されている。B5・一四三頁・八五〇円 書店で販売中。直注はごま書房03-268-0451へ。

SPRITUAL WORLDS WORLD BOOK
SP 精神世界
 秋山眞人 責任編集
 ◎編集長 INTERVIEW-1
ユニーク経営者と精神世界
 「魂術者の成功法」中野 明・秋山眞人
 ◆洗脳される人、騙される人
 本人も被害者となる「レイプ」の秘法 高野 明
 ◎中野明の最新研究のついで
 「アセンション」とは何か
 高野 明 最新研究①「村上式近視矯正法」
UFO研究は人間研究
 久保田眞人
 SERIES
 「龍穴の不思議」 三浦 浩二
 特集
ノストラダムス大予言を考える
本音・世紀末大研究!
 大野 隆 / 秋山眞人 / 高野 明 / 久保田眞人 / 村上 誠 / 三浦 浩二 / 中野 明 / 土屋 裕子 / 西村 悠子 / 曾我部 勇人 / 会田 裕子 / 今泉 克美 / 山本 浩一 / 山本 浩二 / 山本 浩三 / 山本 浩四 / 山本 浩五 / 山本 浩六 / 山本 浩七 / 山本 浩八 / 山本 浩九 / 山本 浩十 / 山本 浩十一 / 山本 浩十二 / 山本 浩十三 / 山本 浩十四 / 山本 浩十五 / 山本 浩十六 / 山本 浩十七 / 山本 浩十八 / 山本 浩十九 / 山本 浩二十 / 山本 浩二十一 / 山本 浩二十二 / 山本 浩二十三 / 山本 浩二十四 / 山本 浩二十五 / 山本 浩二十六 / 山本 浩二十七 / 山本 浩二十八 / 山本 浩二十九 / 山本 浩三十 / 山本 浩三十一 / 山本 浩三十二 / 山本 浩三十三 / 山本 浩三十四 / 山本 浩三十五 / 山本 浩三十六 / 山本 浩三十七 / 山本 浩三十八 / 山本 浩三十九 / 山本 浩四十 / 山本 浩四十一 / 山本 浩四十二 / 山本 浩四十三 / 山本 浩四十四 / 山本 浩四十五 / 山本 浩四十六 / 山本 浩四十七 / 山本 浩四十八 / 山本 浩四十九 / 山本 浩五十 / 山本 浩五十一 / 山本 浩五十二 / 山本 浩五十三 / 山本 浩五十四 / 山本 浩五十五 / 山本 浩五十六 / 山本 浩五十七 / 山本 浩五十八 / 山本 浩五十九 / 山本 浩六十 / 山本 浩六十一 / 山本 浩六十二 / 山本 浩六十三 / 山本 浩六十四 / 山本 浩六十五 / 山本 浩六十六 / 山本 浩六十七 / 山本 浩六十八 / 山本 浩六十九 / 山本 浩七十 / 山本 浩七十一 / 山本 浩七十二 / 山本 浩七十三 / 山本 浩七十四 / 山本 浩七十五 / 山本 浩七十六 / 山本 浩七十七 / 山本 浩七十八 / 山本 浩七十九 / 山本 浩八十 / 山本 浩八十一 / 山本 浩八十二 / 山本 浩八十三 / 山本 浩八十四 / 山本 浩八十五 / 山本 浩八十六 / 山本 浩八十七 / 山本 浩八十八 / 山本 浩八十九 / 山本 浩九十 / 山本 浩九十一 / 山本 浩九十二 / 山本 浩九十三 / 山本 浩九十四 / 山本 浩九十五 / 山本 浩九十六 / 山本 浩九十七 / 山本 浩九十八 / 山本 浩九十九 / 山本 浩百

日本GAP横浜支部報
「ZENNESS
(ワンネス)」
 第5号刊行、B5判、
 21頁
 希望者は八〇円切手五
 枚同封、左記へお申込
 下さい。
 〒336-0027
 埼玉県浦和市沼影一〇〇一
 ラムザタワー一九〇六
 清水 正
 ☎048-845-2266

ジョージ・アダムスキー 著
久保田八郎 訳

George Adamski

全面改訂・改訳
全11巻／各四六判

新アダムスキー全集



1 第2惑星からの地球訪問者

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円十税）／四六判並製 ●世界的に著名なUFO研究者、ジョージ・アダムスキーが金星人と会見、自ら円盤や母船に乗り他の惑星の文明の実態を明らかにした本全集の中心たる書。

2 超能力開発法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円十税）／四六判並製 ●人間に内在する宇宙的能力の開発法を説く。四宮をコントロールして肉体内部の宇宙意識からのメッセージを感じ、テレパシー、遠隔透視などを学ぶ。

3 21世紀／生命の科学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円十税）／四六判並製 ●地球外生命体との接触によって開発されたアダムスキーの超能力開発プログラムの全貌。進化した異星人から地球人に伝えられた12のレクチャーを公開！

4 UFO問答100

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1262円十税）／四六判並製 ●1985年アダムスキーは世界中から送られてくる質問を分類し質疑応答集をまとめた。UFO問題の疑問を解き、混乱したUFO研究界に解答と示唆を与える書

5 金星・土星探訪記

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2330円十税）／四六判並製 ●アダムスキーが大母船に乗せられ、高度な進化をとげた金星・土星を訪れる驚異の体験記録。金星人として生まれ変わった亡き妻との再開。

6 UFOの謎

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円十税）／四六判並製 ●円盤の推進理論や聖書とUFOとの関連など、UFOと異星人問題の真相を解明する書。後半は著者の世界講演旅行記で各国GAP網の活動状況を克明に描写。

7 21世紀の宇宙哲学

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1000円十税）／四六判並製 ●地球人が宇宙的な成長をとげるために、心体内部に宿る宇宙意識との一体化を説いた書。既存の宗教・哲学では理解しえなかった意識と万物との関係を解く！

8 UFO・人間・宇宙

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2330円十税）／四六判並製 ●日本GAP機関誌に掲載されたアダムスキーのUFOと宇宙哲学に関する論文や講演録を編集。特に他界する直前の最後の講演が圧巻！

9 UFOの真相

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体1922円十税）／四六判並製 ●アダムスキーの薫陶を受けた人々の論説、講演録などを収録。アダムスキーの宇宙の実像と、人間味豊かな庶民性を持つ素顔を多角的にとらえる。

10 超人ジョージ・アダムスキー

久保田八郎著 定価（本体1262円十税）／四六判並製 ●アダムスキーの理論と哲学を要約、国際的アダムスキー研究者・久保田八郎が初めて書き下ろした意欲作！アダムスキー入門書。

11 肉体を超えて 大宇宙と一体化する方法

ジョージ・アダムスキー著 久保田八郎訳 定価（本体2800円十税）／四六判並製 ●アダムスキー高弟のアリス・ボマロイ女史が、アダムスキーの膨大な講演録を収集。久保田八郎氏が翻訳した大著。宇宙哲学の真髄を究めた最高の名著。

別巻・UFO宇宙からの完全な証拠

ダニエル・ロス著 久保田八郎訳 定価（本体2718円十税）／四六判並製 ●アメリカ気鋭のUFO研究者、ダニエル・ロスが全力で展開したUFO問題の真相！アダムスキーの体験の真実性を科学的に実証した書。

*新アダムスキー全集全巻をまとめてご注文頂きますと
本体価格の10%引き+送料がサービスとなります


CHUJO ART PUBLISHING CO., LTD.

中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017郵便振替：00180-5-66324

UFO事件と 愛の異星人 交信

久保田八郎著

定価(本体2400円+税)送料310円
四六判並製・352頁

世界のUFO事件を研究調査してきた著者が、ルードの奇蹟やファティマの名高い聖母空艇事件やメキシコのマヤの遺跡その他の謎の事件等に現地調査のメスを入れて、別な惑星から来た宇宙船に起因することを検証し、さらに異星人と交信して愛と救いのメッセージを与えられている日本人青年の感動の実話を加えた心あたたまる希有のノンフィクション。



UFOと 異星人の 真相

久保田八郎著

定価(本体1602円+税)送料310円
四六判並製・288頁

UFO研究者の第一人者・久保田八郎が書き下ろした本書は、別な惑星へ行ってきた青年の驚異の体験をもとにUFOの内部の様子や作動原理、異星人の文明の実態等を明らかにしていきます。加えて超能力等の問題や、氾濫するUFO関連情報の真偽にも迫るUFOを研究する人の必携の書です。



UFOと 宇宙哲学の 行方

(ゆくえ) 久保田八郎著

定価(本体1602円+税)送料310円
四六判並製・288頁

本書はわが国UFO研究者の第一人者・久保田八郎が「UFOcontactee」に長年にわたって掲載してきた記事や講演から選りすぐって編集したもので、UFO問題とアダムスキー哲学に関する著者の研究の集大成ともいえる内容になっています。2部構成になっている本書は、まず第1部ではアダムスキー哲学を人生に生かしたり、難病の治療に応用する実践法を明らかにしていきます。UFOを研究する人のガイドブックとしても最適の書です。



UFO・ 遭遇と 真実

—日本編— 久保田八郎著

定価(本体1500円+税)送料310円
四六判並製・264頁

日本で発生した驚異的なUFO事件を8件選び、わが国UFO研究界の第一人者・久保田八郎が書き下ろして読みやすく編集した本書は、実証主義をつらぬく著者が徹底的に調査した結果、真実そのものであると確認した事件のみを流麗な筆致で活写。読者を大気圏外の世界へ誘います。



※上記の書籍は日本GAPでも取扱います。著者の署名捺印入り。ハガキでご注文下されば代金後払いで直送します。



中央アート出版社

〒104東京都中央区京橋3-7-13
TEL 03-3561-7017 郵便振替：00180-5-66324

英文版「UFO contactee」No. 13 日本GAP

B5版/12頁/カラー写真掲載/コート紙使用/¥1,000 送料¥160

日本GAPは国際版として英文版「UFO contactee」誌を年1回発行して世界のUFO研究団体や個人研究家と交流を続けています。本誌にはアダムスキー問題を中心にUFOと宇宙哲学記事を主体に掲載し、アダムスキーが世界のGAPリーダーに送った質疑応答も連載しています。No. 13には日本語版14号に掲載された「金星人イエスの実象と出現の意義」の英訳、その他カラー写真や記事が掲載されており、米人校閲の流麗な英文による本誌は英語学習に最適です。日本GAPへハガキでご注文下されば代金後払いでお送りします。現品に同封の振替用紙で前後にご送金下さればOKです。

From The Editor 編集後記 § § §

●本号には昨年一〇月の総会におけるダニエル・ロス氏の火星に関する講演全文を掲載しました。出席出来なかった方々のためによい資料になると思います。総会ではスライド約四〇点の映写が圧巻でしたが、その内の数点も掲載してあります。

●「UFO男」こと加藤純一氏の「UFO目撃日記」も果てなく続きます。何かあるのでは?と怪しむ人もあるでしょうが、これは真実そのもののレポートです。

●また「異星人の壮大なスペース・プログラム」が執筆されました。平田泰介氏の膨大な調査と読書量が圧倒されます。この記事は次号にも続きます。

●アダムスキーの講演集はまだ延々と続きます。数十本の録音テープを編集したアリス・ボマロイ女史のものすごい努力には賞賛のほかありません。感謝あるのみです。

●近來UFO問題が低迷化しているような印象を受けますが、これは大衆がUFOなるものに違和感を持たなくなったためで、むしろ実在物として市民権を獲得してきた証拠と言えるでしょう。喜ぶべき現象です。

●UFO目撃報告、UFO写真、超能力開発体験、宇宙哲学研究実践体験、宇宙科学等の原稿や資料を募集しています。掲載分には薄謝を呈します。

●本誌は多数のボランティアにより全国の主要書店に直販で卸されています。この活動に参加希望の方はハガキでお申込み下さい。説明書をお送ります。

日本GAP専門誌・季刊 春季号
UFO contactee 14号

編集発行人 久保田八郎
発行所 日本GAP
〒130-0044東京都江戸川区本一色1-12-1-301

電話 03-36551095
03-36551095
振替 00140-2-35912

一九九九年一月二五日発行
定価九四〇円(本体九〇〇円+送料210円)
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断引用転載を禁じます。

日本GAP全国月例セミナー案内

支部名	日 時	会 場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※1月のみは第2日曜日の10日に変更。 2月は11日(祭日)に変更。	港区芝公園3丁目5-8「機械振興会館」地下3階第2研修室。 ☎03-3434-8211 JR 浜松町駅下車。東京タワーの正面前。 浜松町駅北口から東京タワー行きバスで約8分。 ※日曜日は正面玄関が閉じられているので、右へ回って建物の右側の入口から入る。 連絡先=日本GAP本部 ☎03-3651-0958	会場費 ¥1000 セミナー 受講料 ¥1500 計¥2500	1:00→1:40 会員の講演。 1:45→3:15 久保田会長の 講義「生命の科学」 3:25→5:00 超能力開発練習/近況 報告/ビデオ映写/質疑。 ※日本GAP会員でなくても入場可。 ※会場に臨時売店開設。新アダムス キー全集、GAPグッズ等を販売。
新潟支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	新潟市東万代町9「新潟市青年の家」(万代市民会館と同じ建物) ☎025-246-7711。JR 新潟駅より徒歩5分。 連絡先=星 富治夫 ☎02579-2-5562	¥500	同上
名古屋支部	毎月第2日曜日 午後1:00→4:30 ※今年2月、3月、4月のみ第1日曜日に変更。	名古屋市中区金山1丁目5番1号「名古屋市民会館」特別会議室。 ☎052-331-2141(代) JR 東海・名鉄・地下鉄の金山駅より徒歩5分。 連絡先=林 園宣 ☎0586-45-6468	¥500	同上
山形支部	毎月第1日曜日 午後1:00→5:00 ※日時は変更があるため、毎月事前に柴田宛 電話で問い合わせること。	山形県天童市老野森1丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0236-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー4分。天童市 役所の裏側。 連絡先=柴田光明 ☎0233-25-3261	¥500	同上
北海道支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:00	札幌市中央区北2条西7丁目「かでの2・7」(北大付属植物園前、 北海道警察本部横) JR 札幌駅より徒歩7分、地下鉄札幌駅 あるいは大通駅より徒歩7分。☎011-231-4111 (道庁代表) に 「かでの2・7」に接続を依頼すると会場へ直通。 連絡先=林寺正俊 ☎011-763-7711	¥500	同上
沖縄支部	毎月第4火曜日 午後7:30→10:00	宜野湾市嘉数1-6-5 早川宅 ☎098-890-1324 連絡先=里 孝人 ☎098-835-3991	¥500	同上
秋田支部	毎月第2日曜日 午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377 連絡先=伊藤正治 ☎0188-62-2831	¥500	同上
横浜支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」 ☎045-681-6551 JR 関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩 3分。 連絡先=清水 正 ☎03-5995-6038	¥500	同上
茨城支部	毎月第4日曜日 午後1:20→5:00	水戸市梅香1-2 みと好文カレッジ小集会室。 ☎029-224-6602。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先=清水勝一 ☎029-273-1903	¥300	同上
長野支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	塩尻市大門7番地「塩尻総合文化センター」第1会議室。 ☎0263-54-1253 連絡先=博田文喜 ☎0264-24-3012	¥500	同上
紀南会	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※日時については事前に松口に問い合わせること。	和歌山県新宮市春日1番35号 「新宮地域職業訓練センター」工業コーナー ☎0735-23-0005 JR 新宮駅下車、徒歩5分、新宮市役所隣。 連絡先=松口幸之助 ☎0735-34-0384	¥300	同上
南九州支部	毎月第4日曜日 午後1:00→5:00	鹿児島市与次郎2-3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111 連絡先=曾我部勇人 ☎0992-53-2315	¥500	同上
高松支部	毎月第3日曜日 午後1:30→4:30 ※日時は変更があるため事前に電話。	香川県坂出市寿町1-3-5「坂出勤労福祉センター」 ☎0877-46-2463 JR 坂出駅より徒歩10分。 連絡先=関 高明 ☎0875-72-2698	¥500	同上
伊豆支部	毎月第1日曜日 午後1:00→4:30	静岡県三島市一番町2-5「三島市民文化会館」第3会議室。 ☎0559-76-4455。三島駅より徒歩3分。 連絡先=高梨十光 ☎0558-72-7832	¥500	同上
福山支部	毎月第2日曜日 午後1:30→4:30	広島県福山市霞町1丁目10番1号「福山市民会館」3F第3会 議室 ☎0847-21-2151 JR 福山駅から南に徒歩10分。 連絡先=栗田(なつめだ) 雅則 ☎0847-52-6306	¥500	同上
埼玉支部	毎月第3日曜日 午後1:00→5:00 ※1月は第4日曜日の24日に変更。 4月も第4日曜日の28日に変更。	埼玉県浦和市高砂3-1-4「埼玉会館」 ☎048-829-2471 JR 京浜東北線「浦和駅」西口より県庁通り を徒歩5分。 連絡先=会田裕子 ☎0492-81-4267	¥800	同上
関西支部	毎月第4日曜日 午後1:30→5:00 ※本年3月は第2日曜日の14日に変更。	大阪府堺市長曾根町183-5「南大阪地域地場産業振興センター」 ☎0722-55-0111 地下鉄御堂筋線「なかもず」②出口より徒歩 5分。南海高野線「中百舌鳥」北口より徒歩5分。堺駅南口より 南海バスなかもず停留所。連絡先=梁瀬和孝 ☎06-967-7651	¥1000	同上



オーソン肖像写真

1952年11月20日、アダムスキーが米カリフォルニア州のデザートセンターで会見した金星人を、目撃者の一人アリス・ウェルズ女史が双眼鏡で観察しながら描いたスケッチをもとにして女流画家ゲイ・ベッツが油絵に仕上げた絵画の写真。10.5cm×17cm(不許複製転載)

¥1,000 送料¥130



金星のシンボルマーク

中央の眼は万物を見透す宇宙の意識、つまり人体を生かす生命パワーと叡知をあらわし、周囲の4層の放射状ゾーンは人間のマインド(心)の発達状態をあらわしています。人間のマインド(心)は眼・耳・鼻・口の四つから形成されるので4層になっているのです。

¥500 送料¥80



ESPカード<超能力開発用>

テレビシー、遠隔透視等の能力開発用としてアメリカのデューク大学で開発されたカード。5種類の図形カードが各5枚ずつあり、計25枚のセット。堅牢な厚紙製。重さ40g、5.7cm×8.9cm。携帯に便利なポケット用。どこでも気軽に練習できます。使用説明書付き。

¥1,500 送料¥130 (2~5個)¥190



本誌綴込み用バインダー

このバインダー1個に本誌8冊(2年分)を簡単に綴込み可能。美麗背文字入り。背中に年号を書き込めば取り出しに便利です。

¥1,000 送料は1個~5個 一律¥800



GAPキーホルダー

日本GAPがデザインして製作したオリジナル・キーホルダー。シンボルマークの周囲を「WITH COSMIC CONSCIOUSNESS(宇宙の意識とともに)」の金文字が取り巻く優雅なデザイン。円形部分は直径3.2cm。鎖とも全長9cm。非常に堅牢に出来ています。

¥1,900 送料130



会員バッジ

金星のシンボルマークが金色に輝く優雅なデザイン。表面の透明樹脂がキズを防ぎ、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏の留め金が心棒タイプ留め式。女性用は安全ピン式。ご注文の際は、いずれかを明記して下さい。実物の直径は1.7cm。

¥2,000 送料4個まで130



ブックカバー

主として新アダムスキー全集用に作られたカバーですが、同じ大きさの四六判の書籍ならどれにも使用できます。表側の中央にシンボルマークと「宇宙の意識とともに」を意味する英文が金色で箔押しされた濃紺色の優雅なデザインです。人造皮革製。

¥1,200 送料¥190 5枚まで¥270

GAPシール

シンボルマークを「宇宙の意識とともに」の英文が取り巻く優雅なデザインのシールです。カバンその他の持ち物に最適。

1枚に大小5個1組 ¥200 送料10枚まで¥80



新アダムスキー全集

訳・著者 久保田八郎の署名捺印入り

中央アート出版社刊「新アダムスキー全集」を日本GAPでも取り扱っています。各巻とも扉に久保田八郎の署名と捺印を入れてお届けします。詳細については本誌の広告を参照して下さい。全巻注文の際の定価割引はありません。送料は1冊310、7冊まで¥660、12冊まで¥900。ハガキでご注文下されば代金後払いでお届け致します。

申込先

上記各商品のご注文の際は住所・氏名・品名・個数・電話番号をご記入の上、郵便振替が現金書留でご注文下さい。代金後払いも承ります。その場合はハガキに上記のとおりにご記入の上お送り下さい。商品の中に郵便振替用紙を同封しておきますから、現品到着後、最寄り郵便局からご送金下さい。消費税は無関係です。

〒133-0044 東京都江戸川区本一色1-12-1-511

日本GAP

郵便振替=00140-2-35912

電話=03-3651-0958



日本GAP能力開発カセットテープ

●「生命の科学」能力開発テープ¥1500

送料1本¥160 計¥1660

日本GAP東京本部開催月例セミナーで久保田会長が98年4月から毎月行なう「生命の科学」解説講義と質疑応答を録音した1時間半カセットテープ。みずから「生命の科学」を実践して驚異的な体力と気力を保つ大指導者の雄大な宇宙的哲学と生き方に関する大講義をお聴き下さい。心が変われば人間が変わり運命も好転します。

●テープのご注文も代金後払いで結構です。○年○月分、個数、氏名、住所、電話番号を明記の上、ハガキでご注文下さい。ただし東京月例セミナーのテープはセミナー終了後、製作に約5日間を要します。

申込先

日本GAP



日本GAPビデオ

臨場感溢れる画像があなたを会場に引き込み、宇宙的な一体感を起こします。全巻¥3000

●東京本部月例セミナー 全1巻 ¥3000

(内容) 久保田会長の解説講義、他、約10分

●日本GAP総会 全2巻各¥3000

(内容) 毎年開催される日本GAP総会を収録(1989年度分から在庫あり)

●日本GAP海外研修旅行 全1巻 ¥3000

(内容) 旅行のハイライトをまとめたビデオ(1989年度分から在庫あり)

●米ワシントン市のアダムスキー大会における久保田会長の講演(英語) 全1巻 ¥3000

(内容) 1995年9月8日、久保田会長が英語で講演したためらしいビデオ。英文テキスト付。全巻翻訳文は本誌131号に掲載。送料はビデオ¥700、2本以上3本まで¥700。

申込先

ご注文の際は品名、○年○月分、上下巻の区別、個数、住所氏名、電話番号をご明記の上、郵便振替でお申し込み下さい。(ビデオの代金を含みます) 〒162 東京都新宿区富久町36-18 富久マンション103

伊東芳和

振替 00140-8-13811

電話 03-3351-9525

何とオーダーメイド!

秋山真人先生推奨



あなただけの波動器を作ります!!

■OVOマインドエンジンとは何か?

10年以上にわたる研究によりエソープト・ルトン博士は、いままでの波動学とは別の視点から「波動形態理論」を完成させ、外部電源を必要としない強力な波動コントローラーを生み出しました。電源を必要としないから、クリーンでリーズナブル。また、装置本体は透明高級アクリルと稀少鉱石の美しい組み合わせで、ユーザー一人一人の波動に合わせて作成するという、オーダーメイドです。特殊なシートの中にあなたの波動を転写しプリント基盤(核波動共鳴図形回路)を作成し、アクリル球体の中に封入。さらにあなたの指紋から波動座標を割り出し、それと親和性の高い波動浄化調整済の稀少鉱石とカップリングします。シンプルで美しく個性的・・・これが OVOマインドエンジンです。

■OVOマインドエンジン・直径37ミリ グラスプレート(9,800円送料・消費税込)

ミニビラミッドの連続体を刻んだグラスと中核波動形態基盤を、錫を基本とした特殊合金でパッケージしました。あなたの心身の波動、および、あなたが見たり触れたりしたものの波動を高めます。(グラスプレートについては稀少鉱石はつきません。)



■OVOマインドエンジン・全長最大200ミリ ヒーリング・コンディショナー(53,500円送料・消費税込)

スティックタイプの強力型でヒーリングを行う人の心身の波動を守護するものです。他からの質の良くない波動を完全にブロックする(悪質波動と共鳴する回路の遮断)のために作成されました。イギリスにある100年以上も前に建てられたゴーストハウス(幽霊の出る家)に、このコンディショナーを置いたところ、その日から幽霊が出なくなったという現象も報告されており、活用法はあなたのアイデア次第です。



■OVOマインドエンジン・直径30ミリ石球共 ルミナ波動レンズ(19,800円送料・消費税込)

40種類以上あるといわれる風水龍穴地の形を分析しさらに独自の技法で組み合わせた12種類の図形回路を作成。12種の基盤の内、2種類をあなたの波動に合わせて選び、エンゼルヘアークォーツ、レインボウライト、レッドジャスパーなどの30ミリ球とカップリングしてあなたの身体が発する中核波動を転写・調整してお届けします。稀少鉱石球もあなたの波動にあった石を選びます。



■OVOマインドエンジン フルパワーキット(127,000円送料・消費税込)

太陽の波動を転写した80ミリ大型波動レンズ球と、スフィンクス(エジプト)の波動と月の波動を転写した60ミリ中型波動レンズ球、さらに定型波動レンズと同じく稀少鉱石球、ヒーリング・コンディショナーなどが、すべてセットになったお得なキットです。波動コントロールは勿論のこと。願望の具現化、霊的問題の解決、人間関係の円滑化、能力開発など様々な分野で活用でき、組み合わせで作動させることによってマル秘の活用法があります。



OVOマインドエンジンにできること!

波動の良否のチェック・波動の変調浄化・邪気、波動の消去・マイナス波動のプラス転換・波動の強化増幅まで自由にでき、必要な時間はそれぞれ3分もあれば充分です。OVOマインドエンジンは、いわば良質波動のレンズのようなもので、あなたの心身をシステムの一部として使用します。

注文方法

ハガキの裏面に住所、氏名、生年月日、年齢、職業、TEL、商品名、個数を必ず自筆で記入してください。印鑑を押していただいた後、ハガキに手、または足の指紋(どの指でも可)を朱肉かスタンプインキ(色は問いません)で押してから発送してください。当社口座に入金が確認され次第、作成にかかりますので、商品到着までに3~4週間かかることもあります。入金の際、下記の口座までお振り込み、または、現金書留、郵便為替でご送金ください。

●郵便局：口座名義 オフィス江戸幕府
記号10120 番号36766381

●銀行：口座名義 オフィス江戸幕府
第一勧業銀行 成増支店 普通口座 1682151

●現金書留●郵便為替
〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F
株式会社オフィス江戸幕府
UFOコンタクティー OVO マインドエンジン3係

●その他・波動製品を作るためのプロフェッショナルキットやヒーリングのプロのための特注キットなど制作に応じますのでご相談ください。

■オフィス江戸幕府は、マインドケアに関するあらゆる歴史、文化を研究し、広布するための法人として設立されました。宗教、思想団体とは一切関係なく、メディアへの協力、コンサルティング、セミナー企画、カウンセリング、グッズの開発などを行っています。また、社内にマインド・アンティーク(いやしを与えるアンティーク)の博物館(日本初)があり、アンティークをリーズナブルな価格で展示、販売しています。(要電話予約制)

株式会社オフィス江戸幕府

〒171 東京都豊島区長崎1-28-23 Muse 西池袋8・9F

TEL 03-3957-4999

FAX 03-3957-4940

TEL・FAX
24時間受付



●超稀少水晶、レコードキーバークリスタル、骸晶、レッドファントムクォーツ等、稀少鉱石を特別頒布します。詳しくはお問い合わせ下さい。